
戒戦隊ゴージャイジャーVSプリキュアオールスターズ2 プリキュアが敵！？世界の破壊者降臨！

キュアノア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海賊戦隊ゴーカイジャーVSプリキュアオールスターズ2 プリキュアが敵！？世界の破壊者降臨！

【Nコード】

N3772X

【作者名】

キュアノア

【あらすじ】

ある日、プリキュアの世界がハイパーショッカーの支配する世界になってしまった！プリキュアは謎の組織、ハイパーショッカーにより洗脳されてしまう。ひかりはゴーカイジャーの世界へ行き、マーベラス達にこの事を伝える。それを聞いたマーベラス達は再びプリキュアの世界へ行く事に・・・そして仮面ライダーディケイドやディエンド、クウガやキバラーにオールライダーやスーパー戦隊、キュアディリーやキュアエルス、更にプリキュアを力を使う事が出

来るキュアパイレーツが登場！プリキュアの世界を守るために立ち
向かえ！ゴーカイジャー！仮面ライダー！プリキュア！

プロローグ

とある場所

ブラック「ハア、ハア・・・」

キュアブラック、キュアホワイト、シャイニールミナス、キュアブライト、キュアウィンディ、キュアドリーム、キュアルージュ、キュアレモネード、キュアミント、キュアアクア、ミルキイローズ、キュアピーチ、キュアベリー、キュアパイン、キュアパッション、キュアブロッサム、キュアマリン、キュアサンシャイン、キュアムーンライト、キュアメロディ、キュアリズム、キュアビートはガラランダ、イカデビル、ヒルカメレオン、アポロガイスト、ジェネラルシャドウ、シャドームーン、ジャーク將軍と戦っていた。

ブライト「何なのこいつ等？」

ドリーム「強過ぎる。」

ピーチ「私達の技が通用しないなんて・・・」

ブロッサム「皆さん、まだ諦めちゃダメです！」

メロディ「そうだよ！きっと何か、弱点があるはず・・・」

ガラランダ「残念だが、俺達に弱点はない。」

アポロガイスト「その通りだ！さあ、おとなしくプリキュアの大いなる力を渡して貰おう！」

ピート「やっぱり、貴方達の狙いはプリキュアの大いなる力！」

ルミナス「プリキュアの大いなる力は、絶対に渡しません！」

ジェネラルシャドウ「ほう？ならば、力づくでも……」

ジェネラルシャドウ達はブラック達に近寄っていく。

ホワイト「ルミナス、此処は私達に任せてミップル達と一緒に逃げて！」

ルミナス「何を言ってるのですか！？そんな事私には出来ません！」

ウィンディ「ルミナス。気持ちは分かるけど、あいつ等の狙いはプリキュアの大いなる力なの！」

ルージュー「だから、あいつ等に渡す訳にはいかない！」

ルミナス「でも！」

イカデビル「お喋りは、そこまでだー！」

イカデビルはルミナスに向けて手からイカ爆弾を発射した。それを気付いたレモネードはルミナスを庇い、イカ爆弾に直撃した。

ルミナス「レモネード！」

レモネード「ルミナス、私達は……大丈夫です。」

ミント「レモネード！」

ミントは倒れそうになったレモネードを支える。

アクア「心配しないで。必ず帰って来るから。」

ローズ「そうよ。さあ、早くココ様やナッツ様達を……」

ルミナスはブラック達を見ると、ブラック達は首を下に降る。

ルミナス「皆……分かりました。必ず帰って来て下さい！」

ルミナスはポルン達を連れて、飛行態になったシロップの所に行く。

アポロガイスト「そうはさせん。」

アポロガイストはマグナムショットをルミナスに向けて発射しようとしたが、ベリー、パイン、パッションがアポロガイストを抑える。

ベリー「それはこっちの台詞よ！」

パイン「ルミナスやシフォンちゃん達には、指一本触れさせない！」

パッション「ルミナス！早く行って！」

ルミナス「皆……くっ！」

ルミナスはシロップに乗り、ココ達はミラクルライトの力を使うとワームホールが現れ、ルミナスとココ達はワームホールに入った。

シャドームーン「逃げたか。」

ジェネラルシャドウ「まあいいだろう。光の園のクイーンを後で捕まえればいい。」

ジャーク将軍「それもそうだな。」

マリン「それ、ホントに出来るの?」

ヒルカメレオン「何?」

サンシャイン「ルミナスを甘く見ないで。」

ムーンライト「ルミナスなら他の仲間を探してる頃よ。」

ジェネラルシャドウ「仲間だと?」

リズム「そうよ。ルミナスならきつと、私達と一緒に戦った仲間の所に。」

ブラック「皆、行くよ!」

全員「うん!」

アポロガイスト「おもしろい。まとめてかかってこい!」

ブラック達は走ると、ジェネラルシャドウ達は武器を構え、ブラック達はジェネラルシャドウ達とぶつかり合う。ジェネラルシャドウ達は何の目的でプリキュアの大いなる力を狙うのか!?今此処に、海賊戦隊ゴーカイジャーとプリキュアオールスターズ史上最大の危

機が始まるうとした。

海賊戦隊ゴーカイジャー VS プリキュアオールスターズ2 プリキ
ユアが敵！？世界の破壊者降臨！

プロローグ（後書き）

次回はゴークイジャー登場です。

第1話：世界の破壊者、現る！

ゴークイジャーの世界

マーベラス「・・・」

マーベラス達は少し体を休んでいた。マーベラス達は元の世界に戻ってからハリケンジャー、ジェットマン、ライブマン、オーレンジャーの大きいなる力を手に入れた。そしてハカセは、オーレンジャーの大きいなる力でオーレバズーカに似た新しい武器・ゴークイガレオンバスターが完成した。

ルカ「珍しいわね、マーベラスが落ち着いてるなんて・・・」

確かにマーベラスなら落ち着いていなかったが、今日は意外に落ち着いていた。

鎧「どうしたんですかマーベラスさん？何かあったのですか？」

マーベラス「別に・・・」

ジョー「もしかしたら、バスコの事か？」

マーベラス「違う。ただ・・・」

アイム「ただ？」

マーベラス「嫌な予感がするんだ。別世界で一緒に戦ったあいつ等が地球征服にする事を。」

ハカセ「え？」

鎧「マーベラスさん、別の世界で一緒に戦ったあいつ等ってまさか・
・・」

ジヨー「俺達と一緒にデスキングを倒したプリキュア達の事か？」

マーベラス達は以前、バスコの罠でプリキュアの世界に迷っていた。プリキュアの世界では世界を闇に変えようとしたジユダ。ジユダはゴークイレッドに敗北したが、ジユダは最後の力でデスキングを誕生させた。マーベラス達はプリキュアの大いなる力を手に入れ、プリキュアと一緒にデスキングを倒した。世界が平和になってから元の世界に戻った。

ルカ「地球征服？あいつ等がそんな事する訳ないじゃん。」

アイム「そうですよ。プリキュアさんは、地球や皆の笑顔をこれまで守って来ましたのですよ。」

マーベラス「だといいいんだがな。おい鳥、お宝ナビゲートだ。」

ナビィ「はいはい、レッツお宝ナビゲート！」

ナビィは飛び回ると、壁にゴツチンと頭に叩く。

ナビィ「な、何だろう？今日の占い、変だよ！」

ルカ「何が変なの？」

ナビィ「一つ目は『共に戦った少女達が悪の組織と手を組んで世界征服をする気だよ!』という占いだけど?」

ジヨー「確かに変過ぎる。」

鎧「師匠達が世界征服だなんてする訳ないですよ!ナビィさん、どういふ事ですか!?!」

ハカセ「鎧落ち着いて!」

鎧「あ、すみません。」

ナビィ「二つ目は『海賊のような少女がこの世界にやって来るよ!』だけど?」

アイム「海賊のような少女?」

マーベラス「・・・」

ナビィ「三つ目は『かぐめんライダーがこの世界にやって来る!』という物だよ。」

ルカ「かぐめんライダー?」

ジヨー「鎧、知ってるか?」

鎧「すみません、落ち着きがなくて中々喋れません。」

マーベラス「先ず、かぐめんライダーという奴を探すか。」

マーベラス達は外に出た。

その頃、街には写真館のような店があった。写真館の中にはピンク色みたいな二眼レフのトイカメラをぶらさがってる青年、門矢士と『夏海の世界』からやって来た光夏海と『クウガの世界』からやって来た小野寺ユウスケと『ディエンドの世界』からやって来た海東大樹がいた。彼等はスーパーショッカーを倒した後、士達は新たな旅へ行く事になった。

ユウスケ「それにしても、今度は何の世界だ？」

背景は海賊のような少女と空はゴークイガレオンが飛んでる事と2人の少女が怪人達と一緒にいる背景だった。

士「さあな。」

海東「・・・」

海東は海賊のような少女をずっと見つめていた。

夏海「大樹さん！どうしたのですか？」

海東「いや、何でもない。それより外に出よう。」

海東は外に出る。

ユウスケ「どうしたんだ？海東の奴。」

士「まああいつもこんな表情するだろ。とっとと行くぞ。」

士達は外に出た。

その頃、空からワームホールが現れ、中からルミナスとココロ達がやって来た。

シロップ「やっとゴーカイジャーの世界に着いたロブ！」

ルミナス「此処が……」

すると後ろから炎の光弾がシロップ達に向けて発射した。

フラッピ「な、何ラピ!？」

ワームホールから、オウムヤミーが現れた。

チヨッピ「こっちに来たチヨピ！」

タルト「シロップはん！フルスピードで振り切るんや！」

シロップ「言われなくても分かってるロプ！」

シロップはフルスピードを出し、オウムヤミーから振り切ろうとした。しかしオウムヤミーは炎の光弾を撃ちまくる。シロップは全部避けるが・・・

ルルン「ルル！？」

ポルン「あ、ルルン！」

ルルンはシロップのフルスピードが激し過ぎたせいでルルンは落ちた。それを見たポルンも落ちる。

ルミナス「ポルン！ルルン！」

ルミナスもポルンとルルンを助けるために落ちる。

メップル「ルミナス！」

シプレ「あ！シロップ危ないですう！」

シロップ「ロプ！？」

シロップはオウムヤミーの炎の光弾が羽に直撃した。

シロップ「しまったロプ！」

すると緑色の雷がシロップ達を捕らえた。

ハミィ「あ、あれは！」

ハミィは下を見ると、ビルの上にシャドームーンが乗っていた。

シフォン「プリップー！」

シフォンは超能力を使うが、反応はなかった。

シャドームーン「ムダだ。超能力では逃がれないぞ。」

ココ「ルミナス・・・」

シャドームーン「一緒に連れてって貰おう。」

ナッツ「・・・」

シャドームーンと捕らえた妖精達は消えた。

第2話：再会

ルミナス「ハア、ハア・・・」

ルミナスは落ちかけそうになったポルンとルルンを助け、地面に着陸した後に逃げようとしたが、後ろからカメバズーカと沢山のショットカー戦闘員達が現れ、ルミナスを襲う。

カメバズーカ「もう逃げられないぞ！ハアッ！」

カメバズーカは後ろにあるバズーカをルミナスに向けて攻撃したが、ルミナスは一足早く避け、ルミナスはカメバズーカとショットカー戦闘員達を振り切るため、逃げた。

カメバズーカ「逃がすな！追え！」

ショットカー戦闘員「イーツ！」

カメバズーカとショットカー戦闘員達はルミナスを追う。

ルミナス（ブラック、ホワイト！）

その頃、大いなる力を探しているマーベラス達は・・・

マーベラス「・・・」

ジヨー「マーベラス、まだ気になるのか？ナビィが言ったあの占いを・・・」

マーベラス「ったりめーだ。ひかり達が世界征服だなんてする訳ねえ。俺はあいつを信じてる。」

ルカ「珍しいね、マーベラスがそんな事言うなんて・・・」

確かにマーベラスならそんな事言わないはずだった。なのに今日のマーベラスはひかりが世界征服をする事はないと信じていた。

ハカセ「鎧、落ち着いた？」

鎧「すいません。まだ落ち着きが・・・」

アイルム「鎧さん、プリキュアの皆さんなら絶対大丈夫です。あの子達がプリキュアならきつと大丈夫です。信じましょう。」

鎧「アイルムさん・・・」

すると街に爆発が起こった。

全員「ん？」

ジヨー「ザンギヤックか？」

ハカセ「今度は何をやる気なんだ？」

アトム「とにかく行きましよう。」

マーベラス達は爆発した所へ向かった。

その頃、この世界のありかを探すために外に出た士達は……

夏海「今度は何の世界でしょうか？」

ユウスケ「何か此処懐かしいような気が……」

士「で、俺の役割は……なっ!？」

ユウスケ「え、士の服が……」

夏海「変わってません!」

確かに今までの世界に到着した後、役割の服を変わっていたが、今回は変わらなかった。

士「どういう事だ？」

海東「それより士、ライダーのいない世界って知ってる？」

士「は？」

ライダーのいない世界とは、以前士達はシンケンジャーの世界に旅をした事があった。

士「知ってるがそれが・・・まさか！」

海東「そう、この世界もライダーのいない世界だ。」

夏海「え？」

海東の言葉で夏海とユウスケは驚く。

ユウスケ「じゃあ此処は、シンケンジャーの世界なのか！」

海東「いや、シンケンジャーの世界に似てるけどシンケンジャーとは少し違う世界だよ。」

夏海「そんな・・・」

士「やれやれ、またライダーのいない世界か。」

すると、街に爆発が起こった。

ユウスケ「な、何だ？」

士「ライダーはいなくても怪人が存在してるって事は確かだな。行くぞ夏海、ユウスケ、海東。」

夏海「はい!」

ユウスケ「分かった!」

海東「僕に命令するな。何て言ってる場合じゃ・・・」

すると海東は何かを感じ、海東は周りの周辺を見る。

海東（この感覚は、まさか・・・）

士「海東、早くしないとお前を置いてくぞ!」

海東「今行く!」

士達は爆発した所へ向かった。すると木の陰に隠れて土達を見た男がいた。その男の名は鳴滝。又の名はゾル大佐。鳴滝はいわゆる変態・・・

鳴滝「変態言うな!おのれディケイド、まさかライダーの存在しない世界にライダーを存在してするつもりか?だがディケイド、此処がお前の最後の旅となる。」

鳴滝は灰色のカーテンに入ると、灰色のカーテンに入った鳴滝は消えた。

その頃、ルミナスは・・・

ルミナス「ハア、ハア・・・」

カメラズーカ「え〜いちよこまかと！喰らえー！」

カメラズーカはバズーカをルミナスに向けて連続発射する。ルミナスは逃げるが、最後の一発に足が直撃すると、バランスを崩れ、倒れ込む。ルミナスの足から血が流れ込んでいた。

ルミナス「うう〜・・・」

ルルン「ルミナス！」

ポルン「酷いポポ！どうしてそんな事をするんだポポ！」

カメラズーカ「悪いな。これもあの方からの命令だからな。さあおとなしくプリキュアの大きいなる力を渡せ！」

ルミナス「誰が貴方なんかと！」

カメラズーカ「ほう、そんなに死にたいか？ならば死ね！」

カメラズーカはルミナスに向けてバズーカを発射しようとした。

ルミナス（ブラック、ホワイト、マーベラスさん！）

ルミナスはもうダメかと思ったその時！

カメバズーカ「ぐおっ！ぐわー！」

カメバズーカの体から火花が沢山散るとカメバズーカは倒れた。

カメバズーカ「だ、誰だ！？」

ルミナス「ん、あゝ・・・」

ルミナスは後ろに振り向くと、ゴークイガンとゴークイスピアー・ガンモードを持ったマーベラス達がいた。

ルミナス「マーベラスさん！」

ハカセ「え、君ってまさか・・・ひかりちゃん！？」

ルカ「え、どういう事？」

マーベラスはルミナスの所に駆け寄る。

マーベラス「ひかり、よく頑張ったな。」

マーベラスはルミナスの頭を撫でる。

マーベラス「後は俺達任せろ。」

ルミナス「はい！」

マーベラス達はカメラズーカの前に立つ。

カメラズーカ「な、何だ貴様等は！？」

マーベラス「こっちが聞きたい。お前、ザンギャックか？」

カメラズーカ「は？ザンギャック？違うな。俺はハイパーシヨツカ
ーの部下・カメラズーカだ！」

アトム「ハイパーシヨツカー？」

ルカ「何かとんでもない奴が出て来ちゃったね。」

ハカセ「それに何だあの骸骨な黒い服を着た人達は？」

鎧「あれ、シヨツカーって確か・・・」

マーベラス「とつと片を付けるぞ。」

丁度士達がやって来た。

夏海「あの人は？」

ユウスケ「しかもあれ、カメラズーカじゃないか。何でこの世界に
？」

士「スーパーシヨツカーの仕業に違いないだろ。」

海東「ん？」

マーベラス達はレンジャーキーとモバイレッツを出し、鎧はレンジャーキーとゴークアイセルラーを出してからレンジャーキーをゴークアイセルラーに入れる。

「豪快チェンジ！」

マーベラス達はレンジャーキーをモバイレッツを前に出し、鎧はリダイアルを押してから前に出すと・・・

ゴークアイジャ―！

マーベラス達はゴークアイジャ―の姿に変わった。

ユウスケ「シンケンジャ―・・・じゃない！」

夏海「何ですかあれ？」

「ゴークアイレッド。」

「ゴークアイブルー。」

「ゴークアイイエロー。」

「ゴークアイグリーン。」

「ゴークアイピンク。」

「ゴークアイ・・・シルバー！」

「海賊戦隊……」

「ゴーカイジャー！」

ポルン「行けー！ゴーカイジャー！」

ルルン「頑張ってゴーカイジャー！」

士「ゴーカイジャーの世界か。」

士はゴーカイジャーの世界と語った。

第3話・ディケイド参上!

ゴークイレッド「派手に行くぜ!」

ゴークイレッドは台詞を言うとゴークイジャーはゴークイガンを撃ちまくる。

カメバズーカ「あたたたた!この野郎やったな!やれー!」

シヨツカー戦闘員「イーツ!」

シヨツカー戦闘員はゴークイジャーに突っ込んで行く。

ゴークイレッド「いきなりだがこれで行くぞ。」

ゴークイピンク「はい。」

ゴークイジャーはレンジャーバツクルからレンジャーキーを出す。

「豪快チェンジ!」

レンジャーキーをモバイレッツにさしてからモバイレッツを前に出すと・・・

ゴ〜レンジャー!

ゴークイシルバー以外のゴークイジャーはゴレンジャーに変わった。それを見た士達は・・・

ユウスケ「変わった！」

夏海「大樹さん、あれは何ですか？」

海東「あれは地球で初めて誕生した最初のスーパー戦隊、秘密戦隊ゴレンジャーさ。ゴークイジャーはレンジャーキーを使ってゴレンジャーや他のスーパー戦隊になれるのさ。」

ユウスケ「じゃああいつ等はシンケンジャーになれるのか？」

海東「勿論。」

士「成る程。まるで俺のようだな。」

ゴークイシルバー「あのく、俺の立場は……」

アカレンジャー「お前は他の奴に変身しろ。」

ゴークイシルバー「ハハ、やっぱそうですよね。じゃあ俺これで行きます。豪快チェンジ！」

ゴークイシルバーはレンジャーキーとゴークイセルラーを出し、レンジャーキーをゴークイセルラーに入れ、リダイヤルを押して前に出すと……

ゴークオンウイングス！

ゴークイシルバーからゴークオンゴールドに変わった。

カメラズーカ「それがどうした!？」

アカレンジャー「フン、アイム。ゴレンジャーハリケーンだ！」

モモレンジャー「はい。ゴレンジャーハリケーン、参ります。」

モモレンジャーはアメリカンフットボールのような物を出す。

アカレンジャー「よし、ゴレンジャーハリケーン・・・シヨッカー
戦闘員！」

アカレンジャーがそう言うともモレンジャー以外のゴレンジャーは
走った。

モモレンジャー「ハカセさん！」

モモレンジャーはミドレンジャーにパスをする。

ミドレンジャー「任せて、ルカ！」

ミドレンジャーはキレンジャーに向けて蹴るとキレンジャーにパス
をする。

キレンジャー「OK！ジョー！」

キレンジャーはアオレンジャーに向けてヘディングでアオレンジャ
ーにパスをする。

アオレンジャー「フッ！」

アオレンジャーはキャッチすると前に出す。

アオレンジャー「マーベラス！」

アオレンジャーがアカレンジャーを呼ぶとアカレンジャーは走ってからジャンプをする。

アカレンジャー「エンドボール！」

アカレンジャーはアメリカンフットボールを蹴ると、物凄いスピードで飛び、落ちるとショットカー戦闘員に変わった。

ショットカー^{ゴレンジャーハリケーン}戦闘員「イー！」

ショットカー戦闘員A「イ？」

ショットカー戦闘員B「イイ、イ？」

ショットカー戦闘員達は一体何が起こったのかは訳が分からなかった。ゴレンジャーハリケーンのショットカー戦闘員は口を開くと、吸収するかのよう^に沢山のショットカー戦闘員達は吸い込まれた。吸い込むが終わるとゴレンジャーハリケーンのショットカー戦闘員は消えた。

ゴオンゴールド「よし、俺も！アテンション、ウイングブラスター！」

ゴオンゴールドはウイングブラスターを構えると炎神オーラが現れた。

ゴオンゴールド「ブラスターフライト、ゴオン！」

ゴオンゴールドはブースターフライトでシヨツカー戦闘員を全滅させた。

夏海「凄い。」

士はトイカメラで写真を撮る。

士「それだったら俺達の出る幕はないな。」

ゴレンジャーとゴオンゴールドはゴークイジャーの姿に戻る。

カメラズーカ「え、ちよつタンマ！」

ゴークイレッド「よし、止めだ。」

ゴークイジャーはレンジャーキーとゴークイサーベルを出してからレンジャーキーをゴークイサーベルにさす。

ファイナルウェイブ！

ゴークイジャーは必殺技を発動する。

カメラズーカ「ちよつ、やめてー！」

ゴークイジャー「ゴークイスラッシュ！」

・
ゴークイジャーの必殺技・ゴークイスラッシュで決める。しかし・

カメラズーカ「嘘だよ〜ん」

カメラズーカは甲羅になるとゴークイストラッシュが弾き返した。

ゴークイブルー「何!？」

ゴークイエロー「弾き返した!？」

ゴークイシルバー「だったら久し振りの必殺技はどうだ!」

ゴークイシルバーはレンジャーキーとゴークイスパアー・ガンモードを出してからレンジャーキーをゴークイスパアー・ガンモードにさす。

フア〜イナルウェイ〜ブ!

ゴークイシルバーは必殺技を発動する。

ゴークイシルバー「ゴークイ・・・スーパーノヴァ!」

ゴークイシルバーは久し振りの必殺技・ゴークイスーパーノヴァで決めようとした。しかし・・・

カメラズーカ「同じ手を喰らうか!」

カメラズーカは再び甲羅になるとゴークイシルバーの必殺技を弾き返した。

ゴークイシルバー「そんな!」

ゴークイレッド「仕方ない、ゴークイガレオンバスターだ!」

ゴーカイジャーはレンジャーバツクルを押すと、光の粒が現れ、その粒は一つになるとゴーカイガレオンバスターとなった。

カメバズーカ「させるか！」

甲羅になったカメバズーカは体当たりでゴーカイジャーの必殺技を妨害する。

「うわあー！」

カメバズーカ「まだまだ！」

カメバズーカは再び体当たりでゴーカイジャーを喰らわせる。

ゴーカイイエロー「あゝもう、これじゃあゴーカイガレオンバスターが使えないじゃない！」

ゴーカイグリーン「何とかあいつの動きを止めないと……」

その頃、フラフラ状態のルミナスはゴーカイジャーを援護する為、必殺技の準備をする。

ルミナス「ルミナス！ハーティエル……」

ダメージを喰らい過ぎたせいかルミナスはバランスを崩すと、必殺技は消えた。

ポルン「ルミナス！大丈夫ポポ？」

ルルン「大丈夫ルル？」

ポルンとルルンはルミナスの所に駆け寄る。

ルミナス「ダメ、力が出ない。これじゃあマーベラスさんや皆を、助けられない！」

ルミナスは涙を流す。

ポルン「ルミナス・・・」

カメラズーカに苦戦してるゴーカイジャーをずっと見てる士達は・

ユウスケ「士！」

士「ハア、こういう時は俺の出番かよ？しょうがない。」

士はディケイドドライバーを出してからディケイドドライバーを腰にかけると、ベルトが装着する。バックルの両側にサイドハンドルの両方を引くと、バックルが90度に回転した。次に左腰にあるライドブッカーからディケイドのカードを出す。

士「変身！」

士はカードを裏返してからカードをバックルの中に入れてから・・・

カメンライド、ディケイド！

次にハンドルを押す事によって士はディケイドに変身した。

「デイケイド「ハアツ！」

「デイケイドはカメラズーカの前に立つ。

「ゴーカイブルー「何だあれは？」

「ゴーカイシルバー「あれ、あの人確か・・・」

「カメラズーカ「き、貴様はデイケイド！何故この世界に！？」

「ゴーカイピンク「デイケイド？」

「デイケイド「それはこつちが聞きたい。何故スーパーショットカーがゴーカイジャーの世界にいる？」

「カメラズーカ「残念だがデイケイド。我々はスーパーショットカーではない！新しく生まれ変わったハイパーショットカーだ！」

「デイケイド「ハイパーショットカーだと？」

「カメラズーカ「世界の破壊者デイケイド！貴様は俺が・・・」

「デイケイドはライドブツカーを手を取ってからガンモードにし、カメラズーカが話している最中に向けて発射した。

「カメラズーカ「あたっ！おい！俺の話聞け！」

「デイケイド「バーカ。お前が話していると、こつちは迷惑なんだよ。」

カメラズーカ「この野郎！許さんぞ！」

カメラズーカは甲羅になるとデイケイドに襲いかかる。デイケイドはライドブツカーからライドカードを出し、次にサイドハンドルを引くとバツクルが90度に回転した。

デイケイド「そんな甲羅なんか、吹き飛ばしてやる。」

カードを裏返してからライドカードをバツクルに入れてから・・・

カメンライド、キバ！

サイドハンドルを押すとバツクルは回転すると、デイケイドの姿から仮面ライダーキバに変わった。

ゴーカイグリーン「え、変わった！？」

次にDCDキバはライドブツカーからライドカードを出し、カードを裏返してからバツクルに入れる。

フォームライド、キバ！ドツガ！

サイドハンドルを押すとバツクルは回転し、DCDキバはドツガフォームになると、手からドツガハンマーが現れた。

カメラズーカ「喰らえー！」

甲羅になったカメラズーカはDCDキバに突撃する。

ゴーカイピンク「危ない！」

DCDキバ「てやー！」

DCDキバは何と野球のようにドツカハンマーでカメラズーカを吹っ飛ばした。

カメラズーカ「あああああああ！」

カメラズーカは壁に衝突！カメラズーカはフラフラになった。

DCDキバ「おい、さっさと決めろ。」

ゴークイレッド「何だがよく分かんねえが、助かるぜ。よし、止めだ！」

ゴークイレッドはゴークイガレオンバスターを構えた。ゴークイジャーはレンジャーキーを出してから左側にゴークイブルーとゴークイエローのレンジャーキーをさし、右側にゴークイグリーンとゴークイピンクのレンジャーキーをさし、真ん中にゴークイレッドのレンジャーキーをさすと、四つのレンジャーキーが上に上がる。

レックスドチャージ！

カメラズーカ「あ、ああ！」

「ゴークイガレオンバスター！」

ライジングストライク！

ゴークイバスターから発射されたゴークイガレオン型エネルギー弾

がカメラズーカに直撃すると、カメラズーカの体全体から沢山の火花が散る。

カメラズーカ「そんな・・・この俺がー！」

カメラズーカは倒れると、カメラズーカは爆発した。

ゴークイレッド「あ、ひかりー！」

ゴークイジャーは変身を解け、マーベラスはルミナスの所に駆け寄る。

マーベラス「大丈夫か？」

ルミナスはひかりに戻る。

ひかり「はい。あの、ありがとうございます。」

マーベラス「気にすんな。俺はただ、気にいらねえ奴を倒しただけだ。」

ひかり「それでも、ありがとうございます。」

マーベラス「だから・・・ん？」

するとマーベラスとひかりの目が合った。

ひかり「マーベラスさん・・・」

マーベラス「ひかり・・・」

それを見たポルンとルルンは・・・

ポルン「何かこの感じ、懐かしいポポ。」

ルルン「懐かしいルル。」

ジヨーはディケイドの方に振り向く。

ジヨー「あんだ、名は？」

ディケイド「俺か？俺は通りすがりの仮面ライダー。それだけだ。」

そう言うとディケイドは去った。

ルカ「ディケイド・・・か。」

アイム「取り敢えず、ガレオンに戻ってからひかりさんの手当てを・・・」

するとマーベラス達の近くに足音が聞こえた。その足音をした方へ振り向くと、服がボロボロで左腕から血が流れていたキュアビートがいた。

鎧「エレンちゃん！」

ビート「っ！」

ビートは倒れると、エレンの姿に戻る。マーベラス達はエレンの所に駆け寄る。

ひかり「エレンさん！大丈夫ですか？」

エレン「ええ、何とか……」

アイム「酷いケガ、一体何があったのですか！？」

エレン「ハア……皆、落ち着いて私の話を聞いて。響達が……」

ひかり「響さん達が、どうかしたのですか！？」

エレン「響達が、ハイパーシヨッカーに……攫われた。」

全員「えっ！？」

マーベラス達は驚きが隠せなかった。

第4話：ハイパーショッカー（前書き）

今回はゴークカイジャーとひかりは出ません。

第4話：ハイパーシヨツカー

ゴーカイジャーの世界

士達は光写真館に戻るが、夏海の祖父、光栄二郎の姿はなかった。

夏海「おじいちゃん？おじいちゃん！」

ユウスケ「まさかゴーカイジャーの世界にスーパーシヨツカーが……」

士「いや、あいつ等はハイパーシヨツカーと言ったそうだ。スーパーシヨツカーよりやばい組織かもな。」

ユウスケ「あいつ等、そんなに士を消したいのか？だけど士は……」

夏海「士君！見て下さい。背景が……」

士「ん、背景がどうかし……なっ!？」

士達は背景を見ると士達が見た背景とは少し変わっていた。その背景は、街内で十字架に捕われた士達とマーベラス達、そして21人の少女が十字架の前に立つ姿だった。

ユウスケ「背景が……変わってる!？」

士「どっとう事だ？この世界の役目はまだ終わってないはずだ！」

確かに役目が終われば次の世界へ行く時に背景は変わるはずだった。そう、士達は一度も役目を終わらず次の世界に行く事はなかった。

海東「要するに、ゴーカイジャーの世界を旅する事をやめて危機にさらされている世界へ行けて事か？」

????「その通りです。」

すると士達がいた写真館の場所が宇宙の場所に変わった。士達は後ろに振り向くと、そこには青年がいた。

士「説明しろ。何で役目が終わってないのに別の世界に行かなければならない？」

????「今から説明します。」

その頃、プリキュアの世界ではハイパーショッカーのアジトがあった。アジトの中には死神博士、地獄大使、ブラック將軍、アポロガイスト、ジェネラルシャドウ、シャドームーン、ジャーク將軍、そして沢山のショッカー戦闘員がいた。

ショッカー戦闘員「イッイッ！」

そこにシヨツカー戦闘員が慌ててアジトに帰って来た。

ブラック將軍「どうじゃ？光の園のクイーンは見つけたか？」

シヨツカー戦闘員「イッイッ。」

シヨツカー戦闘員はブラック將軍の耳元に近付いてからデイケイドが現れた事を話した。

ブラック將軍「何じゃと！？デイケイドが現れた！？」

それを聞いたジェネラルシャドウ達は驚く。

シヨツカー戦闘員「イッイッ！」

ブラック將軍「まだ他にあるのか？」

シヨツカー戦闘員はまたブラック將軍の耳元に近付いてからゴーカーイジャーに邪魔された事を話した。

ブラック將軍「何、ゴーカーイジャー？そんな奴等に邪魔されたのか？」

シヨツカー戦闘員「イッ！」

死神博士「ゴーカーイジャー……」

死神博士は何故かゴーカーイジャーの事を知っていた。

シャドームーン「知ってるのか？」

死神博士「ああ、黒十字王から聞いてな。ゴークイジャーは34のスーパー戦隊の力を使って宇宙帝国ザンギャックと戦っている。」

アポロガイスト「それだけではない。ゴークイジャーは大いなる力という物を探している。大いなる力を手に入れば使う事が出来る。」

ジエネラルシャドウ「ほう？という事はライダーよりも凄い奴等がいるという事か？」

地獄大使「ならばディケイドよりゴークイジャーという奴等を始末するべきでは？」

死神博士「いや、奴等を倒すのはまだ早い。」

ジャーク将軍「何故だ？」

死神博士「例えゴークイジャーを倒してもディケイドがいる。ディケイドとゴークイジャーと手を組めばこちらは不利となる。だがこういう時はあいつをゴークイジャーの世界に送ったのだ。」

ジャーク将軍「あいつ？」

ブラック将軍「死神博士、あいつとはまさか・・・」

死神博士「そう、今まで幸せを壊して来たあいつに化けてゴークイジャーの世界に送った。後はあいつがゴークイジャーとクイーンをこの世界に送ってから先にゴークイジャーを始末してからクイーンが持つてる大いなる力を奪うだけだ。」

シャドームーン「成る程。だがディケイドはどうする？」

死神博士「ディケイドなら必ずこの世界に来る。ディケイドもゴークイジャーと共に潰すだけだ。」

ジエネラルシャドウ「フン、ではゴークイジャーやディケイドの最期という事か？」

死神博士「そうだ。フフ、ゴークイジャーとクイーンをこの世界に送る事を頼んだぞ、蜂女。」

地獄大使「ではお前達も準備しろ！」

シヨツカー戦闘員達「イーツ！」

シヨツカー戦闘員達は『了解』のように『イーツ』と叫んだ。

第4話：ハイパーショッカー（後書き）

次回、プリキュアの世界に出発！

第5話：女神（前書き）

久々の更新です！今回は土達は出ません。

第5話：女神

夜の市街地

シヨツカー戦闘員「イーツ！」

シヨツカー戦闘員達は目の前にいる黄色い少女の前に倒れる。その少女の名はメイジャーランドの姫様でもある少女、キュアミューズ。その正体は調辺アコ。彼女はアフロディテに心配かけないように仮面で正体を隠したのだ。

ドドリー「ミューズ、あのオバサンがいないドド。」

ミューズ「え？」

ミューズはシヨツカー戦闘員に近付いてから胸ぐらを掴む。

ミューズ「教えて！あのオバサンは何処なの！？後、響達はどっしたの？」

シヨツカー戦闘員「し、知らん！言うもんか！」

ミューズ「ハッキリ言いなさい！オバサンは何処！？」

シヨツカー戦闘員「蜂女様ならゴーカイジャーの世界に行つたぜ。」

ミューズ「え？それってどういう事？」

シヨツカー戦闘員「光の園のクイーンはゴーカイジャーの所に逃げ

たのは知ってるだろ？だから蜂女様は黒川エレンという奴に化けて
ゴーカイジャーをプリキュアの世界をおびき寄せてから、ゴーカイ
ジャーを倒し、プリキュアの大いなる力を奪う。それがハイパーシ
ョッカーの作戦だ。」

ミューズ「何だって？ねえ、響達は一体・・・」

ショッカー戦闘員「イーツ！」

ショッカー戦闘員の背中からサーベルのような物に刺され、倒れた。

ミューズ「ドドリー、急いでゴーカイジャーの世界へ行くよ！」

ドドリー「分かったドド！」

するとミューズの前にワームホールが現れ、ミューズはワームホー
ルに入ると、ワームホールは消えた。ミューズは急いでゴーカイジ
ャーの世界へ行く事に。

ミューズ（早く急がないと、ゴーカイジャーが危ない！）

ゴーカイジャーの世界

マーベラス達は一旦ガレオンに戻ってから怪我を負ったひかりとエレンの手当てをした。

アイルム「大丈夫ですか？」

ひかり「あ、はい。」

エレン「・・・」

エレンはマーベラス達を見た。

エレン（フーン、これが海賊戦隊ゴーカイジャーか。死神博士によると色んなスーパージョー戦隊になる事やスーパージョー戦隊の大いなる力を使う事が出来るようね。ライダーよりしつこい奴のようね。）

ルカ「どうかしたの？」

エレン「ううん、何でもないわ。ありがとう、ルカ。」

ルカ「それ程でもないって。ん？」

ルカはエレンの首元にネックレスがかけられている事に気付く。

ルカ「ねえ、このネックレスは何？結構綺麗じゃない。」

エレン「え？あ、これは・・・」

ハカセ「ルカ、ネックレスよりひかりちゃんの説明を・・・」

ルカ「んな事分かってるよ。言われなくても・・・」

ジョー「・・・」

ジョーはエレンをずっと見ていた。

鎧「どうかしたんですか？ジョーさん。」

ジョー「いや・・・それよりコーヒを淹れるから待ってる。」

そう言うとジョーは何処かへ行った。

マーベラス「で、何でなぎさ達はハイパーショッカーにさらわれた？」

ナビィ「説明してくれない？」

ひかり「あ、その・・・」

ポルン「説明するポポ。ポルン達はいつも通り平和に暮らしていたポポ。」

なぎさ達がハイパーシヨッカーと戦う前・・・

なぎさ「今日も平和だね。」

ほのか「うん、そうね。」

今日は太陽が照らしていた。なぎさ達は学校が休みの為、タコカフエでたこ焼きを美味しくいただいていた。

なぎさ「やつぱたこ焼きは最高！」

メップル「なぐささ。」

するとハートフルコミュニケーションからメップルが出て来た。

メップル「今日は平和だからと言って何呑気でたこ焼き食ってるんだメポ？」

なぎさ「いいじゃん。私の勝手だから。」

メップル「よくないメポ。明日は宿題をやるって言ったのに宿題をやってないメポ。そんなんで大学を卒業出来るのかメポ？」

なぎさ「後で宿題をやればいいじゃん。ほのかは・・・。」

ほのか「出かける前にもう宿題やったよ？」

なぎさ「え？」

なぎさは啞然とした。

ミップル「ほのかの言ってる事はホントミポ。」

なぎさ「あ、そうなんだ。」

メップル「ほぐらなぎさも早くしないと大学を卒業出来ないメポ。」

「

なぎさ「うっさい！あ、そういえばひかりは？」

ほのか「あれ？変ね。もう少ししたら来るはずなのに・・・」

確かに時間がたてばひかりは来るはずだったが、ひかりは来なかった。しかも待つだけで30分過ぎていた。

なぎさ「どうしたんだろう?。」

メップル「なぎさ！何か嫌な予感がするメポ！」

ほのか「え?。」

ミップル「邪悪な力を感じるミポ！」

すると・・・

????「ハハハハハ！」

奇妙の笑い声が聞こえると空が暗くなった。

ほのか「な、何!?。」

「????「知りたいかね?」

なぎさ「だ、誰なの!?何処にいるの!?!」

「????「君達の後ろにいるよ。」

二人は後ろに振り向くと、イカのような怪人がいた。

なぎさ「イ、イカ!?!」

ほのか「貴方、何者!?!」

「????「ハハハ!俺はハイパーショッカーの幹部・イカデ、ビールだ!」

なぎさ「イカで……」

ほのか「ビール?」

二人は啞然としながら首を傾けた。

イカデビル「それより彼女の居場所を知りたいかい?」

なぎさ「当ったり前じゃない!」

ほのか「ひかりさんに何をしたの!?!」

イカデビル「連れてくれば分かるさ。生まれる前の世界に……」

なぎさ「は？」

二人はイカデビルが何を言ってるのか全く分からなかった。

ほのか「何を言ってるの？」

メップル「なぎさ、早く変身するメポ！」

なぎさ「ほのか。」

ほのか「うん。」

二人はハートフルコミュニケーションを使い、二人は手を繋いでから二人は手を空にあげる。

「デュアル・オーロラウェーブ！」

なぎさとほのかはプリキュアの姿に変わった。

「光の使者、キュアブラック！」

「光の使者、キュアホワイト！」

「ふたりはプリキュア！」

「闇の力の僕達よ！」

「とつととお家に帰りなさい！」

イカデビル「待っていたぞ、この時を！出でよ、ショッカーライト

「！」

イカデビルの右手にミラクルライトのようなアイテムが出た。ライトの矢先には驚が付いていた。

ブラック「ショッカーライト？」

ホワイト「ミップル、知ってる？」

ミップル「知らないミポ！あんなの初めて見るミポ！」

メップル「物凄いエネルギーを感じるメポ！」

イカデビル「ハァー！」

ショッカーライトが光ると物凄い光でブラックとホワイトを包む。

ブラック「な、何よこの光！？」

ホワイト「眩しい！」

光が消えると場所が変わっていた。二人はこの場所を知っていた。二人がいる場所は・・・遊園地。7年前、なぎさとほのかが初めてプリキュアに変身した場所だった。

ブラック「何で私達、遊園地に？」

ホワイト「何が一体、どうなってるの？」

「????」
「おっいー！」

そこに、ルミナスやブルーム達がやって来た。

ブラック「ルミナス！無事だったんだね！」

ルミナス「はい！でも何で遊園地に？」

ブラック「私達、何か変なイカと戦おうとしたらショックカーライトが光っててそれから・・・」

ドリーム「え、ブラックもなの？」

ブラック「え？だとしたら皆も・・・」

???「ハハハハハ！ハハハハハ！」

また奇妙な声が聞こえるとブラック達は警戒する。ブラックは上を振り向くと何かの光弾がブラック達に襲いかかり、ブラック達は悲鳴をあげ、ブラック達は倒れる。

メロディ「な、何？」

するとイカデビルが遊園地に現れた。

イカデビル「ハハハハ！ようこそ！プリキュアが誕生する前の世界へ！」

ルージュ「プリキュアが誕生する前の世界？」

アクア「どういう事!？」

????「話せば分かるさ。」

そこに、ガラガンダとヒルカメレオンとアポロガイストとジェネラルシャドウとシャドームーンとジャーク将軍が現れた。

パッション「貴方達は誰!？」

ジェネラルシャドウ「我々はハイパーショッカーだ。」

サンシャイン「やっぱり・・・貴方達の目的は何なの!？」

ジャーク将軍「フフフ、さあ?」

ムーンライト「貴方達の目的は何なのか知らないけど貴方達を倒すわ!」

シャドームーン「ほう?ならやってみる。」アポロガイスト「プリキュアは迷惑な存在だ。此処で消えさせて貰う。」

ローズ「迷惑なのはあんた達よ!」

ブルーム「そうよ!まだ・・・」

イーグレット「もうそれ言わせないよ?」

ブルーム「ア、アハハ・・・」

ブルームは『チョココロネがまだ食べてないから!』と言いかけようとしたが、イーグレットに止められた。

ベリー「ピーチも言わせないよ。」

ルージュ& amp; アクア「ドリームも。」

リズム「メロディもね。」

ホワイト「ブラックもこういつのやめてね?」

ピーチ「あ、バレてる?(汗)」

ドリーム「アハハ・・・(汗)」

メロディ「ごめん・・・(汗)」

ブラック「分かったからそこまで。」

アポロガイスト「ええ〜い!何時まで喋ってるつもりだ!?!そんなに食べ物が欲しいのか!?!」

イカデビル「ああ。確かに早くしないとイカは食べたいしビールも早く飲みたいの!」

全員「は?」

全員は啞然とした。

ブロッサム「そんな事、考えてたのですか?」

ガラガラランダ「イカデビル、それは後。」

イカデビル「アハハ、すみません。」

ルミナス（一体何の目的なの？）

ブラック「とにかくやるしかない！行くよ！」

全員「うん！」

ひかり「・・・」

マーベラス「それでどうしたんだ？」

ポルン「それからハイパーショッカーが強過ぎてプリキュアにも敵わなかったポポ。」

ハカセ「で、ショッカーライトって何なの？」

ルルン「ショッカーライトは知らないルル。ルルン達は初めて見たルル。」

ルカ「何それ？」

ポルン「ハイパーショッカーの目的はプリキュアの大いなる力だったポポ。だからなぎさ達はポルン達やひかりを逃がしてくれたポポ。」

ひかり「私はマーベラスさん達にこの事を伝える為に此処に来たんです。でも・・・」

鎧「でも、どうしたんですか？」

ひかり「ハイパーショッカーがゴージャーの世界に現れて私達を襲ってきたんです。ポルンとルルンは何とか守ったんです。」アム「他の妖精さん達は？」

ひかり「ハイパーショッカーに・・・」

ナビィ「そんな・・・」

ナビィは少し落ち込んでいた。

ルカ「ところでどうやってエレンは逃れたの？」

エレン「え？」

エレンの顔が焦った顔になった。

ルカ「どうかしたの？」

エレン「な、何でもないわ。(しまったー！考えるの忘れてたー！どうしようー!?)」

ジョー「エレン、コーヒーだ。」

ジョーはコーヒーをコップに入れてからエレンに渡す。

ルカ「あれ？ジョー、私のは？」

ジョー「ない。熱いうちに飲め。」

エレン「ありがとうございます。いただきます。」

エレンは早速コーヒーを飲んだ。

エレン「美味しい。ジョー、コーヒーありがとうございます。」

ジョーはゴーカイガンのエレンに向けた。

鎧「ジョーさん！何やってるんですか!？」

ジョー「お前、コーヒー熱くないのか？」

エレン「ちょっと熱いけど、このコーヒー美味しいわよ。だから何？」

ジョー「お前、猫舌じゃないのか？」

アイム「え？」

ジョー「エレンはメイジャーランドの歌姫、本当の姿はセイレーン。猫であるあいつが熱い物を飲むのは無理だ。」

ハカセ「そういえば確かに。」

ジヨー「それに、エレンは昔、ネックレスをつけて他の人間や黒猫に変身する事は出来るが、今のあいつはネックレスをつけてない。ネックレスがない限り、他の人や動物に化ける事は不可能だ。」

エレン「・・・」

ジヨー「さあ答える、お前は誰だ？」

エレンはもう限界を感じたかのように不気味な笑いをし始めた。

エレン？「ハア、よくぞ私を見破った。流石は元ザンギャックとでも言った方がいいかしら？」

ひかり「貴方はまさか、ハイパーショッカー!?」

エレン？「ご名答。私も、ハイパーショッカーよ。」

するとエレンの姿が蜂のような女性の姿に変わった。

蜂女「私は偉大なるハイパーショッカー親衛隊長、蜂女。」

マーベラス「蜂女?」

ひかり「なぎささん達はどうしたの!？」

蜂女「ああ、あの子達?もう敗北したわ。一人残らずね。」

ひかり「そんな・・・」

ひかりはショックを受け、地面に転ぶ。

蜂女「ゴークイジャー達をおびき寄せてから殺そうとしたけど、作戦は大失敗。でも、この世界で地獄に落ちなさい。」

マーベラス「やれるもんならやってみる。」

蜂女「フフツ。」

鎧「許せない。絶対に許せない！」

マーベラス達はレンジャーキーとモバイレーツを出し、鎧はレンジャーキーをゴークイセルラーに入れる。

マーベラス「鳥、ひかりを頼むぞ。」

ナビィ「分かった！」

「豪快チェンジ！」

ゴークイジャー！

マーベラス達はゴークイジャーに変身した。

第5話：女神（後書き）

次回、蜂女と対決！

第6話・ゴージャス＆amp・ミューズVS蜂女(前書き)

今回はオリジナルプリキュア登場！

第6話：ゴーカイジャー & ミュースVS蜂女

ゴーカイジャーと蜂女は場所を変えた。場所は・・・市街地。ゴーカイレッドはゴーカイサーベルで攻撃するが、蜂女のサーベルで受け止めてからサーベルに攻撃。ゴーカイレッドは吹っ飛ばす。するとゴーカイシルバーが蜂女に突っ込む。

ゴーカイシルバー「おりゃー！」

ゴーカイシルバーはゴーカイスピアで攻撃するが、蜂女のサーベルで受け止められた。

ゴーカイシルバー「師匠達は何処なんだ！？プリキュアの皆さんは何処に行ったんだ！？」

蜂女「ハア、そんなにプリキュアが心配？」

ゴーカイシルバー「当たり前だ！」

蜂女「そんなにプリキュアを救いたいなら救ってみなさい。でも、プリキュアは私達の僕になってるかもね。」

ゴーカイシルバー「え？」

ゴーカイシルバーは蜂女の言ってる事が全く分からなかった。

蜂女「フッ！」

ゴーカイシルバー「うわっ！」

ゴーカイシルバーは気を取られたせいかな蜂女の攻撃を受ける。

ゴーカイブルー「鎧！」

ゴーカイジャーはゴーカイシルバーの所に駆け寄る。

ゴーカイピンク「大丈夫ですか？」

ゴーカイシルバー「はい、大丈夫です。」

蜂女「フフツ。」

ゴーカイジャーはレンジャーバツクルからのレンジャーキーを出す。

ゴーカイシルバー「皆さん、拳法で行きますよ！」

ゴーカイシルバーはレンジャーキーをゴーカイセルラーに入れる。

ゴーカイレッド「よし。」

「豪快チェンジ！」

ゴーカイジャーはレンジャーキーをモバイレーツにさす。ゴーカイシルバーはリダイヤルを押す。

ダクイレンジャー！

ゴーカイシルバーはキバレンジャーに変身する。

キバレンジャー「キバレンジャー！」

ゲキレンジャー！

ゴークイジャーはゲキレンジャーに変わる。

キバレンジャー「ちょっと皆さん！それゲキレンジャーですよ！」

ゲキブルー「拳法だろ？」

キバレンジャー「いや、そうですけど。」

蜂女「ほう？これはおもしろいわね。」

ゲキレッド「行くぞ！」

ゲキレンジャーとキバレンジャーは蜂女との激しい戦いを繰り広げる。

その頃、士達は・・・

????「ゴークイジャーの世界にハイパーショッカーが現れた事は

知ってますね？」

士「ああ。そうだがそれがどうした？」

士達と話している青年の名は、キバの世界で仮面ライダーキバとしてファンガイアと戦った青年、紅渡だ。

渡「実はハイパーショッカーがゴークカイジャーの世界に来た理由があるんです。」

ユウスケ「来た理由って？」

渡「ハイパーショッカーは最初にプリキュアの世界に現れ、プリキュア達はハイパーショッカーと戦いますが余りの強さで敗北しかけようとしたんです。」

海東「プリキュアの世界・・・」

海東は知っていたかのように小さい言葉で喋る。

渡「ですが、プリキュアは大いなる力を持つてる光の園のクイーンをゴークカイジャーの世界へ逃したんです。」

夏海「大いなる力？」

海東「恐らくハイパーショッカーの目的は、プリキュアの大いなる力を奪う事・・・だろ？」

渡「はい。」

士「一体何の為に？」

渡「それは分かりません。ですが、プリキュアの世界が危機にさらされているのは確実です。だから……」

士「世界を救う為にプリキュアの世界へ行けって事か？」

渡「そうです。だからお願いします。」

士「分かった。ゴーカイジャーの世界を旅するのはやめてプリキュアの世界へ行かせて貰うぞ。」

渡「そのつもりです。後、ゴーカイジャーも頼みますよ。」

夏海「え、それって……」

すると何かが光り出すと、宇宙の場所が光写真館の場所に変わった。

????「ちよつと夏海。栄ちゃん見なかった？」

すると蝙蝠のような小っちゃいのがやって来た。蝙蝠の名はキバール。夏海のパートナーでもある。

夏海「キバール。」

キバール「もう栄ちゃんったら何処に行ったのよ。」

海東「……」

海東は写真を見ていた。その写真を写っているのは海東と赤い長髪

の少女だった。海東はこう言った。

海東（湊・・・）

その頃、ゴークイジャーは・・・

蜂女「フフツ。」

ゴークイレッド「あ・・・」

ゴークイジャーは何故か蜂女の前に倒れる。何故こんな事になったのか・・・そう。ゴークイジャーは蜂女の毒にやられたのだ。ゴークイジャーは戦っている時、蜂女の武器、ワルプフルーレに攻撃されてしまった事で毒がまわって来たのかと思った。しかし・・・

ゴークイグリーン「ん、あれ？」

ゴークイイエロー「何よ？何ともないじゃん。」

ゴークイジャーは何ともないように立ち上がった。

蜂女「ん、変だわ。このワルプフルーレの毒は数秒で死を迎えるは

ずなのに何故・・・あ！」

何とワルプフルーレは溶けたかのように消えたのだ。

蜂女「何が一体・・・」

すると・・・

???「残念だけど、アンタの武器はないわ。」

蜂女「な、何者!?!」

空から黄色い少女、キュアミューズが現れた。

蜂女「アンタは!」

ミューズ「やっぱり此処にいたのね。オバサン。」

蜂女「オ、オバ・・・」

蜂女はミューズにオバサンと言われ、蜂女はカンカンに怒りそうな感じだった。

ミューズ「でもゴーカイジャーが無事でよかった。」

ゴーカイピンク「貴方は?」

ゴーカイブルー「見ない顔だが?」

ミューズ「あ、そっか。ゴーカイジャーは私と会うのは初めてだっ

け？私は・・・爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

ゴークアイシルバー「キュアミューズ!？」

ゴークアイグリーン「ちょっと待って。ミューズって仮面を付けたミューズじゃないの？」

ミューズ「あ、それは・・・」

ドドリー「ミューズ。その話は後にするドド！」

ミューズ「あ、そうだったね！」

蜂女「いつの間にワルプフルーレを偽物に変えたの!？」

ミューズ「あの時・・・」

蜂女がゴークアイジャーの世界へ行く前・・・

ミューズ「フッ！」

蜂女「なっ!」

ミューズはキックで蜂女の武器、ワルプフルーレを落としてから次の攻撃で蜂女は壁に激突。その隙にミューズはワルプフルーレをキックで破壊し、更にミューズはピアノのような虹色な物を出し、ピアノを弾くと偽物のワルプフルーレが現れた。蜂女はワルプフルーレが偽物だと知らずにゴークアイジャーの世界へ行っただ。

元の場所

蜂女「おのれ〜！」

ミューズ「残念だったねオバサン。此処で貴方を倒させて貰うわ。おいで、シリー！」

シリー「シシー！」

そこにシリーが現れ、シリーはキュアモジュールにセットする。

ミューズ「シ、の音符のシャイニングメロディ！」

ミューズの後ろから沢山の音符が現れた。

ミューズ「プリキュア！スパークリングシャワー！」

沢山の音符が蜂女に向けて発射し、蜂女は避ける暇もなく、沢山の音符が蜂女の体に包み込む。

ミューズ「三拍子！1、2、3！フィナーレ！」

すると蜂女から爆発が起こった。

蜂女「ぐっ〜！」

蜂女はボロボロ情態になった。

ゴーカイブルー「まだ生きてるのか!？」

ゴーカイイエロー「どんだけやる気なの!？」

蜂女「まだまだよ！」

ミューズ「響達は何処なの！？それを教えて！」

蜂女「フツ、教える訳・・・グハツ！」

ゴーカイジャー「！」

すると蜂女の体が誰かの腕に貫通される。蜂女は後ろに振り向くと、驚のような黒い服と髪は腰まで長い黒髪の少女がいた。少女の背中には黒い羽と腰にはシヨツカーのベルトがつけていた。そこにひかりが現れ、ひかりは様子を見ると・・・

ひかり「あれは、プリキュア？」

蜂女「どう・・・して？」

????「貴方はもう・・・用済みよ。」

すると蜂女の体が光り出すと、蜂女は光の粒子となって消えた。

ゴーカイレッド「テメエ、ナニモンだ!？」

????「・・・」

ゴーカイイエロー「ちょっと！何か喋りなさいよ!！」

????「貴方達がゴーカイジャー?」

ゴークaipink「はい。そうですが？」

ゴークaiblu「それがどうした？」

????「貴方達に報告する。プリキュアと関わるな。」

ゴークaisilba「え？」

ミューズ「それってどういう意味なの!？」

????「もうじき分かるよ。それと・・・」

黒い少女の手からショットカーライトを出し、黒い少女はショットカーライトをゴークailettoに投げ渡す。

????「ショットカーライトを貴方に渡すわ。ショットカーライトは別世界や未来と過去へ行く事が可能よ。」

ゴークailetto「・・・」

ゴークailettoは黒い少女の目を合わせる。

????「自己紹介まだだったわね？私の名は・・・ショットカープリキュア。」

ショットカープリキュアと名乗った黒い服の少女はこの場から立ち去った。

ゴークailetto「ショットカー・・・プリキュア。」

た。ゴーカイレッドは手元になるショックカーライトをじっと見つめてい

第6話・ゴージャス&ミニーズVS蜂女(後書き)

シヨッカープリキュアはシヨッカーグリードのモチーフをしております。

第7話：いざ、プリキュアの世界へ！

ゴーカイジャーの世界

マーベラス達はゴーカイガレオンに戻ってから、アコはマーベラス達に自己紹介をした。マーベラスはショッカープリキュアから貰ったショッカーライトを見つめていた。

マーベラス「……」

ショッカープリキュア『私の名は……ショッカープリキュア。』

マーベラス「……」

マーベラスは拳を握り閉める。

マーベラス「ショッカー……プリキュア。」

ひかり「マーベラスさん。」

ルカ「ねえ、あのプリキュア……あたし達の味方かな？」

ハカセ「いや、そんな風に見えなかったよ。」

鎧「だとすれば、敵……ですかね？」

アイム「でも何だかあの子、凄く悲しいような顔でした。」

アイムはショッカープリキュアの目を見た時、とても悲しかったよ

うな顔と省く。

アコ「ねえ、アイムだっけ？どうしてそう思うの？」

アイム「きつと、あの子の過去に何かあったかもしれません。」

ナビィ「ねえ皆。何かあつちの方、うるさくない？」

ハカセ「え？」

確かに何かの声が聞こえる。前はあんなにうるさくなかったのだ。

ジヨー「誰かいるそうだな。」

ジヨーは扉を開くと、何と光写真館があった。

士「夏海！ハハハ・・・笑いのツボはやめろって・・・ハハ、言ってるだろ！」

夏海「士君が変な事言うからですよ。」

士「ったく、ん？お前等は・・・」

ジヨー「お前、誰だ？」

ユウスケ「え、此処何処？」

ルカ「写真館？こんな所に写真館あつたっけ？」

ハカセ「いや、写真館があるなんてそんな事は・・・」

海東「君達がゴーカイジャーかい？」

マーベラス「誰だ？」

海東「僕は海東大樹。又は仮面ライダーディエンドだ。」

鎧「ディエンド？」

海東「で、彼が門矢士。又は世界の破壊者、仮面ライダーディケイドだ。」

士「おい海東！」

士は海東がいきなり世界の破壊者が言われ、海東を殴ろうとした。しかし……

ルカ「ディケイドって……ああ！さっきあたし達を助けてくれたピンク色なバーコードな人！」

士「ディケイドはピンクでもないしバーコードでもない！マゼンダだ！」

ハカセ「まさかあれ、君なんだね！」

士「あ、ああ。」

アイム「まさかバーコードの人が貴方だったなんて……」

士「だからバーコードじゃ……」

アコ「ディケイド・・・まさか、あのディケイド!」

するとアコがディケイドの事を知っていたかのように省いた。

マーベラス「知ってんのか?」

ひかり「世界の破壊者ディケイドはこれまで他の世界を破壊しようとしたのです。」

ルカ「え?」

するとひかりがディケイドの事をマーベラス達に話す。

ひかり「彼はこの世界の悪魔です。」

ナビィ「ええ〜!?!」

ポルン「悪魔ポポ!?!」

ルルン「悪魔ルル!?!」

士「また俺の事悪魔扱いかよ?」

ジョー「ホントにお前、悪魔なのか?」

士「だつたら何だ?」

ジョー「お前を斬る。」

ジヨーはレンジャーキーを出す。

士「フツ、いいだろう?」

士はカードを出す。

ルカ「ジヨー。ちょっと・・・」

夏海「二人とも、いい加減にして下さい!」

夏海は親指を立ててから、二人の首を突く。

士「アツハハハハ!だからそれやめろって言ってるだろ!」

ジヨー「ククク、何をした?」

ジヨーは不気味な笑いをし始めた。

ハカセ「ジヨー、大丈夫?」

夏海「とにかく私の話、聞いて下さい!」

夏海はディケイドの事を話した。

アコ「そうだったんだ。勘違いしてしまっでごめんなさい。」

夏海「いえ、気にしてません。」

アイム「ところで貴方達は一体?」

ユウスケ「俺は小野寺ユウスケ。又は仮面ライダークウガだ。」

夏海「私は光夏海。又は仮面ライダーキバーラです。」

ルカ「フーン、仮面ライダーか。」

鎧「あ！思い出した！二年前一度だけシンケンジャーと一緒に戦った事がある仮面ライダー！」

士「成る程。よっぽどシンケンジャーの事詳しいようだな。」

ルカ「それは勿論、シンケンジャーのレンジャーキーがあるんだもん。」

士「レンジャーキーか。」

マーベラス「ん？」

するとシヨツカーライトが光り出した。

アコ「あ、シヨツカーライトが・・・」

ポルン「光ってるポポ。」

ライトから道のような虹色のレールが現れ、まっすぐ通りかかるとワームホールが現れた。

ユウスケ「何だあれ？」

キバーラ「あれはワームホールよ。」

そこにキバーラがやって来た。

ハカセ「え、え？」

ハカセはキバーラを見て驚いていた。

海東「そういう事か。」

ユウスケ「え、何が？」

海東「つまり僕達仮面ライダーや海賊共と協力し、プリキュアの世
界を救う事が役割だそうだ。」

士「そうか。だからそれで・・・」

マーベラス「何でプリキュアを知ってる？」

海東「君達には関係ないよ。」

マーベラス「なんだと？」

マーベラスは海東の所へ寄ろうとしたが・・・

ルカ「マーベラス、落ち着いて。あんな、海賊の事嫌いななの？」

海東「・・・」

ルカ「ねえ、答えて。」

士「海東！」

海東「僕は海賊なんか興味ないね。」

海東は此処から去る。

ハカセ「興味ないって……」

ジヨー（あいつ……）

ひかり「それよりマーベラスさん、お願いします。プリキュアの世
界へ行きましょう！」

アコ「皆を救いたいので！だからお願い！」

マーベラス「……」

ジヨー達は首を下に降る。

マーベラス「分かった。お前の頼みなら、行ってやるぜ。」

ひかり「マーベラスさん！」

アコ「貴方達はどうするの？」

士「行くに決まってるんだろ。どうもハイパーショッカーの奴等が気
に入らねえな。」

ユウスケ「俺も行くよ。」

夏海「勿論私も！」

キバーラ「私も行くよ」

ひかり「仮面ライダーの皆さん。」

マーベラス「よし、とりかじいっばい。プリキュアの世界へ行くぞ！」

ゴーカイガレオンはプリキュアの世界を守る為、再びプリキュアの世界へ旅たつ事になった。すると街からゴーカイガレオンを見ていた赤い海賊の衣装を纏い、赤い長髪の眼帯の少女が現れた。

???「ゴーカイジャーと仮面ライダーがプリキュアの世界に・・・ハア、しょうがない。渡の言う通り、助っ人を頼みに行くか。」

少女は灰色のカーテンに入り、灰色のカーテンに入った少女は消えた。

番外編：シヨッカープリキュア

レジェンド大戦。それは宇宙帝国ザンギャックが地球を襲い始めた。

ゴーミン「ゴー！」

スゴーミン「スゴー！」

ゴーミンとスゴーミン達は人々を襲い始めた。人々はパニック状態であった。父と母、5歳の少女はガレキの下に隠れた。

父親「逃げる！」

???「嫌！私一人になるの嫌！」

母親「そんなに死にたいの？私達だって死にたくない。でも娘だけは絶対にダメなの。だから逃げて！」

???「でも！」

スゴーミン「おい！人間がいたぞ！始末しろ！」

ゴーミン「ゴー！」

母親「貴方は生きて！生きてスーパー戦隊の助けを待って！」

???「・・・」

父親「行けー！」

少女は親を離れて逃げた。父と母は娘を守る為、ゴーミンとスゴミンの足止めをするが・・・

父親「うわあー！」

母親「キヤアー！」

父と母はザンギャックに殺されてしまった。

????「パパー！ママー！」

調度その頃、ゴセイジャーが現れ、ザンギャックに立ち向かうが、余りの強さで苦戦した。ゴセイジャーのピンチにアカレンジャーやビックワン、シグナルマン達が駆け付け、ゴセイジャーはアカレンジャーやビックワンと共に他のスーパー戦隊の所に向かう。34のスーパー戦隊は全ての力を結集し、ザンギャックの艦隊は全滅したがそれと同時にスーパー戦隊の力は失った。少女は壊れかけたビルの所で立ち止まっていた。

????「何で？何でスーパー戦隊はパパとママを助けなかったの？何で？」

少女は涙を大粒に流し、スーパー戦隊が両親を救えなかった事を恨んでおった。そして少女はこう言った。

????「許せない。スーパー戦隊！いつか復讐してやる！パパとママを助けなかった事を私が復讐してやる！うわあー！」

少女は街中まで叫び声が響き渡った。

シヨツカープリキュア「！」

シヨツカープリキュアは目を覚ます。

シヨツカープリキュア「夢？」

するとシヨツカー戦闘員が現れ、戦闘員はシヨツカープリキュアにシヨツカー首領が呼んでる事を伝えた。それを聞いたシヨツカープリキュアはシヨツカー首領の所へ。シヨツカープリキュアはしゃがむ。すると足音がゆっくりとシヨツカープリキュアの所へ近寄る。その正体はシヨツカー首領がだった。

首領「どうだシヨツカープリキュア？ゴークイジャーや光の園のクインをプリキュアの世界を上手く誘き寄せたか？」

シヨツカープリキュア「はい。ゴークイジャーはシヨツカーライトを使い、ゴークイジャーはプリキュアの世界へ行きました。」

首領「そうか。それとシヨツカープリキュアよ。」

シヨツカープリキュア「何でしょうか？首領。」

首領「家族の復讐を果たす時が近付いて来たんだ。いいかシヨツカープリキュア？21人のプリキュアの力と合わせ、スーパー戦隊の力を使っているゴーカイジャーを倒せ。ただし失敗は許されないぞ！」

シヨツカープリキュア「はっ！」

シヨツカープリキュアは立ち、この場から去ろうとした。

シヨツカープリキュア（スーパー戦隊。いつか私の恨み、今こそ果たしてやる！）

シヨツカープリキュアの体が光ると、シヨツカープリキュアは人間の姿に戻った。

第8話：プリキュアの世界、再び！

プリキュアの世界

すると空からワームホールが現れ、ワームホールからゴーカイガレオンが出て来た。マーベラス達は士達にプリキュアの世界に体験した話を話し、ジユダがプリキュアの世界を闇の世界に変えようとした。だがゴーカイジャーとプリキュアによってジユダは滅び去った。ジユダが滅び去ってからゴーカイジャーは自分達の世界へ帰った。士は少し納得した。マーベラス達はステージの所に降りた。

士「ん、海東の奴はどうしたんだ？」

士は海東の姿が見当たらない事に気付いた。

ユウスケ「それがさ、海東の奴、一人でこの世界を探るって……」

夏海「大樹さんが？」

士「あいつ勝手な事を……」

ルカ「で、あんた達はどうすんの？」

士「俺達は別の場所を探す。この世界にハイパーショットカーがいるかどうか探したいでな。行くぞ。」

士達は一旦マーベラス達と別れた。士達はこの世界にハイパーショットカーがいる事を探す為に……

ハカセ「行っちゃったね。」

アイム「あの人もきつとハイパーショッカーにとっても関わってるよ
うですね。」

マーベラス「・・・」

鎧「マーベラスさん、どうかしたのですか？」

マーベラス「どうも気に入らねえな。」

ひかり「え？」

ポルン「何が気に入らないポポ？」

ジヨー「マーベラス、お前まさかハイパーショッカーという奴がプ
リキュアの世界がいないって事が・・・」

マーベラス「ちげえよ。」

アコ「は？あんた何が違うって言うの？」

マーベラス「静か過ぎるんだよ。此処・・・」

アコ「え？」

マーベラスの言う通り、此処は静か過ぎる。確かに人の気配はない。
街は何時の間にかショットカーの映像が全部の街に映っていた。

鎧「何だよこれ？街が・・・」

アコ「此処って私達の世界？」

ルカ「これって・・・夢なの？イテテテテテ！」

ポルンはルカの頬を引つ張った。ルカはポルンを掴む。

ルカ「ちよつと何すんのよ!？」

ポルン「これは夢じゃないポポ！現実ポポ！」

ジョー「確かに、これは夢じゃないな。」

ひかり「まさか、私達の世界がハイパーショッカーに！」

アイム「ひかりさん、落ち着いて下さい。」

ハカセ「そつだよ。きつと何かの間違いなはずだよ。」

すると・・・

????「お兄ちゃん達。」

マーベラス「ん？」

マーベラス達は後ろに振り向くと・・・

その頃、士達は・・・

士「おいおい、一体何がどうなってんだ？この世界は・・・」

士達はプリキュアの世界を調べると、街は全てハイパーショッカーの映像が映り出した。人の気配も全くなかった。

ユウスケ「やっぱりこの世界はハイパーショッカーに・・・」

夏海「・・・」

ユウスケ「夏海ちゃん、どうかしたの？」

夏海「いえ、大樹さんの事気になってて。」

士「あいつの事なら大丈夫だろ。多分な。」

ユウスケ「おい士、多分ってないだろ。海東は俺達の仲間なんだぞ。」

すると14歳のような少女が現れ、少女は士の背中に隠れる。

士「おい、どうした？」

????「助けて。」

夏海「え、助けてって？」

????「追ってくるの、怪人が・・・」

ユウスケ「え、怪人？」

士達の前に、沢山のショッカー戦闘員達と十面鬼、ドラスが現れた。

十面鬼「久し振りだな、デイケイド。」

ユウスケ「お前は！」

士「十面鬼。」

かつてアマゾンの世界でデイケイドやディエンド、アマゾンの手で倒したはずだった。

十面鬼「その小娘を渡して貰おうか？」

夏海「小娘ってこの子の事？」

少女は怪人に怯えていた。

士「成る程。何されたかは知らんが、そうはいかねえな。」

ユウスケ「これ以上、誰かを傷付けるのは見たくない。傷付ける奴は、俺が許さない。」

夏海「私も、貴方達の事は許せません。」

「????」そこまで言うのかね？夏海君。」

士達は後ろに振り向くと、ゾル大佐の姿をした鳴滝がいた。

夏海「貴方は？」

士「まだディケイドを倒したいのか？変態。」

鳴滝「変態ではない！私は鳴滝だ！」

ユウスケ「いや、どう見ても貴方変態じゃないですか。」

夏海「そうですよね。鳴滝さん、少女アニメを毎週欠かさず見てるようですよ。」

鳴滝「うるさい！夏海君、我々と一緒に来い！おじいちゃんも待っておるぞ！」

夏海「おじいちゃんってまさか！」

士「テメエ、まさかじいさんを！」

鳴滝「そうだ！だから……」

十面鬼「黙れこのストーカー！」

十面鬼は鳴滝に向けて衝撃波を放った。鳴滝は喰らうと空まで吹っ飛んだ。

鳴滝「私は変態でもないしストーカーでもない！」

鳴滝は星になった。

士「やっとあの変態がいなくなったか。ご苦労だな。」

十面鬼「フン、我々ハイパーショッカーはあんな変態な奴に仲間になる必要はない。」

士「だよな。お前は逃げる。」

????「うん。」

少女は士達の所を離れた。

士「行くぞ。」

士はデイケイドのカードを出す。ユウスケは両手を腰を前に出すと、アークルが現れた。

夏海「キバーラ。」

そこにキバーラがやって来た。

キバーラ「フフツ、久し振りに行くよ。」

夏海はキバーラを掴む。

「「「変身!」」」

カメンライド、ディケイド！

士はカードを裏向いてからドライバーを入れ、バックルを押すと士は仮面ライダーディケイドの姿、ユウスケは左側にあるスイッチを押すと、ユウスケは仮面ライダークウガの姿、夏海はキバラーを前に出すと夏海の額にハートが現れ、夏海は仮面ライダーキバラーの姿に変わった。

十面鬼「ほう、新しいライダーも加わったか？おもしろい。」

ディケイド「フン。」

ディケイドはライドブックをソードモードに変えた。壁に隠れながらディケイドの戦いを見ていた少女は、ニヤツと笑った。

第9話：シヨッカープリキュアの正体

何とマーベラス達に声をかけた正体は・・・

ジヨー「あなたは、確か咲の妹の・・・」

ひかり「みのりちゃん！」

咲の妹、みのりだった。ひかりはみのりがプリキュアの世界がどうなってるのか聞いてみる事に・・・

ひかり「みのりちゃん！此処は一体どうなってるの!?!?」

みのり「・・・」

マーベラス「どうした？何か言えよ。」

するとマーベラス達の後ろから二人の少年がマーベラス達に近寄って来た。それを気付いたジヨーとルカは二人の少年の腕を掴む。

???「イテテテテ！」

???「ちよつと離してよ！」

鎧「ん？」

マーベラス達は声をした方へ振り向くと・・・

ルカ「あんた達誰？あたし達に何の用？」

「????」「痛いつて離せよ!」

アコ「あ、奏太!」

ひかり「亮太君!」

マーベラス達に近付いた二人の少年は、なぎさの弟、亮太と奏の弟、奏太だ。

アイム「知ってるのですか?」

アコ「うん。ジヨー、ルカ。二人を離して。」

ジヨー「だが・・・」

ひかり「お願いです、二人とも。」

ルカ「ハア、しょうがないか。」

そう言うとジヨーとルカは二人を離れた。

ジヨー「行け。」

奏太「あ、ああ。二人とも、行こうぜ。」

そう言うと亮太とみのり、奏太はマーベラス達から離れた。

ハカセ「う、ん、何だったんだろううあれ?」

鎧「つていつか皆さん、いいんですか？この世界がどうなっているのかを話さないままで……」

マーベラス「別にいいだろ？それに、ハイパーショッカーの奴等は俺達で捜さなきゃならないからな。」

ルカ「つたく、素直じゃないね。」

その頃、マーベラス達の所に離れた亮太達の手は五つのモバイルレッツとゴーカイセルラーがあつた。

亮太「ねえ奏太、これでいいの？」

奏太「まあね。」

みのり「それにしても不思議な携帯だね。」

するとマーベラス達はモバイルレッツとゴーカイセルラーがない事に気付く。

ハカセ「あれ、モバイルレッツがない!」

鎧「俺のゴーカイセルラーも!」

ルカ「まさか!」

ジヨー「あいつ等……」

マーベラス「野郎!」

マーベラス達は亮太達を追い掛ける。

亮太「ヤバッ、気付かれた！」

奏太「逃げるぞ！」

それを気付いた亮太達はマーベラス達から逃れようとする。

マーベラス「待てー！」

アコ「待つて奏太！」

マーベラス達は亮太達をずっと追い掛けると、そこにはプリキュアの世界には見た事がないジャンクな街があった。

鎧「え、何すかこれ？」

ハカセ「こんな所にジャンクな街があったっけ？」

マーベラス「知るか！」

ひかり「取り敢えず亮太君達を！」

マーベラス達は亮太達をずっと追い掛けた。すると五台のパトカーがマーベラス達の前に止まった。警察官はパトカーから降りた。

ハカセ「け、警察！？」

ルカ「ちよっとそこを退きなさいよ！あの子達が逃げちゃうじゃない！」

すると警察官はルカに近付くと、何と警察官はルカを殴った。殴られたルカは地面に倒れる。

ハカセ「ルカ！」

警察官A「ショッカー警察に歯向かうとはいい度胸してるな。」

アイム「貴方達こそ、いきなりルカさんを殴るなんて酷いじゃないですか！」

警察官A「フン、お前達を連行する。」

アコ「え？」

すると警察官達はマーベラス達を抑えた。

鎧「街つて下さい！俺達は何もしてないですよ！」

マーベラス「わりいな、逮捕は二度とごめんだぜ。」

マーベラス達は警察官達を投げ払い、マーベラス達は警察官から逃れようとした。

警察官B「追え！追え！」

すると警察官達はショッカー戦闘員になり、二人の警察官はナスカドーパント、ウェザードーパントに変身した。

ハカセ「え〜何がどうなってるの!?!」

ルカ「マーベラス、どうすんの？」

マーベラス「一旦逃げるぞ。モバイレッツなしじゃちよっとキツいからな。」

アイム「はい。」

マーベラス達はゴーカイガンを地面に向けて連続発射し、地面から火花が沢山散った。火花がはれるとマーベラス達の姿はなかった。

ウエザー「くっ、逃げたか。」

ナスカ「まあいい。明日あいつ等を捜そう。」

ウエザー「明日？何故だ？」

ナスカ「もうすぐ日が暮れるからだ。」

ウエザー「そうだったな。お前等、帰るぞ。」

シヨツカー戦闘員「イーツ！」

そう言うとウエザーとナスカとシヨツカー戦闘員達は消えた。

その頃、シヨッカー警察から逃れたマーベラス達は道路の所まで止まった。

ルカ「もう追って来ないの？」

ハカセ「うん、そうみたい。」

ひかり「一体私達の世界に何が・・・」

ポルン「長老や番人も大丈夫ポポ？」

アコ「きっと大丈夫。あの人達はそう簡単にやられたりはしないから。」

ひかり「はい、そうだと思いますね。」

ジョー「それより何処かに暮らせる所はどうする？」

ルカ「ゴーカイガレオンを呼びたいけどモバイレーツがないと叫べないし・・・」

アコ「だったら調べの館はどう？」

アイム「調べの館？」

アコ「うん。あそこだったらきっと大丈夫なはずよ。」

マーベラス「本当だな？」

アコ「うん。」

マーベラス「よし、調べの館へ行くぞ！」

鎧「はい！」

マーベラス達は急いで調べの館へ向かった。

その頃、ディケイドは・・・

十面鬼「ぐあっ！」

十面鬼はディケイドの強さで倒れた。ディケイドはライドブッカー・ソードモードを十面鬼に向ける。

ディケイド「俺の勝ちだな、十面鬼。」

十面鬼「くっ！」

ディケイド「さっさと教えて貰おうか？この世界は一体どうなって

いる？」

十面鬼「フ、フフフ・・・」

ディケイド「何がおかしい？」

十面鬼「何がって？フン、どうやら形勢逆転のようだな。」

ディケイド「何？」

すると・・・

クウガ「うわああああ！」

キバーラ「きゃああああ！」

クウガとキバーラは何かの光弾で喰らい、倒れた。

ディケイド「ユウスケ！夏海！」

するとクロックアップのようなスピードでディケイドを襲う！

ディケイド「があっ！クロックアップか！」

相手がスピード速いならカブトの方が有利だと思い、ディケイドはカブトのカードを出そうとした。しかし・・・

シヨツカープリキュア「させない！シヨツカーバインド！」

突如現れたシヨツカープリキュアの両手から三つの光のリングが現

れ、その三つの光のリングがディケイドの周りに・・・

シヨッカープリキュア「フーン！」

シヨッカープリキュアは右手の拳を握り閉めると、三つの光のリングがディケイドを捕らえた。

ディケイド「ぐあっ！」

クウガ「土！」

キバーラ（ライダー）「土君！」

十面鬼「残念だったなディケイド。此処が貴様の墓場だ。」

ディケイド「くっそ！」

クウガとキバーラ（ライダー）はバインドで締め付られているディケイドを助けようとするが、バインドは消えなかった。

シヨッカープリキュア「無駄よ。このシヨッカーバインドには特別な力を持つてる。脱出する事は不可能よ。」

ディケイド「何!?!」

シヨッカープリキュア「さよなら。世界の破壊者、ディケイド。」

シヨッカープリキュアはセルメダルを投げてから、セルメダルを『キーン』と落ちるとセルメダルのレーザーが現れ、シヨッカープリキュアに注入すると、シヨッカープリキュアの体からプレストキヤ

ノンが現れた。

ディケイド「なっ!?!」

シヨツカープリキュア「フン、ブレストキャノン・・・シユート！」

シヨツカープリキュアはブレストキャノンの出力を上げ、そして物凄いいエネルギーで発射した。それと同時にディケイドを締め付けたバインドが消えた。

ディケイド「仕方ない。此处は対策を立て直すぞ。」

ディケイドはカードを出してからカードをバツクルの中に入れる。

アタックライド、インビジブル

するとディケイドとクウガとキバーラ（ライダー）が消えた。

シヨツカープリキュア「・・・」

シヨツカープリキュアはディケイドを仕留めたかどうか確かめるが、ディケイドの姿はなかった。

シヨツカープリキュア「逃げたか。」

シヨツカープリキュアは変身を解除する。その正体は何と士達に助けられた少女だった。

十面鬼「素晴らしい、次もこの調子で頑張るんだぞ。黒沢歩美。」

歩美「うん、分かってるよ。十面鬼。」

そう言うと二人は消えた。

キャラ紹介

九条歩美

シヨッカープリキュアやキュアフェニックスに変身する少女。性格は冷たい表情でもあり無口でもある。髪の色は黒で髪型は短い。でも少し照れる場面もある。

彼女は未来のスーパー戦隊とプリキュアの世界の住人であり、マーベラスとひかりと一緒に平和で暮らしていたが、新たな敵が現れ、マーベラスとひかりは敗北し、二人はたった一人の娘を守る為に過去へ転送。そこへ偶然通りかかった黒沢夫婦と一緒に暮らす事になった。

だが宇宙帝国ザンギャクの地球侵略により、黒沢夫婦はザンギャクに殺されてしまう。彼女はスーパー戦隊が両親を救えなかった事を恨んでおり、遂に歩美はスーパー戦隊を復讐する事を誓った。そんな彼女の前に首領と出会い、首領は歩美をプリキュアにさせ、7年前の過去へ連れてかれたプリキュアオールスターズを倒した。最後は湊の言葉で自分がマーベラスとひかりの娘だという事に気付く。

九条歩美が変身した姿。衣装はリインフォース？のバリアジャケットの服と背中にはシヨツカーグライドの羽とスカートはムーンライトよりも長い。髪の色は変わりはないが、髪型は腰まで長くなっている。シヨツカープリキュアは今までのライダーの必殺技を使う事が出来る。

シヨツカープリキュアが使う武器とアイテム

シヨツカージャリバー

シヨツカープリキュアが使う武器、見た目は『仮面ライダーオーズ』の武器、メダジャリバーと同じだが色は黒く染まり、コアメダルを使う事で能力や必殺技、召喚する事が出来る。本編では未使用。

114

ライダーメダル

シヨツカープリキュアが使うアイテム。一号からフォーゼまでのコアメダルを所持しており、シヨツカージャリバーを入れる事でライダーの能力や必殺技、そして召喚をする事が出来る。勿論サブライダーやダークライダーも。本編では未使用。

スーパー戦隊メダル

シヨツカープリキュアが使うコアメダル。ゴレンジャーからゴセイジャーのコアメダルを所持しており、シヨツカージャリバーを入れる事でライダーと同様、能力や必殺技、そして召喚する事が出来る。勿論番外戦隊やレジェンド大戦に参加しなかった戦隊も。本編では未使用。

シヨツカープリキュアの必殺技

シヨツカーバツシユ

シヨツカープリキュアの必殺技。普段はオーズの必殺技と同じだが、後ろにあるビルや木もろとも切り裂いてしまう恐ろしい必殺技である。本編では未使用。

第10話：変わり果てた世界（前書き）

今回はターザンさん作、『仮面ライダーヤイバ』から武藤アイリが登場します。

第10話：変わり果てた世界

その夜、マーベラス達はやっとの事で調べの館に着いた。しかしそこにはボロボロな館があった。そう、これは終戦後の日本と思うだる。元々此処はエレンとアコが住んでいた調べの館だったはず。マーベラス達は間違いだと思ったが、ひかりは「アコちゃんは場所を間違っはありますがありません。」と語る。そしてひかりとアコは確信した。

ひかり「きつと何かが起こったかもしれません。だって私達は、ハイパーシヨッカーによって過去の世界へ飛ばされたんです。」

マーベラス「本当なのか？」

ひかり「はい。」

鎧「取り敢えず、入りましょう。」

取り敢えずマーベラス達は中へ入ってみるとパイプオルガンやグラウンドピアノがなくなっており、そして周りには蜘蛛の巣が沢山あった。

アコ「おじいちゃん！おじいちゃん！」

アコはアコの祖父、調辺音吉を捜すが、音吉の姿はなかった。アコは音吉の事が心配になり、音吉に何か起きたと思った。だがアコは音吉が無事だという事を信じ込んだ。

鎧「誰もいませんね。」

ハカセ「何がどうなってるんだ？」

マーベラス達はずっと周りを探ると、亮太とみのりと奏太を見つけた。

ひかり「亮太君！みのりちゃん！」

アコ「奏太！」

三人はハッと声を出し、奏太は近くに置いてあるナイフを取り出して構える。

アコ「奏太、何のつもり？」

奏太「お前等、何で此处が俺達のアジトだと分かった？」

ルカ「アジト？」

ジヨー「どういう事だ？」

マーベラス「んな事より、俺達のモバイルーツを返せ。」

奏太「そんなもんなんか川に捨てたよ！」

マーベラス「何だと？」

マーベラスは喧嘩を売ろうとしたが、鎧に止められる。

鎧「マーベラスさん！落ち着いて下さい。君達学校はどうしたの？」

何でこんな・・・」

奏太「お前バカか！生きる為に決まってるんだろ！」

ルカ「生きる為？」

マーベラス達は奏太が一体何を言ってるのか全く分からなかった。そこでアイムは質問する事に・・・

アイム「どうしてですか？」

亮太「学校はな、ハイパーショッカーがエリートじゃなきゃ通わないんだ！」

鎧「またハイパーショッカー？それって・・・」

????「ワシが教えよう。」

すると階段から老人がマーベラス達の元へやって来た。その老人は幸せの音色を奏でるパイプオルガンを作っていた老人。それは・・・

アコ「おじいちゃん！」

アコの祖父、調音音吉の姿だった。アコは音吉の所へ駆け寄ると、音吉はアコの頭を撫でる。

マーベラス「おじいさん、ハイパーショッカーとは何だ？さつさと教える。」

鎧「マーベラスさん！ちょっと言い過ぎじゃ・・・」

音吉「分かった。今からハイパーショッカーを説明する。ハイパーショッカーとは・・・日本を支配しようとした秘密結社。更にショッカーは、デストロン、GOD機関、ゲドン、デルザー軍団、クライシス、そして今まで戦士達によって倒された怪人達を集結した悪の大組織・・・彼等の目的は世界征服と逆らう者達を皆殺しにする。それがハイパーショッカーだ。」

アトム「ハイパー・・・ショッカー。」

音吉「それにこの世界は2種類の人間しかないのだ。」

ひかり「じゃあつまり私達の世界とは全く違う世界へと飛ばされてしまったという事ですか？」

音吉「ああ、そうじゃ。」

奏太「だから俺達は生き残る為にずっと苦労して来たんだ。」

亮太「父さんや母さんだって一体どうなったのか分からない。」

みのり「でも、私達は皆無事だって事を信じたい！信じたいの！」

ひかり「・・・」

ジヨー「ん？」

ルカ「どうしたのジヨー？」

ジヨー「静かにしろ。」

マーベラス達は静かにすると何やら音が館の中まで鳴り響いていた。皆は壁を見ると、壁にヒビが入る。そして……

マーベラス「伏せろ！」

マーベラス達は伏せると、壁から爆発が起こった。マーベラス達は爆発した壁を見てみると、そこには先程のナスカドーパントとウエザードーパントの姿が……。それだけではない。二体のドーパントの後ろに沢山の怪人達がいた。大量のショットカー戦闘員やマスカレイドドーパント、そしてワームがいた。

奏太「ハイパーショットカー！」

亮太「何でこんな所に!？」

音吉「ついにバレたんじゃ。ワシ達の所を……」

ルカ「どうすんのマーベラス!?! モバイレーツなしじゃ戦えないよ!」

マーベラス「くっそ」。

アコ「ふたてに別れよう。そうすればばらまく筈よ。」

マーベラス「よし。」

マーベラス達は亮太とみのり、ひかりを連れ、鎧はアコ、奏太、音吉を連れてふたてに別れる。怪人達はふたてに別れて追う。その頃、鎧は目の前にナスカドーパントや怪人達の群れが現れる。鎧は変

身しようとしたが、ゴークアイスラーがない為、変身出来ない。するとアコが……

アコ「鎧はおじいちゃんや奏太をお願い。此処は私が食い止める。」

アコは飛び出した。

鎧「アコちゃん！」

アコはキュアモジュールを出すと、そこにドドリが現れ、ドドリはキュアモジュールにセットする。

「レッツプレイ！プリキュア、モジュレーション！」

アコはキュアモジュールを持ちながらト音記号を描いてから下にあるボタンを押すとアコはキュアミューズに変身した。

「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

奏太「あ……」

奏太はミューズを見ると、突然体が震え始めた。

鎧「ん、奏太君？」

ミューズは怪人達に向かって突撃する。それと同時に襲いかかる怪人達。

ミューズ「ハァー！」

ミューズはシヨッカー戦闘員達やマスカレイド達を攻撃し、次にキックでマスカレイドは吹っ飛ぶ。だが武者童子が両手に持っている武器で攻撃し、更にサイ怪人が猛烈に突進し、体当たりでミューズを吹き飛ばす。それでもミューズは立ち上がる。

ミューズ「くっ、強い。」

ドドリー「ミューズ、諦めちゃ駄目ドド！」

ミューズ「分かってるよ、ドドリー。」

すると・・・

鎧「うわあああ！」

ミューズ「あ、しまった！」

何と、鎧達の方にもハイパーシヨッカーの魔の手がいた。ミューズは後ろへ振り向くと、また新しい怪人達とグリードのウヴァが鎧を襲う。鎧は戦うが、全く歯が立たない。

ウヴァ「どうした？お前の力はこの程度か？」

鎧「くっ！」

ミューズは鎧達を助けに行こうとしたが、気を取られてしまったせいかミューズも敵に囲まれてしまった。もう駄目かと思ったその時！

シヨッカー戦闘員？「ちょっと待って下さい。」

何とシヨツカー戦闘員の一人がミューズの前に立った。

ナスカドーパント「貴様、何のつもりだ？」

シヨツカー戦闘員？「どうして・・・どうしてたった一人子供に、こんなに沢山襲うなんておかしくありませんか？」

ナスカドーパント「我々ハイパーシヨツカーに逆らう者は全員排除する。貴様も分かっているだろ？」

シヨツカー戦闘員？「そうかもしれませんが。でも・・・」

シヨツカー戦闘員は自らのマスクを投げ捨てた。中から出て来たのは、何と20歳くらいの女性だった。更に女性は戦闘員の服を脱ぎ捨てると、携帯を持った。

???「私、ハイパーシヨツカーではありませんから。」

ナスカドーパント「貴様、一体何者だ？」

???「私は、武藤アイリ。又の名を・・・」

アイリと名乗った女性は、携帯を開き、一枚のカードをスキャンした。

「プリキュア！スキヤニングチェンジ！」

キュアライド、ディリー！

するとアイリの体がマゼンダ色の光に包まれる。

ナスカドーパント「ぐっ！」

ミューズ「な、何！この光!？」

光が収まるとアイリと名乗った女性は何とマゼンダ色のプリキュアに変身した。

ミューズ「あれって、プリキュア？」

ナスカドーパント「ディケイド・・・ではない。貴様は何者だ!？」

「全ての集大成、キュアディリー！」

第10話：変わり果てた世界（後書き）

次回、シヨッカーに敗北されたプリキュアが登場！しかし・・・

第11話：敵はプリキュア

ミューズ「キュア・・・ディリー。」

ナスカドーパント「まだプリキュアがいたのか。おもしろい、始末しろ。」

ナスカドーパントの命令で怪人達はディリーの周りを囲む。

ディリー「ミューズ。此処は私に任せてゴーカイシルバーと一緒にゴーカイジャーとルミナスを助けに行きなさい。」

ミューズ「え、どうして私の名前を？」

ディリー「いいから早く行きなさい。」

ミューズ「うっ・・・」

ディリーはミューズの方へ向くとディリーは首を下に降る。

ミューズ「分かった。気を付けて、キュアディリー。」

ミューズは怪人達に囲まれている鎧達の所へ向かい、ミューズは怪人達を追い払い、鎧達を助けた。

ミューズ「鎧、マーベラス達やひかりを助けに行くよ。」

鎧「でもあのプリキュアは？」

ミューズ「いいから。大丈夫奏太？」

奏太「触んな！」

ミューズは奏太を触れようとしたが、奏太はミューズの手を払う。

ミューズ「奏太？」

奏太「お前、何で俺を助けた？プリキュアは……」

ミューズ「プリキュアが、何？」

奏太「やっぱりいい。それよりそのあんた。」

鎧「何？」

奏太「ほらよ……」

奏太の手には5つのモバイルーツとゴーカイセルラーがあった。奏太は川へ捨てたと言ったがあれは嘘をついていたそうだ。鎧は直ぐ5つのモバイルーツとゴーカイセルラーを手に取る。

奏太「勘違いすんなよ。俺はただ、皆を守る為に返したただけだ。」

鎧はニッコリと笑い、奏太の頭を撫でた。頭を撫でられている奏太は少し嫌がっており、鎧はすぐ手を離れた。

鎧「ありがとう奏太君。豪快チェンジ！」

ゴーカイジャー！

鎧はゴーカイシルバーに変身した。

ゴーカイシルバー「行こうアコちゃん！」

ミュージズ「うん！」

二人は奏太や音吉を連れてマーベラス達やひかりの所へ向かった。

ディリー「頼むよ。」

その頃、森の中でマーベラス達は怪人達の群れと戦っていたが、余りの強さで苦戦していた。ひかりはルミナスに変身するが、戦う力がない為、地面に倒れていた。その隙に二人のシヨッカー戦闘員は草原に隠れていた亮太とみのりの腕を掴み、襲う。

ルミナス「亮太君！みのりちゃん！」

ルミナスは立ち上がり、助けに行こうとしたが、ルミナスの上に雷雲が現れ、ルミナスの周りに囲む。そう、これはウエザードーパントの能力だ。ウエザードーパントは左腕を強く押すと、ルミナスの周りに囲まれている雷雲が雷を出し、ルミナスを襲う。ルミナスは

避ける暇もなく、雷に直撃される。大ダメージを喰らったルミナスは地面に倒れる。

ポルン「ルミナス……」

ルルン「ルル……」

ルミナス「くっ。」

マーベラス「ひかり！テメエ！」

ウエザード「パント「フフフフ。」

亮太「離せ！離せ！」

みのり「嫌だ、死にたくない！」

ショツカー「戦闘員「ハイパーショツカーに逆らった者よ……その命を持って償うのだ！」

ショツカー「戦闘員はナイフを手に持ち、二人を殺そうとしたその時！」

ゴークアイシルバー「おりゃあああああ！」

ゴークアイシルバーとミューズが二人を掴んでいるショツカー戦闘員を後ろから攻撃した。そして二人はゴークアイシルバーとミューズによって助けられ、そこに奏太と音吉が現れ、ルミナスは何とか立ち上がり奏太達を安全な場所へ隠れる。

ゴークアイシルバー「皆さん、大丈夫ですか？」

マーベラス「バカ野郎、おせえんだよ！」

マーベラスがそう言うのとマーベラス達はゴークイサーベルで周りにいる怪人達を追い払う。

ルカ「まったく、ホントに遅いつつうの！」

ゴークイシルバー「すいません。あ、それと皆さん！」

ゴークイシルバーは5つのモバイルーツをマーベラス達へ投げ渡した。

マーベラス「フツ、とつとと片を付けるぞ。」

マーベラス達はレンジャーキーを出してから、モバイルーツを開く。

「豪快チェンジ！」

次にマーベラス達はレンジャーキーをモバイルーツをさし、そして・

ゴークイジャー！

マーベラス達はゴークイジャーに変身した。

ゴークイレッド「さて、たっぷりと仕返ししてやるぜ。」

ゴークイジャーは早速ゴークイサーベルとゴークイガン、ゴークイシルバーはゴークイスピアを持つ。更にゴークイブルーとゴークイ

イエローは二つのサーベルを持ち、ゴーカイグリーンとゴーカイピンクは二つのゴーカイガンを持つ。

ウェザードーパント「フン、行け！怪人共！」

ウェザードーパントは怪人達を命令すると一斉に走り出す。それと同時にゴーカイジャーとミュージズも一斉に走り出す。

ゴーカイレッド「ハッ！おりゃ！」

先ずゴーカイレッドはゴーカイサーベルでショットカー戦闘員達を攻撃しながらゴーカイガンで攻撃。

ゴーカイブルー「フツ、ハアッ！」

次にゴーカイブルーは二つのゴーカイサーベルでワーム達を攻撃。

ゴーカイイエロー「おらおらー！」

次にゴーカイイエローは二つのゴーカイサーベルを振るうと次々にマスカレイド達を切り裂いていく。

ゴーカイグリーン「だだだだー！」

次にゴーカイグリーンは二つのゴーカイガンでアンノウン達を攻撃し、更に素速い動きでゴーカイガンを撃ちまくる。

ゴーカイピンク「はっ！はいつ！」

次にゴーカイピンクは二つのゴーカイガンで華麗に動きながらミラ

ーモンスター達を攻撃。

ゴーカイシルバー「おりゃー！」

次にゴーカイシルバーはゴーカイスピアで周りにはいるショッカー戦闘員達を攻撃。

ミューズ「ハアー！」

最後にミューズはマスカレイド達をパンチやキックで攻撃し、マスカレイド達の攻撃を避けながらマスカレイド達を追い詰める。

亮太「ねえ、あれは？」

ルミナス「あれは海賊戦隊ゴーカイジャー。」

みのり「ゴーカイジャー……」

亮太「それにあのプリキュアって……」

みのり「でもあのプリキュア、私達を守る為に戦ってるよ！きっとあのプリキュアは味方だよ！そうだよ、奏太。」

奏太「あ、ああ……」

ルミナス「ん？」

三人を心配そうに見つめているルミナス、だが今はゴーカイジャーを見た方が優先した。ゴーカイジャーの周りにいる怪人達は地面に倒れると爆発が起こった。

ゴーカイレッド「残るはテメエだけだな。」

ゴーカイシルバー「もう観念しろ！」

ウェザードーパント「フン、幾ら俺が一人だからって俺を勝つ事が出来ない！」

ウェザーは左腕を上にとげるとゴーカイジャーとミューズの上から雷雲が現れ、雷雲はゴーカイジャーやミューズの周りに囲む。

ゴーカイブルー「フツ、そう来たか。」

ゴーカイジャーはレンジャーバツクルを押すとレンジャーキーが現れ、ゴーカイジャーはレンジャーキーを手に取り、ゴーカイシルバーはレンジャーキーをゴーカイセルラーに入れる。

「豪快チェンジ！」

ゴーカイジャーはレンジャーキーをモバイレーツにさし、ゴーカイシルバーはリダイアルを押し、そして・・・

ゴッオンジャー！

ゴオンウイングス！

ゴーカイジャーはゴオンジャー、ゴーカイシルバーは右半身がゴオンゴールド、左半身がゴオンシルバーで二つで一つのゴオンウイングスに変身した。ゴオンジャーは素速いスピードで抜け出し、ゴオンウイングスはジャンプで雷雲を抜け出した。

ウエザードーパント「何!?!」

ゴオンブルー「ガレージランチャー!」

ゴオンイエロー「レーシングバレット!」

ゴオンブラック「カウルレーザー!」

ゴオンブルーとゴオンブラックはガレージランチャーとカウルレーザーで連続発射し、ゴオンイエローはレーシングバレットを投げるとレーシングカーのように走り出し、ウエザードーパントに向かって直撃する。更にゴオンレッドやゴオングリーン、ゴオンウィングスが走り出す。

ゴオンレッド「ロードサーベル!」

ゴオングリーン「ブリτζアックス!」

ゴオンウィングス「ジェットダガー!」

ゴオンレッドとゴオングリーンとゴオンウィングスは、ロードサーベル、ブリτζアックス、ジェットダガーでウエザードーパントを攻撃する。ウエザードーパントは地面に倒れるとゴオンジャーとゴオンウィングスはゴーカーイジャーに戻る。

ミューズ「止めよ!」

ゴーカーレッド「ああ。」

ゴーカイジャーとミュージスはウエザードパンツを止めをさそつと
したその時……

トン、トン、トン

ゴーカイレッド「ん？」

何処からか足音が鳴り響いた。その音を聞き、ゴーカイジャーとミ
ューズ、ルミナス達は後ろに振り向くとそこには……

ルミナス「ブラック……ホワイト？」

ミュージ「メロディ……リズム……ビート！」

ゴーカイブルー「咲に……舞。」

ハイパーショッカーに敗北されたブラックとホワイト、ブルームと
イーグレット、メロディとリズム、ビートがいた。彼女達はゆっく
りとゴーカイジャーとミュージスの元へ……

ゴーカイイエロー「何だ。あんた達無事だったんだ。」

ゴーカイシルバー「いや、ホントに心配したんですよ！貴方達がい
るなら師匠やゆりさんは無事なんですか？だったら……」

ゴーカイピンク「鎧さん、待って下さい！」

ゴーカイシルバー「え？」

するとブラックが拳を握り締めると、ブラックは何とゴーカイシル

バーを・・・

ゴークアイシルバー「がはっ！」

殴り飛ばした。

ゴークアイグリーン「鎧！」

ルミナス「え？何で！？」

ゴークアイエロー「ちょっと！一体何のつもり！？」

ゴークアイエローはブラックに近付こうとしたが、ホワイトが何とゴークアイエローを投げ飛ばした。

ゴークアイエロー「うあっ！」

ミューズ「あ！」

メロディ「ミューズ。」

ミューズ「え？」

メロディはミューズに近付くと、何とメロディはミューズの腹部を強烈にキックをする。

ミューズ「ぶはっ！キャアアアアア！」

ミューズは血を吐くと、木の所まで吹っ飛んだ。更にブルームとイグレットはゴークアイブルーとゴークアイグリーン、ブラックとホワ

イトはゴーカイイエロー、ビートはゴーカイレッドを攻撃。何度も何度も攻撃し、ゴーカイジャーは戦う事がなく、追い詰められていく。

ゴーカイピンク「やめて下さい皆さん！どうしてこんな酷い事するのですか!？」

ルミナス「そうですよ皆さん!」

ポルン「ブラック、ホワイト、やめるポポ!」

亮太「ダメだよ。プリキュアは全員、ハイパーショッカーの仲間なんだ。」

ルミナス「え?」

みのり「そうだよ。プリキュアは全員私達の敵!皆ではプリキュアに勝てない!だからプリキュアは信じたくない!」

奏太「そうだ、プリキュアは沢山の人を殺したんだ!」

ルミナス「そんな・・・」

ゴーカイピンク「こんなのって・・・」

ルミナスとゴーカイピンクは奏太達の言葉で理解出来なかった。プリキュアが人殺しをする事は一度もない。プリキュアは人々の笑顔や幸せや希望を守る為に悪と戦い続けていた。そんなプリキュアが敵だって事は正直ありえなかった。するとメロディはミューズの首元を掴み、軽く持ち上げる。

メロディ「ミュージズ。私達、出来ればミュージズとは戦いたくない。でもミュージズ、仲間になれば殺さないよ。」

リズム「そうよミュージズ。仲間になれば、一緒に戦う事が出来るよ。」

ミュージズ「ふざけ……ないで！」

ブルーム「こんな事はしたくないけど、これもハイパーショッカーの命令だよ。」

イーグレット「もう、永遠に地球は平和になる事は出来ない。」

ブラック「正義のヒーローは此処で終わりだね。」

ホワイト「せっかく再会したのに、ごめんなさい。」

ビート「さよなら、ゴーカイジャー。」

ゴーカイレッド「テメエ等！」

地面に倒れたゴーカイジャーはもう戦う力は残っていなかった。ルミナスは助けたいが、今まで仲間だったブラック達と戦う事が出来ない。もう駄目かと思ったその時！

ブラック「ん？」

ブラックは上に振り向くと、空からゴーカイガレオンが降りて来た。

「ゴーカイイエロー」「ゴーカイガレオン？」

「アタックライド、ブラスト！」

突如ゴーカイガレオンから電子音が鳴り響くと弾丸が現れ、ブラック達の周りに火花が散る。その隙にゴーカイジャーとミューズは解放した。

「ゴーカイピンク「皆さん、大丈夫ですか？」

「ゴーカイシルバー「はい。」

「ミューズ「それに誰が乗ってるの？」

「???「待たせたね。海賊の諸君！」

するとゴーカイガレオンから人が出て来た。その人物は体にはシアン、手に持っているのはディエンドライダー、その正体は・・・海東大樹が変身した仮面ライダー、ディエンドだ。ディエンドはゴーカイジャーやルミナス達の前に立つ。

ルミナス「海東さん！」

「ゴーカイグリーン「君が操縦したの？」

ディエンド「ああ。そんな事より、此処は一旦退こう。戦力を立て直すよ。」

ディエンドはケースからカードを出し、そのカードをディエンドライダーに入れる。

アタックライド、フラッシュ!

ディエンドはディエンドライダーをブラック達に向け、引きがねを引くと太陽のようにブラック達を目くらましにさせる。ブラック達は前へ向くと、そこにはもうゴーカイジャーやルミナス達、ゴーカイガレオンの姿はなかった。

ブラック「ちっ、逃げたられたか。」

ホワイト「そろそろ帰りましょ。もうすぐ日が暮れるからね。」

ブラック「ああ。」

そう言うとブラック達はこの場から去った。それを遠くから見ていたショッカープリキュアは……

ショッカープリキュア「……」

何故か黙っていた。実は数分前、ショッカープリキュアはゴーカイジャーがハイパーショッカーの戦っている所へ行こうとしたその時、突然光が現れるとショッカープリキュアは白い場所にいた。そこにショッカープリキュアはザンギヤックとの戦いで行方不明となった赤い戦士、アカレッドがいた。アカレッドはショッカープリキュアに近付く。

アカレッド「君がショッカープリキュアだな？」

ショッカープリキュア「あんたは誰？」

アカレッド「私はスーパー戦隊35の赤の魂を受け継ぐ者だ。」

シヨッカープリキュア「へえ、だったら・・・」

アカレッド「待て。君はスーパー戦隊の世界の住人だそうだな。何故こんな事を争う？」

シヨッカープリキュア「決まってるじゃない。私はスーパー戦隊を復讐する為に全員のプリキュアを洗脳させ、プリキュア達と一緒にスーパー戦隊を潰すのさ。」

アカレッド「そうか。だが、君にはゴージャーを倒す事は出来ない。」

シヨッカープリキュア「何故そう言いきれなの？」

アカレッド「君の憎しみだけではゴージャーを倒す事は出来ない。何故だと思つか？それは、彼等は誇りを持っているからだ。」

シヨッカープリキュア「誇り？そんなんで何になるの？」

アカレッド「もうすぐ分かる。」

そう言うとアカレッドはこの場から去ろうとする。

シヨッカープリキュア「待ちなさいよ！誇りって何なの？あなたの言ってる事が訳分かんない！それにあんた、一体何なの！？」

アカレッド「君の家族は・・・こんな事を望んでいたのか？」

シヨツカープリキュア「え？」

アカレツドの言葉でシヨツカープリキュアは少し落ち着く。シヨツカープリキュアは家族がこんな事を何故復讐なんかしようとした事思っていた。するとアカレツドはこの場から去っていく。

シヨツカープリキュア「待って！」

突然光が現れ、シヨツカープリキュアは光に包まれると、アカレツドの姿はもうなかった。

シヨツカープリキュア「誇り・・・」

元の時間に戻るとシヨツカープリキュアは消えた。

第12話：過去の世界へ！

その頃、ゴークイジャーの世界での宇宙帝国ザンギャックのギガントホースでは・・・

ワルズ・ギル「ん？」

ワルズ・ギルは宇宙を見ると、ギガントホースの目の前に太陽のように光っていた。その光が眩しくなるとギガントホースは光は包まれる。その光が消えるとギガントホースの姿はなかった。

その頃、ハイパーショッカーに支配されたプリキュアの世界のマイナードでは・・・

バストラ「クンクン。」

バリトン「クンクン。」

音符探しをしていた。だが探しても探しても音符の姿はない。そう、此処はハイパーショッカーによってプリキュアの世界が支配され、『伝説の楽譜』に載ってあったはずの音符も消えており、この世界

は音符は存在していない事になってしまったのだ。

ファルセット「おのれハイパーショットカー！」

ファルセットは拳を握り閉め、壁を叩き付ける。ファルセットはハイパーショットカーが勝手に地球を制圧したから音符の存在がなくなつた。

ファルセット「行くぞ、お前等。」

バスドラ「ファルセット・・・様、一体何処へ？」

バリトン「しかし探しても音符は何処にも・・・」

ファルセット「音符探しはやめだ。今から俺達は、ハイパーショットカーを潰しに行くぞ！」

その頃、海東とひかりとアイムは傷付けたマーベラス達やアコを背負いながらゴーカイガレオンの中へ入る。その中に入っていたのは鎧やアコを助けた武藤アイリとナビィと士達、そして少女がいた。

ナビィ「皆、無事だったんだね。」

「????」「大丈夫?」

アイリ「フツ、よかった。」

ひかり「貴方達は?」

マーベラス「誰だ?」

アイリ「初めまして、私は武藤アイリ。又はキュアディリーよ。」

御子「私は光明寺御子。又はキュアエルス。」

ジヨー「という事は、あんた達もプリキュアか?」

御子「ええ。」

マーベラス達も自己紹介をし、一応これで自己紹介は終了。亮太とみのりはおどおどしておりマーベラス達を向かずにずっとイライラな顔をしていた奏太の事はアコが紹介した。二人はマーベラス達と同じくアイリと御子はドリームやピーチ、ブロッサム達に襲われた。土は奏太の事をトイカメラで撮っていた。ブロッサム達の方が圧倒的に強い力で二人は苦戦。危機一発にブロッサム達二人を止めをささずに本部まで帰った事を話した。

ルカ「ねえ、何でプリキュアの世界があんな事になったの?」

海東「では説明するよ。君達も知ってる通り、プリキュアの世界は大きく変わってしまった。今まで僕達ライダーに倒された怪人達と集結した組織、ハイパーショッカーがプリキュアの世界が支配され

てしまった。」

アイリ「ハイパーショットカーはライダーを倒す為にショットカーライトを作り、ショットカーライトでショットカープリキュアを作ろうとした。でもショットカーライトでは何も起こらない。起こらないはずだった。」

御子「しかし、妖精達はミラクルライトを一つだけ落ちてしまい、それを見つけたハイパーショットカーはミラクルライトを拾い、二つのライトが彼女に光を差した事でショットカープリキュアは誕生してしまった。」

海東「その結果、7年前の過去へ飛ばされたプリキュア達はショットカープリキュアの圧倒的強さによって敗北。プリキュア達はハイパーショットカーによって洗脳されてしまった。」

ポルン「ミラクルライト!?!」

海東の言葉でポルンとルルンは驚き、ボックスの中に入っている多数のミラクルライトを探す。探した結果、ポルンはこう言った。

ポルン「無いポポ。」

夏海「無いって……」

アイム「じゃあ、まさか……」

ルルン「ミラクルライトが一個だけ無いルル!」

ミラクルライトは全部で17個のはずだった。そのミラクルライト

が一つだけ無い。一体何故なのか？それはルミナスが妖精達と共に
ゴーカイジャーの世界へ行く前、あの爆風でルルンが持っている多
数のミラクルライトが持っていた箱と共に吹っ飛び、ボックスが開
いた瞬間、ミラクルライトは一つだけに落ちてしまったのだ。つま
り、この事態になったのはルルンのせいという事になる。

ルルン「ルルンのせいで・・・ルルンのせいで・・・」

ナビィ「ルルンのせいじゃないよ！悪いのはハイパーショッカーだ
よ！」

ルカ「ナビィの言う通りよ！決して自分のせいで人のせいじゃな
いよ！」

ユウスケ「海東、元のプリキュアの世界へ戻す方法は？」

海東「その方法は、7年前の過去に行つて歴史を修復するしかない。

士「成る程、話は早いな。なら早速・・・」

海東「無理だね、デンライナーじゃないと過去へ行く事は不可能だ。

夏海「だったらどうすれば・・・」

鎧「あ！過去へ行ける方法がありますよ！」

アコ「それ、本当なの？」

鎧「はい！では豪快チェンジ！」

ゴークカイジャー！

鎧は早速ゴークカイシルバーとなり、次にタイムファイアーのレンジャーキーを出してからゴークカイセルラーに入れる。更にタイムファイアーのリダイヤルを三回押す。

ゴークカイシルバー「出でよ、豪獣ドリル！」

発進！豪獣ドリル！

すると空からドリルのような機体が現れた。その機体の名は豪獣ドリル。

ハカセ「そうか。タイムレンジャー！」

アトム「タイムレンジャーの力を使って過去へ飛ぶんですね。」

ゴークカイシルバー「その通り！豪獣ドリルを使って過去へ飛ぶんです！」

御子「流石はゴークカイシルバーね。」

ゴークカイシルバー「いや、それ程でも……」

みのり「ねえ、歴史が修復したらハイパーショッカーはいなくなるの？」

アイリ「ええ。正しい歴史ではプリキュア達が倒したんだからね。」

ひかり「それ、本当なんですか？」

亮太「じゃあ、俺達普通に暮らせるの？もう襲う奴はいなくなるの？」

アイリ「勿論よ。」

「やったー！」

奏太「俺は信用出来ねえ！」

そう叫んだのは奏太だった。どうやら海東やアイリの言葉が信じられなかったのだ。

奏太「この三人はプリキュアなんだぞ！こいつ等は俺達の敵だって事忘れたの！？俺は認めねえ！俺はあんた達の事がぜってえに認めねえからな！」

するとアコが奏太の頬を思いつきりビンタした。

アコ「何を言ってるの奏太？そんなにプリキュアが憎いの？」

奏太「当たり前えーだよ！俺は・・・」

アコ「いい加減にしてよ！私、奏太の事見損なつた。奏太がこんな事言うなんて・・・こんなの、こんなの私の知ってる奏太じゃない！私の知ってる奏太はイタズラをするけどホントは優しいの。私は奏太に会えてよかった。私、奏太の事絶対に忘れないの。だからお願い、私達を信じて。」

奏太「お前・・・」

奏太はマーベラス達や皆を見るとマーベラス達は首を下に降る。マーベラス達を見た奏太はそしてこう言った。

奏太「分かった。今回だけは信用してやる。但し忘れるなよ。決してお前等を認めた訳じゃないからな。」

アコ「ありがとう。おじいちゃん。」

音吉「分かってる。私は現代に残るよ。だから奏太君達を頼むぞ。」

アコ「うん。」

そしてマーベラス達とひかりとアコ、御子とアイリと士達はゴーカイジャーやプリキュアやライダーに変身し、ゴーカイシルバーはタイムファイアーのレンジャーキーをさすとワームホールが現れた。このワームホールは過去へ行く事が出来る。

ゴーカイジャー「よし、行くか。7年前の過去へ！」

ディエンド「更に1分前に・・・GO。」

そう言うとゴーカイガレオンと豪獣ドリルはワームホールの中へ入った。プリキュアの世界を救う為に・・・

第13話：地獄の番人現る！（前書き）

と書いてありますがこの中の三人だけは地獄の番人ではありません。後、今更ですが『第12話』から夢原信者さんのキャラ、『プリキユアオールスターズ』伝説の戦士の日常』又は『プリキユアオールスターズ』新たな日常と新たな戦い』から光明寺御子が登場しています。

第13話：地獄の番人現る！

ハイパーシヨツカーのアジト

シヨツカープリキュアの部屋ではシヨツカープリキュアは何故か黙っていた。彼女は誰かの言葉によって思い出していたらしい。

『本当はスーパー戦隊を倒すつもりはないんだろ？』

『スーパー戦隊は何の為に戦おうとしたのかお前には分かるはずだ』！

シヨツカープリキュア「フン！お前等に何が分かる？私の気持ち、分からないくせに。」

するとシヨツカープリキュアの机から何かが光った。光が抑まると手紙があった。シヨツカープリキュアは手紙を手取る。

シヨツカープリキュア「これは・・・ブラック將軍からの手紙？」

その頃、過去の世界では空からワームホールが現れ、ワームホール

からゴーカイガレオン、豪獣ドリルが現れ、ゴーカイジャーとディケイド達、ルミナス達は降りると変身解除した。

士「着いたか。」

ルカ「でも本当に過去なの？」

アイリ「此処は過去だわ。だってほら・・・」

アイリは指を差した方向へ向くと、そこには何とプリキュア達とイカデビル達が戦っていた所だった。

ハカセ「あれってラブちゃん達？何がどうなってるの？」

御子「此処は過去の世界。というより1分前よ。」

士「成る程な。」

みのり「ねえ、プリキュアって私達の味方なの？」

アイリ「ええ、プリキュアは皆の幸せを守る為に世界を支配する悪魔達と戦い続けて来たのよ。」

ルルン「・・・」

ポルン「ルルン。」

ひかり「ポルン、ルルンをそっとしておいて。ルルンは辛いの。」

ルルンはミラクルライトが一つだけ落ちていた事は凄く辛かったの

だ。あの時ミラクルライトを支えていたらこんな事になっていなかったのだった。

士「先ずは俺が一つだけミラクルライトを取り戻す。お前等は此処にいる。」

海東「僕も行くさ。士にいい所をとる訳にはいかないからね。」

士「フツ、勝手にしろ。」

こうしている間にイカデビルのイカ爆弾で妖精達を攻撃しようとした。だがルミナスはバリアで妖精達を守ろうとしたが、余りにも耐え切れず爆風が発生。それと同時にルルンが持っていた17個のミラクルライトのボックスが少し開くと一本のミラクルライトが地面に落ちる。ミラクルライトが止まると何かを持ちに行ったかのようにミラクルライトが宙が浮き始め、マーベラス達の所に・・・そう、これはディエンドのインビジブルカードだ。海東は姿を現れずこれで歴史の修復は完了。

海東「これで一件落着だね。」

士「結局、海東に美味しい所を持っていきやがった。今度こそは・・・」

すると海東は何かを感じたかのように動きが止まった。それと同時に士も動きが止まった。海東は誰がいるかのように確かめる。そして海東は後ろに振り向くと、海東や士の周りに火花が散ると、海東が持っていたミラクルライトを離してしまった。それを見たマーベラス達は二人の所へ駆け寄る。ミラクルライトは何と十面鬼が拾った。

十面鬼「ついに見つけたぞ、ミラクルライト。」

士「十面鬼!」

十面鬼「久し振りだな。ディケイドにディエンド、そしてクウガ。」

海東（そうか。此処は過去だから僕達と久し振りに会うか。）

十面鬼「地獄はこれからだ。出でよ!」

すると十面鬼の周りから多数のショッカー戦闘員とマスカレイドド
ーパントと屑ヤミーが現れた。

ひかり「そのミラクルライト、絶対に貴方達には渡せません!」

海東「クイーンは下がってる。君じゃ足手まといだ。行くぞ士、夏

海、ユウスケ。」

夏海「はい、キバーラ。」

キバーラ「フッフ、行くよ。」

ユウスケ「ああ!」

士「俺に命令するな。つたく〜・・・」

士はディケイドライバーを出し、ディケイドライバーを腰に付ける。
ユウスケは手を腰に包むとアークルが現れ、海東はライドカードを
ディエンドライバーにさし、夏海はキバーラを手で掴む。

士「お前等の好き勝手にはさせない。俺達の未来は絶望じゃない、希望だ。」

士はライドカードを出し、カードを裏向けてからディケイドライブを中に入れると・・・

「「「変身!」」」

カメンライド、ディケイド!

カメンライド、ディエンド!

士はディケイド、海東はディエンド、ユウスケはクウガ、夏海はキバラ(ライダー)に変身した。

ディエンド「君達はじつとしたまえ。」

早速ディケイド達は十面鬼と戦闘員達と立ち向かう。ディエンドは戦闘員達、ディケイドは十面鬼に立ち向かう。ディケイドは十面鬼の攻撃に喰らいながらも、ディケイドは十面鬼に攻撃する。そして十面鬼の手に持っていたミラクルライトを落とす。

十面鬼「しまった!」

ひかりはすぐミラクルライトを拾う。

ディエンド「マーベラス君!クイーンと一緒に逃げろ!」

マーベラス「ああ。っってお前に命令される気はねえんだよ!」

鎧「とにかく今の内に！」

マーベラス達はひかりや奏太達を連れて安全な場所へ移す。

十面鬼「逃がすな！追え！」

ショッカー戦闘員達はマーベラス達を追おうとしたが、ディエンドやクウガ、キバーラ（ライダー）に妨害される。

ディエンド「そうはさせないよ。」

ディケイド「十面鬼、今度は容赦しないぞ。」

十面鬼「くっ、ならば・・・」

すると十面鬼はショッカーライトを出すと、ショッカーライトは十面鬼に向けて反射すると十面鬼の体から光った。

十面鬼「ぐっ、うおおおおお！」

ディケイド「何だ？あの光は？」

十面鬼「うおおおおお！」

その頃、現代ではハイパーショットカーが地球を襲撃し始める。ウエザードーパントやナスカドールパントはゆっくり歩きながら多数のショットカー戦闘員やグロンギやワームやマスカレイド、屑ヤミーが人々に襲いかかる。音吉と藤田アカネは安全な場所へ隠れる。

音吉「希望を信じよう。」

アカネ「え？」

音吉「世界は必ず、救世主が救うはずだ。」

アカネ「救世主……」

すると半数のショットカー戦闘員が倒れ始める。ショットカー戦闘員が倒れるとバリゾーグとインサーンや多数のゴーミンやスゴーミンがおり、更にバストラとバリトンが半数のマスカレイドや屑ヤミーを追い払う。

ウエザー「何だ貴様等は？」

するとバリゾーグとインサーンの横から皇帝のバカ息子、ワルズ・ギルが現れ、更にバストラとバリトンの横からファルセットが前に出た。

アカネ「何あれ？」

音吉（あれは、マイナーランド！何故こんな所に！？それに、あい

つ等は一体？)

ワルズ・ギル「よく聞け！ハイパーシヨッカーとかいう奴等よ！俺は宇宙帝国ザンギャツクの皇帝ワルズ・ギル！勝手に地球制圧させる訳にはいかん！地球制圧をするのは我々ザンギャツクだ！」

ファルセット「いや、そうはさせない。地球制圧というより不幸の楽譜^{メロディ}で世界中を悲しみに包まれるのが先だ。」

ワルズ・ギル「何？」

ファルセット「自己紹介、まだだっただな？俺はマイナーランドのリーダー、ファルセットだ。」

ワルズ・ギル「フン。ファルセットだがリセットだが知らんが貴様等もハイパーシヨッカーと共に消え去るがいい！」

ファルセット「消え去るのはお前等の方だ。」

ワルズ・ギル「何を！バリゾーグ！インサーン！やれ！」

バリゾーグ「イエスボス。」

インサーン「お任せを。」

ウエザー「フン、やれ！」

ウエザーがそう言うとシヨッカー戦闘員とグロンギとワームとマスカレイドと屑ヤミーは一斉に走り出す。それと同時にバリゾーグやインサーン、ゴーミンとスゴーミン、バストラやバリトンも一斉に

走り出し、三つの組織とぶつかり合った。

その頃、過去の世界ではマーベラス達はひかり達と一緒にハイパーシヨッカーから振り切ろうとするが、マーベラス達の目の前にはグリードのカザリとグロンギのツ・バザー・バとドラゴンオルフェノクとウカワーム、多数の怪人達がいた。もはやもう逃げられない状態であった。

アコ「囲まれた。」

ひかり「奏太君。」

奏太「ん？」

ひかりは奏太の手を掴んで奏太にミラクルライトを渡す。

ひかり「お願い。」

ルカ「マーベラス、どうすんの？」

マーベラス「くっ、仕方ねえ。行くぞ！」

ポルン「ひかり、変身するポポ！」

ひかり「うん！」

「豪快チェンジ！」

「ルミナス！シャイニングストリーム！」

「レッツプレイ！プリキュア、モジュレーション！」

「プリキュア！スキヤニングチェンジ！」

「プリキュア！ライトニングトランス！」

ゴウカイジャー！

キュアライド、デイリー！

マーベラス達はゴウカイジャー、ひかりとアコ、アイリと御子はプリキュアに変身した。ショッカー戦闘員達はゴウカイジャーとプリキュアを襲うとしたその時。

????「ベガスラッシュ！」

突如誰かの声が聞こえると、ショッカー戦闘員達は何処からの攻撃で倒れ始めた。ゴウカイレッドは上を見ると二人の影が現れ、ゴウカイジャーとプリキュアの前に立った。

ゴウカイグリーン「だ、誰？」

ゴークアイシルバー「あ！貴方達は！」

????「久し振りだな、ゴークアイジャー。」

ゴークイレッド「この声は、まさか！」

姿を現したのは、ゴークアイジャーを逮捕しようとしたデカマスター。又の名はアヌビス星人のドギー・クルーガー。そしてもう一人は天空聖者、ブレイジエルと呼ばれる赤い騎士、ウルザードファイアー。彼等はレジェンド大戦によって変身能力が失ったはずだったが……

ルミナス「スーパー戦隊。」

ゴークイグリーン「嘘だ。だってレンジャーキーは此処に……」

ゴークイグリーンはデカマスターとウルザードファイアーのレンジャーキーを出す。確かにゴークイグリーンの言う通り、レンジャーキーがなければゴセイジャーやハリケンジャーのように力を取り戻す事が出来ない。そんな彼等が何故力を取り戻していたのか？

デカマスター「話は後だ。まずはハイパーショッカーの戦いを集中するぞ！」

カザリ「ふん、二人が増えたからって僕達に勝てると思ってるの？」

ウルザードファイアー「二人？それはどうかな？」

ツ・バツ・バ「何？」

「プリキュア！ダークドリームアタック！」

「ダークフォルテウェイブ！」

「プリキュア！フラワーカーニバル！」

「プリンガーソード！」

「獣奏剣！」

「DVディフェンダー！」

「ウイングペンダント！」

「臨技！剛勇吼波！」

「臨技！無効消波！」

突如また誰かの声が聞こえ、半数のショッカー戦闘員とグロンギとワーム、マスカレイドや屑ヤミーが消滅した。

「久し振りだな、伊狩鎧。」

「よお、ゴーカイジャー。」

「間に合ってよかったね。」

「ミューズ、貴方は……」

「ゴーカイレッド……」

ゴークアイシルバー「まさか！」

ゴークアイジャーとプリキュアの前には、
キュアドリームの友達ダークドリームと
キュアマーンライトのライバルであったダークプリキュアと
つぼみの祖母花咲薫子ことキュアフラワー。

そしてジェットマンの結城凱ことブラックコンドルと
ジウウレンジャーのブライことドラゴンレンジャーと
タイムレンジャーの滝沢直人ことタイムファイアーと
アバレンジャーの仲代王琴ことアバレキラーと
元臨獣伝アクガタの黒獅子リオとカメレオン拳使い魔メレが姿を現
した。

ゴークイレッド「結城凱。」

ブラックコンドル「世界が危機をさらしている事を聞いていたから
俺達は此処に来たぜ。」

ゴークイブルー「フン、余計な真似を・・・」

黒獅子リオ「久し振りにやるか、メレ。」

メレ「はい、理央様。」

ゴークアイエロー「あれが鎧に三つの大いなる力を貰った仲代王琴
？」

ゴークアイシルバー「はい！まさか此処で会えるなんて光栄です！」

アバレキラー「感心してる場合じゃないだろ。」

ドラゴンレンジャー「悪いが、サインは後にしてくれ。」

タイムファイアー「先ずこいつ等を倒すのを優先しろ。」

ゴークイシルバー「あ、はい！」

ディリー「ダークドリームにダークプリキュア、どうして此処に？」

ダークドリーム「私、見たくないの。のぞみが人を襲う事はもう見たくない！だから私は歴史を修復する為にダークプリキュアやアバレキラーと一緒に過去の世界に来たの。」

ダークプリキュア「月影ゆりがああなった以上は、見過ごす訳にはいかない。」

エルス「二人とも、一緒にやるんだね？」

ダークドリーム「うん。」

ダークプリキュア「ああ。」

ミューズ「ルミナス。奏太達をお願い。」

ルミナス「分かりました。」

ルミナスは奏太達を連れて安全な場所へ移す。

ゴークイレット「よし、派手に行くぜ！」

全員「おう！」

ゴージャイジャーとプリキュアとデカマスターとウルザードファイア
ー、そして地獄の番人との戦いが始まる。

第13話：地獄の番人現る！（後書き）

「???」次回からやっと私の出番ね。待ってて、大樹。」

今回はようやくGASHさんとALST Gさんのキャラが登場します。ヒントはゴージャスをモチーフにしたプリキュア・・・

第14話：海賊プリキュア（前書き）

ALST Gさん、お待ちせしました。遂にキュアパイレーツ、登場です。

第14話：海賊プリキュア

過去の工場の外

十面鬼「ぐっ、おおお・・・」

光が止むと、デイケイドは十面鬼に変わりはなかったと思ったが、十面鬼の様子がおかしい。そう考えていると十面鬼はゆっくりとデイケイド達に近付く。すると十面鬼は立ち止まった。

十面鬼「フン。」

すると十面鬼の姿は消えた。デイケイド達は周りを捜すが、十面鬼の姿はない。逃げたのかと思っているとクウガとキバーラ（ライダー）の後ろから火花が散り、二人は地面に倒れる。

デイケイド「ユウスケ！夏海！ぐあっ！」

何とデイケイドの後ろからも火花が散り、地面に倒れる。まるで誰かに攻撃されたようなものだ。

そしてデイエンドは確信した。十面鬼はショットカーライトの力でヒルカメレオンの力をコピーした。それだけではない、今までライダーに倒された怪人達のコピー能力を使う事が出来る。十面鬼は姿を消し、デイケイド達を倒す事。それに気付いたデイエンドは三枚のライダーカードを出し、デイエンドライダーに入れる。

カメンライド イクサ！ バース！ プロトバース！

デイエンドはデイエンドライダーの引きがねを引くと突如三人のラ

ライダーが姿を現した。

白いライダーは『キバの世界』でファンガイアを倒す為に作られたライダー、イクサ。

もう一人のライダーは、『オーズの世界』でセルメダルを使って変身や武器を使いこなすライダー、バース。

そしてもう一人のライダーは、姿と威力はバースと同じだが、武器は二つしか使う事は出来ないライダー、プロトバースだ。

デイエンド「さあ、行きたまえ。」

イクサ「その命、神に返しなさい。」

プロトバース「んじゃ、稼ぎますか。」

バース「無茶しないで下さい。」

プロトバース「フツ、分かってるよ。」

イクサは十面鬼は何処にいるのかサーチで調べる。そしてピピツ！となると十面鬼の場所を突き止めた。イクサはイクサカリバー・ガンモードで攻撃。それと同時にバースとプロトバースもバースバスターで一斉攻撃。すると十面鬼が姿を現し、ダメージを喰らったのかと思いきや、十面鬼の体は何ともなかった。

十面鬼「そんな攻撃、効かんな。」

デイエンド「そんな！」

十面鬼「ハアアアア・・・むん！」

十面鬼は右腕を構えてから次に右腕を前につけると、手から疾風のようなものを吹く。デイケイド達は疾風に堪えようとしたが、あまりにも疾風が強過ぎて堪え切れず、デイケイド達は壁まで吹っ飛んだ。地面に倒れるとイクサとバース、プロトバースは消えてしまった。

クウガ「何だ今のは？」

キバーラ（ライダー）「急にパワーが・・・」

デイエンド「今はゴセイジャーの天装術、ツイストルネードだ。何故だ？ ショツカーライトは怪人達のコピーをするはずじゃ・・・」

十面鬼「そう思ったか？ 教えてやろう。ショツカーライトは怪人達のコピー能力を使う事が出来る。だが、首領が改造したショツカーライトでライダーや怪人のコピー能力を使うだけではなく、スーパー戦隊やプリキュアのコピー能力を使う事が出来るのだ。」

デイケイド「成る程な。相当に厄介な物作った訳って事か？ だが、そう甘くはないぜ？」

十面鬼「フン。」

その頃、ディケイド達と十面鬼の戦っている所を見ている人影がいた。その人影の正体はかつてデカレンジャーと戦った事があり、今までの犯罪を起こした宇宙人、エージェント・アブレラだった。アブレラの周りには多数のアーナロイド達がいた。

アブレラ「行くぞ。」

アブレラとアーナロイド達はディケイド達の戦いを割り込もうとしたその時。

????「待ちなさい。」

すると誰かの声が聞こえ、アブレラとアーナロイド達は後ろに振り向くと、そこには謎の少女がいた。髪型は長い深紅と片目に目帯を付けた少女、まるで海賊のようなプリキュアだった。

????「これ以上、大樹の邪魔はさせないわ。」

アブレラ「貴様、何者だ？」

????「私は・・・変革を呼ぶ自由の海賊、キュアパイレーツ。」

アブレラ「キュアパイレーツ？」

キュアパイレーツと名乗った後、右手にはゴーカイサーベルと同じだが、海賊の絵柄ではなくハートの絵柄である武器、キュアサーベル。左手にはゴーカイガンと同じだが、ゴーカイサーベルと同様、ハートの絵柄である武器、キュアガンだ。

パイレーツ「派手に行くわ。」

パイレーツはそう言うとキュアガンをアブレラ達に向けて撃ちまくる。

アブレラ「ぐっ、やれ！」

アーナロイド達「ウーーン！」

アーナロイド達は走り出し、パイレーツはゆっくりアーナロイド達に近付く。アーナロイドは攻撃するが、パイレーツは攻撃に避け、次にキュアサーベルでアーナロイド達を攻撃し続ける。次にキュアガンで二人のアーナロイドを攻撃すると火花が散る。そしてパイレーツはプリキュアキーを出し、キュアサーベルについてるゴーカイシリンダーではなく、キュアシリンダーにさすと……

フア〜イナルウェイ〜ブ！

パイレーツ「キュア……スラツシュ！」

必殺技が発動した。多数のアーナロイド達はパイレーツに近付いて攻撃しようとしたが、パイレーツは上手くかわしながらアーナロイド達を切りまくる。パイレーツはアーナロイド達を切り終わるとアーナロイド達は全滅した。

アブレラ「ば、馬鹿な！」

パイレーツ「冥土の土産よ、おもしろい物見せてあげるわ。」

パイレーツはプリキュアキーとキュアモバイラーを出す。

パイレーツ「プリキュアチェンジ。」

プリキュアキーをキュアモバイラーに差し込み、モバイラーを前に出す。

キュ〜アセイバー！

パイレーツは別のプリキュアに変身した。そのプリキュアはなぎさ達には見た事がないプリキュア、キュアセイバーだ。

アブレラ「何!?!」

セイバー「ま、これは海賊版だと思ってちょうだい。」

セイバーは走り出すと、右脚から炎が吹き出し、セイバーは高くジャンプした。

セイバー「プリキュア！セイバーキック！」

アブレラはセイバーの必殺技を喰らうと空まで吹っ飛んだ。次にセイバーはプリキュアキーとキュアモバイラーを出す。

セイバー「最後まで派手に行くよ！プリキュアチェンジ！」

プリキュアキーをキュアモバイラーに差し込んでからキュアモバイラーを前に出す。

キュ〜アナイト！

キュアセイバーは別世界のプリキュア、キュアナイトに変身した。ナイトはイリージュオンロッドを出してから構える。

ナイト「ナイトシュート！」

ナイトの必殺技が発動した。イリージュオンロッドから放った光線がアブレラに直撃した。

アブレラ「そんな！この私がー！」

アブレラは叫びながら大爆発が起こった。アブレラを倒したナイトはパイレーツに戻った。

パイレーツ「もう少しだけ待って大樹。私は、皆を救わなくちゃいけないから。」

パイレーツはそう言うとパイレーツはこの場から去った。彼女は何故、ディエンドこと海東大樹の事を知ってるのか？果たして海東と彼女の関係は一体何なのか？

その頃、ルミナスは奏太達を安全な場所へ隠れた。ルミナスはゴージャードとミューズ達が戦っている隙に奏太達と一緒に怪人達か

ら振り切ろうと必死だったのだ。

ルミナス「大丈夫？」

奏太「どうして・・・」

ルミナス「ん？」

奏太「プリキュアは何で俺達を助けるんだ？プリキュアは俺達の敵なのに・・・」

するとルミナスは奏太の肩を掴んだ。

ルミナス「それは、皆の幸せや笑顔を守る為に色々な悪魔と戦って来たんです。最初は訳が分からない事はあるけど、でもプリキュアは決して迷う事はなくプリキュアとして戦い続けて来たの。私だつて同じ、私はプリキュアの仲間だから。」

奏太「仲間？」

ルミナス「ウフツ。」

ルミナスは奏太達に笑顔を見せた。亮太とみのりはプリキュアの事を信じた。でも奏太はプリキュアが人々を守る事は信じていない。ルミナスは奏太を励まそうとしたその時・・・

ドーン！

壁から多数のショットカー戦闘員やクライシス戦闘員やマスカレイドドーパントや屑ヤミー、そしてイーグルアンデッドやパラドキサア

ンデッドや3体のモールイマジンやウヴァがいた。パラドキサアンデッドは鎌でルミナスの右腕に攻撃した。

ルミナス「キヤー！」

ポルン「ルミナス！」

ルミナスの右腕から血が流れていた。奏太達は逃げ場もなく、怪人達に囲まれる。丁度その頃、ゴーカイジャーとブラックコンドル達とミューズ達が戦いながら着いた。そしてゴーカイレッドはルミナスを見た。

ゴーカイレッド「ひかり！退け！」

ゴーカイレッドは怪人達に攻撃しながらルミナスの所へ駆け寄ろうとするが、ツ・バツィ・ダとカザリがゴーカイレッドを抑えた。

ゴーカイシルバー「マーベラスさん！」

ダークプリキュア「くそっ！」

イーグルアンデッドはルミナスや奏太達と一緒に止めをさそうと準備した。

ゴーカイレッド「やめろー！」

そしてイーグルアンデッドはルミナスに止めをさそうとしたその時！

「マックスー！」

突如誰かの声が聞こえると、何処かのビームがイーグルアンデッドに直撃すると壁まで吹っ飛ぶとイーグルアンデッドは爆発した。

ゴークaipink「今のは？」

ゴークaiieo「何？」

ゴークaigreen「ん？」

ゴークaigreenは21人の少女が此処まで走って来る事に気付いた。

ゴークaiblue「あれは・・・」

ダークドリーム「あれは、まさか！」

アバレキラ「きっとそうに違いないな。」

21人の少女の正体はハイパーショッカーによって洗脳された筈のキュアブラックやキュアホワイト。

キュアブルームやキュアイーグレット。

キュアドリームやキュアルージュ、キュアレモネードやキュアミント、キュアアクアやミルキローズ。

キュアピーチやキュアベリー、キュアパインやキュアパッション。

キュアブロッサムやキュアマリン、キュアサンシャインやキュアムーンライト。

キュアメロディやキュアリズム、キュアビートの姿だった。

第14話：海賊プリキュア（後書き）

まだまだパイレーツの出番がありますのでご安心下さい。

第15話：プリキュア集結！

ルミナス「なぎささん！ほのかさん！」

ゴークイレッド「お前等……」

ブラックとホワイトはルミナスの所へ駆け寄る。

ブラック「ひかり、大丈夫？」

ルミナス「はい！」

ホワイト「私達の歴史を修復する為に未来から来てくれたんだね。」

ルミナス「え？」

ブラックとホワイトは何故か未来を救う為に歴史を修復しに来たという事を知っていた。いや、知っているのは二人だけではない。ブルーム達も知っていたのだ。

ゴークイブルー「何故知ってる？それにどうやってあの怪人達から逃れた？」

ブルーム「あの7人が私達を助けてくれたの。」

ゴークイイエロー「あの7人？」

ブラック達はどうやってあの怪人達から逃がれたのか？あの7人というのは何なのか？30秒前にさかのぼる。

ブラック「こいつ等、強過ぎる。」

ブラック達はイカデビル達と何度でも戦うが、全く歯が立たなかった。

ドリーム「このままじゃ、私達が・・・」

ピーチ「でも、絶対に負けない！」

シャドームーン「無駄だと言う事が分からのか？」

プロツサム「私達はまだ諦めません！貴方達に私達の未来は絶対に渡しません！」

ジェネラルシャドウ「ほざいている虫ケラ共。どうせ私達に勝つ事は不可能だからな。」

ジェネラルシャドウはシャドウ剣をキュアブラックに向けた。

ブラック「くっ・・・」

ブルーム「ブラック！」

ジェネラルシャドウ「死ね！」

ジェネラルシャドウはシャドウ剣でキュアブラックに止めをさそうとしたその時。

????「ライダーキーック！」

突如誰かの声が聞こえると、ジェネラルシャドウは誰かいる事を感じブラックから離れた。するとブラックの前から一人、いや7人の戦士がいた。

メロディ「あれは……」

ローズ「あれつてもしかして……」

ビート「きつとそうよ!」

その正体は……伝説と語り継がれる仮面ライダー、一号と二号。更に仮面ライダーV3にライダーマン、Xやアマゾン、ストロンガーがいた。そう、彼等はデルザー軍団から人々を守った『栄光の7人ライダー』と呼ばれた戦士達だ。彼等はある彼女からプリキュアの世界がハイパーショッカーの危機にさらされている事を聞き、彼等はプリキュアの世界を守る為、7年前にやって来たのだ。

ビート「本郷さん!一文字さん!」

一号「うん。」

ヒルカメレオン「ライダー!何故貴様等が此処にいる!？」

一号「俺達は彼女から事情を聞いた。ハイパーショッカー、お前達の野望は……俺達が打ち砕く!」

ガラガラランダ「くっ、おのれー!」

V3「プリキュア!此処は俺達に任せて歴史を修復する為に未来か

らやって来たゴークイジャーやクイーン達の所へ行け！」

ミント「え？」

ライダー達は何故かゴークイジャーやルミナス達が未来から来た事を知っていた。

マリン「あんた達はどうすんの！」

ライダーマン「俺達はいいつ等を食い止める！さあ、早く行け！」

レモネード「でも！」

X「俺達は大丈夫だ。さあ、早く！」

ブラック「・・・」

するとブラックは拳を握り閉めるとブラックはある決断を下す。それは・・・

ブラック「分かった、死なないで。仮面ライダー。」

アマゾン「うん。アマゾン、プリキュアとトモダチ。」

ブラック「皆、行こう。ルミナスやマーベラス達を助けに！」

「うん！」

するとアカルンが現れるとアカルンから鍵みたいな物になり、リンクルンにさすと、パッケージが開いた。

パッション「さあ、行くよ。ゴークイジャーやルミナスの所へ！」

するとプリキュア達全員は赤い光に包まれると、プリキュア達は消えた。

ストロンガー「頼むぞ。」

ベリー「という訳よ。」

ゴークイグリーン「そうなんだ。」

ゴークイピンク「仮面ライダーさんはどうなったのですか？」

パイン「きっと大丈夫です。仮面ライダーは絶対に負けはしません。」

ゴークイイエロー「話は終わったようね。早くこの状況を何とかしないと・・・。」

話をしていたら何時の間にかゴークイジャーとブラック達は怪人達の周りに囲まれていた。

メロディ「ミューズ、行ける？」

ミューズ「勿論！」

ブラックコンドル「とにかく5分以上だ。行くぞ！」

ゴークイレッド「ああ！」

ブラック「ルミナス、亮太をお願いします。」

ブルーム「みのりも！」

リズム「奏太を守って！」

ルミナス「はい！」

奏太達は今思った。何故プリキュアは奏太達の知っているのか？何故プリキュアは奏太達を守ろうとしていたのか？少しずつ三人の記憶が浮かび始めた。プリキュア達は皆の笑顔を守る為に色々な悪魔達と戦って来た。プリキュアは人殺しをした事は一回もない。亮太はなぎさにコブラツイストを喰らったり、追いかけられた事や、みのりは咲の手伝いをした事や、奏太は奏に怒られたり、ワサビ入りケーキを響に奏に食べさせた事があった。そして、三人はプリキュアが敵ではない事が分かり、三人の記憶が戻った。三人は本当の敵はハイパーショッカーだとやっと分かったのだ。

ゴークイレッド「一気に片を付けるぞ！」

ゴークイジャーはレンジャーバツクルを押すとレンジャーバツクル

から5色の光が一つになると、ゴーカイガレオンバスターが現れた。

ゴーカイレッド「ゴーカイガレオンバスター！」

ルミナス「マーベラスさん、これを……」

ルミナスの手元には見た事がないレンジャーキー……いや、これはプリキュアの大きいなる力を持つレインボーキーだった。ゴーカイレッドはレインボーキーを手取る。ゴーカイレッドはルミナスを見るとルミナスは首を下に降る。

ゴーカイレッド「ああ。」

「レンジャーキー、セツト！」

ゴーカイブルーとゴーカイイエローのレンジャーキーを左からさし、ゴーカイグリーンとゴーカイピンクのレンジャーキーを右からさし、最後にレインボーキーをさす。

レインボーチャージ！

5つのキーをさすとエネルギーをチャージし、ゴーカイレッドとルミナスはゴーカイガレオンバスターを持つ。

更にゴーカイレッドの左肩からゴーカイブルーとゴーカイイエローが掴み、ルミナスの右肩からゴーカイシルバーとゴーカイグリーンとゴーカイピンクが掴んだ。

「ゴーカイガレオンバスター！」

ラ〜イジングストラ〜イク!

ゴーカイガレオンバスターが発射すると虹色のゴーカイガレオン型のビームが現れ、ツ・バザー・バヤドラゴンオルフェノクやパラドキサアンデッドやウカワームや3体のモールイマジンやカザリやウヴァ、そして怪人達に直撃した。直撃すると怪人達から大爆発が起こった。

ブラックコンドル「たたく〜美味しい所を持ってかれたぜ。」

黒獅子リオ「行くぞ。」

メレ「理央様、行くなって何処へ?」

黒獅子リオ「決まっている。あのバーコードライダーの所へ行くぞ。」

ルージュ「バーコードライダー?」

ミューズ「あ、そっか。忘れてた!」

エルス「早く行こう!」

ディリー「うん!」

そう言うとゴーカイブルーやブラック達は訳が分からないまま、ブラックコンドル達もディケイド達の所へ向かった。

ゴーカイシルバー「あ、せつなちゃん!」

ゴークイシルバーはパッションの名前を呼ぶとパッションはピタッと止まった。

パッション「やっと私の名前を呼んでくれたのね、鎧。」

パッションはゴークイシルバーに笑顔を見せると、ゴークイシルバーは少し赤くなった。ゴークイシルバーは少し恥ずかしかった。

パッション「さ、行く。」

ゴークイシルバー「はい！」

パッションとゴークイシルバーも一緒にデイケイド達の所へ・・・

ゴークイレット「俺達も行くぞ。」

ルミナス「あの、マーベラスさん！」

ルミナスはゴークイレットを呼ぶと、ゴークイレットはルミナスを見た。

ゴークイレット「何だ？」

ルミナス「あの・・・私、マーベラスさんの事・・・」

ゴークイレット「ん？」

ルミナス「えっと・・・私、マーベラスさんの事が・・・す、す・・・」

ゴーカイグリーン「マーベラス、早く！」

ゴーカイレッド「あ、ああ。話は後だ、行くぞ。」

ルミナス「・・・」

ルミナスはゴーカイレッドの事が心配であり、もしゴーカイレッドに何かあったらどうなるのか悩んでいた。

ポルン「ルミナス、早く一緒に行くポポ！」

ルルン「早くルル！」

ルミナス「う、うん。」

ルミナスもゴーカイレッドと一緒にディケイド達の所へ・・・

工場の外

ディケイド「何だこの強さ？まともじゃねえぞ。」

ディケイド達は十面鬼と戦うが、ディケイド達は十面鬼に押されて

いた。

十面鬼「どうしたディケイド？さっきの勢いは何処行った？」

するとゴークイジャーやブラック達、ディリーやエルス、ブラック
コンドル達がやって来た。

ディケイド「あれが・・・プリキュア。」

そう、ディケイド達はプリキュア達と出会うのはこれが初めてなのだ

ディエンド「君達、ミラクルライトは無事か？」

ディエンドがミラクルライトの事を言うと奏太は早速ミラクルライ
トを出す。どうやらミラクルライトは無事のようにだ。しかし十面鬼
はナスカ・ドーパントの能力、超高速でゴークイジャー達の所へ近
付き、十面鬼は何と奏太が持つてるミラクルライトを奪い取ってし
まった。

ルミナス「あ、ミラクルライトが！」

十面鬼「フハハハハ、ついに手に入れたぞ。ミラクルライト！これ
でプリキュアの世界が支配する事が出来るぞ！ハハハハハ！ディ
ケイド、此処が貴様の墓場になる！」

十面鬼は超高速でミラクルライトを持ったまま、逃げてしまった。

ゴークイピンク「そんな。」

ポルン「もう終しまいポポ。ひかり達の世界がハイパーショックー

に・・・」

キバーラ（ライダー）「何とかならないのですか？」

ブラックコンドル達は考えた。ハイパーショッカーのアジトは何処なのか分からない。このまま探し続ければ、ショッカープリキュアは誕生し、世界がまた支配される事になってしまう。だが・・・

ムーンライト「皆、大丈夫よ。」

マリン「え？」

サンシャイン「何が大丈夫なの？」

ムーンライト「話は全てエルスやディリーから聞いたわ。本物のミラクルライトは、これよ。」

ムーンライトの手には何と、十面鬼が奪い取ったはずのミラクルライトがあった。

ゴークアイエロー「これって・・・」

ドラゴンレンジャー「どどういう事だ？」

ムーンライト「十面鬼が持っていたミラクルライトは、発信器を付けた偽物よ。」

全員は少し驚いた。

タイムファイアー「何の為に？」

ムーンライト「十面鬼は必ずショッカー首領という奴に届くはず。だからアジトを探る為にすり替えたのよ。」

ゴークイブルー「流石だな。」

ルルン「キュアムーンライト、凄いルル！」

デイリー「これで、ミラクルライトがハイパーショッカーの手に渡らなくなったね。」

エルス「ハイパーショッカーを倒せば、歴史の修復は完了ね。」

クウガ「で、これからハイパーショッカーのアジトへ行くんだな？」

ローズ「勿論。」

ダークドリーム「のぞみ……」

ドリーム「一緒にやろう、ダークドリーム。だって私達、友達じゃん。」

ダークドリーム「うん。」

フラワー「つぼみ。」

ブロッサム「はい。」

奏太「アハッ。」

奏太は笑顔を皆に見せた。そう、奏太が笑顔になったのはこれが初めて。それを見た亮太とみのりも笑顔を見せた。勿論二人も笑顔を見せたのが初めてだった。

ダークプリキュア「行くぞ、ハイパーショッカーのアジトへ……」

ゴークイレッド「ああ。」

ルミナス「……」

ゴークイジャーやプリキュアオールスターズ、ディケイド達とブラツクコンドル達はハイパーショッカーのアジトへ向かった。未来を救う為に……

第16話：ルミナスの想い（前書き）

ひかりごめん！本当はこんな事しなくなかった！ホントにごめん！

第16話：ルミナスの想い

奏太達はひとまずゴーカイガレオンの中へ残る事になった。理由はもし危険な可能性があるからゴーカイレッドは奏太達に残れと言われたのだ。

奏太「まさかあの綺麗な湖の地下にハイパーショッカーのアジトがあったなんて・・・俺も行きたかったな。」

亮太「でもお姉ちゃんやほのかさん、僕達に心配かけたくないから此処に残っているかもしれないよ。」

みのり「私も行きたかったけど、今はお姉ちゃんを信じよ。」

奏太「ああ。」

その頃、ゴーカイジャーやプリキュア、ディケイド達とブラックコンドル達はハイパーショッカーの本部を探していた。ムーンライトは探索機で発信器をつけたミラクルライトなら本部は何処なのか分かるはずだ。探してる途中、多数のアンウンやミラーモンスターやファンガイアがゴーカイジャー達の周りから現れた。

ゴーカイイエロー「またあんた達？いい加減にしてよ。」

ムーンライト「仕方ないわ。なら・・・ん？」

するとブラックコンドル達とダークドリームやダークプリキュアやキュアフラワー、クウガやキバーラ（ライダー）が前に出た。

ゴーカイレッド「何の真似だ？」

デカマスター「ゴーカイジャーやプリキュア、そしてディケイド。此処は我々に任せてくれ。」

メロディ「な、何言ってるの？」

ビート「そうよ、貴方達を置いてく訳・・・」

メレ「私達は大丈夫よ、理央様さえいればそれでいいの。」

アバレキラ「未来を救うんだろ？だったら早く行け。」

ゴーカイシルバー「壬琴さん・・・」

本当はプリキュアの世界を守る為にハイパーショッカーの本部に行きたいが、歴史を修復出来るのはゴーカイジャーとプリキュア、ディケイドやディエンドしかないと考えていただろう。

ディケイド「夏海、ユウスケ。必ず帰って来る。」

クウガ「ああ。」

キバーラ（ライダー）「気を付けて下さい、土君。」

ディケイド「ああ。」

ドリーム「皆、ダークドリームや凱さんの為に、行こう！」

「うん！」

そう言うとゴーカイジャーやディケイドやディエンド、プリキュア達はハイパーショッカーの本部へ向かった。

クウガ「絶対に勝てよ、土。」

黒獅子リオ「さあ、始めるか。」

ダークプリキュア「ああ。」

ゴーカイレッド「どうなってんだ？」

ハイパーショッカーの本部へ見つけ、中へ入ると妙に静かだった。此処の本部は怪人達がいるはず。それなのに……

ルルン「誰もいないルル。」

ルルンの言う通り、ショットカー首領や戦闘員達すら誰もいなかった。するとゴーカイイエローとマリンは場所を間違えたと言うが、ムーンライトは間違っはうがなく、此処はハイパーショットカーの基地だ。間違いなはずはない。すると・・・

???「ようこそ、ゴーカイジャーやプリキュア、仮面ライダーの諸君。」

ピーチ「だ、誰!?!」

デイエンド「その声は・・・」

デイエンドは後ろに振り向くと何とショットカー首領が姿を現した。それと同時にデイケイドやゴーカイジャーやプリキュアも首領の方へ向く。

デイケイド「あれは・・・」

デイエンド「あれこそがハイパーショットカーの支配者だ。」

ブルーム「あれがハイパーショットカーの・・・」

ゴーカイシルバー「もう逃げられないぞ!」

首領? 「黙されたな、デイケイド。」

ゴーカイレッド「何?」

すると首領の声が変わった。首領はマントや衣装を脱ぐと、その姿は何と十面鬼だった。

ディケイド「十面鬼！」

十面鬼「ライトを処分したつもりだが、本物は此処にある」

十面鬼の手には何とムーンライトがすり替えたはずのミラクルライトだった。

ルミナス「何時の間に！」

十面鬼「あの時私が落としたミラクルライトは、すでに偽物にすり替えたのだ。」

ムーンライト「そんな・・・」

首領「つまり、貴様達を一網打尽をする為の罠だったのだ。」

すると十面鬼の後ろからショッカー首領と黒沢歩美が現れた。

ゴークaipink「あれ、あの子は確か・・・」

ゴークaipinkは歩美を見るとゴークaiジャーと出会ったショッカープリキュアとそっくりな少女だった。

ディリー「あの子こそが、ショッカープリキュアよ。」

ディケイド「あいつが？」

首領「出でよ、シヨツカープリキュア！」

シヨツカー首領はシヨツカーライトを使うとシヨツカーライトは光り始め、それと同時に十面鬼が持っていたミラクルライトが光り始め、その光は歩美に向けて反射した。歩美は目をつむると歩美の体が光り始めた。

ミューズ「何この光!？」

エルス「これが、シヨツカープリキュア誕生の瞬間。」

歩美「許せない、スーパー戦隊。いつか私はパパとママを救えなかつたお前達を復讐すると誓った。貴様等は、私が一人残らずぶつ潰す!プリキュア!シヨツカープロテクション！」

歩美が叫ぶと歩美の姿からシヨツカープリキュアの姿に変わった。シヨツカープリキュアは変身を終わるとゆっくり地に着いた。

ゴーカイグリーン「スーパー戦隊の復讐？」

ゴーカイブルー「じゃあお前はスーパー戦隊の世界で生まれたのか？」

シヨツカープリキュア「ええ、私はスーパー戦隊の世界で生まれた住人よ。」

「！」

すると十面鬼と首領はゴーカイジャーとプリキュア、デイケイド達

の最後である事を知り、二人は姿を消した。

デイケイド「此処で全てを終わらせるぞ。」

ゴークイレッド「ああ、行くぜ！」

「おう！」

ゴークイジャーとプリキュア、デイケイドとディエンドは一斉に走り出す。ゴークイブルーとゴークイエローはゴークイサーベルで攻撃。だが、ショッカープリキュアは片手で止め、手を離すと拳で二人を吹き飛ばす。次はルミナスに向かって衝撃波を放つ。それを見たゴークイグリーンとエルスとデイリーはルミナスの身代わりに攻撃に喰らってしまう。デイケイドは拳で攻撃するが、全く効果はなかった。ショッカープリキュアはデイケイドライバーをはぎ取ると土の姿に戻ってしまい、土を蹴り飛ばす。ディエンドはディエンドライバーでショッカープリキュアに向けるが、カブトの能力でショッカープリキュアはディエンドライバーを奪い、ディエンドライバーをディエンドに向けて連射した。ディエンドは海東の姿に戻ってしまい、ディエンドライバーを投げ捨てた。

ミューズ「プリキュア！スパークリングシャワー！」

ミューズはショッカープリキュアに向けて必殺技を放つ。だがショッカープリキュアは右手を前に出すとバリアが現れ、ミューズの必殺技を防ぐ。更にミューズの必殺技をはね返し、ミューズは避ける暇もなくスパークリングシャワーに直撃してしまう。それと同時にアコの姿に戻ってしまった。

メロディ「アコ！」

シヨツカープリキュア「プリキュア！流星群！」

シヨツカープリキュアは右手を前に出すと、シヨツカープリキュアの手から流星群が現れ、プリキュア達の周りから大爆発が起こった。ゴーカイシルバーは後ろから攻撃しようとしたが、シヨツカープリキュアは片手で止めた。

ゴーカイシルバー「どうして？どうしてスーパー戦隊を憎むんだ！」

シヨツカープリキュア「私はレジェンド大戦でパパとママは私を守る為にザンギャツクに殺された。私はスーパー戦隊の助けを待ったのに助けてくれなかった。だから私はあいつ等を復讐する為に一人で生きて来たのよ！」

ゴーカイシルバー「そんな理由で・・・そんな理由でスーパー戦隊の復讐なんて間違ってるよ！」

シヨツカープリキュア「うるさい！」

シヨツカープリキュアはゴーカイシルバーを投げ飛ばした。ゴーカイピンクはゴーカイガンで攻撃するが、何故か地面の方に撃っていた。

ゴーカイピンク「確かに貴方の気持ちは分かります。私の星も、ザンギャツクに滅ぼされました。貴方も私と同じです。ですがスーパー戦隊は皆の地球の平和を守る為に戦ったんです。貴方がスーパー戦隊を倒せば、地球は誰が救えるのですか？」

シヨツカープリキュア「あ、それは・・・」

シヨツカープリキュアはスーパー戦隊を倒せば一体誰が地球を救える事を考えてなかった。そして彼女はスーパー戦隊は皆を守っている事を思い出し、シヨツカープリキュアは地面に転んだ。

シヨツカープリキュア「私、間違ってた。私、何でこんな事してるんだろう？私、何でただの八つ当たりなんかしたんだろう？」

ルミナスはシヨツカープリキュアに近付くと、ルミナスは手を差し述べた。

ルミナス「一緒にやり直しましょう。そうすれば貴方には生きる価値はきつとあります。」

シヨツカープリキュア「初めて会ったのに、私を支えてくれるの？」

ルミナス「はい。」

ポルン「シヨツカープリキュア、ポルンも一緒ポポ」

ルルン「ルルンも一緒ルル」

シヨツカープリキュア「・・・」

シヨツカープリキュアはルミナスの手をゆっくりと手を繋ぐようにしたその時・・・

首領「シヨツカープリキュア、貴様の使命は忘れたのか？」

シヨツカープリキュア「え？」

首領の声が聞こえるとシヨツカープリキュアの腰に付いてるベルトから電撃が流れ、シヨツカープリキュアを襲った。

ルミナス「シヨツカープリキュア！」

シヨツカープリキュア「来ないで！ぐっ、うう……」

ゴークイレッド「シヨツカープリキュア！」

シヨツカープリキュア「うわあああああ！」

電撃が無くなるとシヨツカープリキュアはゆっくりと体が下に向いた。シヨツカープリキュアはゆっくり前を向くとシヨツカープリキュアの目は赤く光っていた。

ルミナス「シヨツカープリキュア？」

シヨツカープリキュア「倒す。この手で……貴様等を！うおー！」

シヨツカープリキュアはうなり声を上げるともの凄い風が吹き始め、ゴークイジャーとプリキュア、土と海東は吹っ飛んだ。吹っ飛んだ同時にゴークイジャーとエルスとデイリーの変身が強制解除されてしまった。シヨツカープリキュアはゆっくりとマーベラス達やプリキュアに近付く。

ルミナス「もうやめて下さい！シヨツカープリキュア！争ったって何も変わりません！」

マーベラス「本当はスーパー戦隊を倒すつもりはないんだろ？」

士「スーパー戦隊は何の為に戦おうとしたのかお前には分かるはずだ！」

シヨツカープリキュアは聞く耳もなく、ゆっくりと近付いて行く。
もう無す術は無いと思ったその時。

シヨツカープリキュア「ん？」

マーベラス達は後ろに振り向くと、ゴーカイガレオンと豪獣ドリルが現れ、中からブラックコンドル達やダークドリームやダークプリキュアやキュアフラワー、そして栄光の7人ライダーが姿を見せた。

マーベラス「お前等……」

士「一号、二号。」

一号「よく頑張った。後は俺達に任せろ。」

そう言うと7人ライダーはマーベラス達やルミナスやアコ、御子とアイリをゴーカイガレオンや豪獣ドリルの中へ連れて行く。

V3「彼女の事は俺達に任せろ。」

ルミナス「でも……」

ライダーマン「心配はいらん。俺達は彼女の心を取り戻すだけだ。」

一号「うん。」

7人ライダーはゴーカイガレオンから外へ出た。

一号「皆、準備はいいな？」

ブラックコンドル「勿論。」

アバレキラー「ときめくぜ。」

ブラック「私達も。」

ホワイト「皆、やりましょ。」

「うん！」

そして7人ライダーとプリキュアオールスターズ、ブラックコンドル達はハイパーショッカーとの最終決戦が今始まった。その間にゴーカイガレオンと豪獣ドリルが動き始め、少しずつ地面に離れていく。

夏海「この時代の事は、仮面ライダーやプリキュア、スーパー戦隊にお任せしましょう。」

ユウスケ「だな。取り敢えずこれで歴史の修復は完了だ。」

海東「ああ。」

亮太「本当かな？」

これでようやく全てが終わる、そう思った。そう思っていたはずだったが……

「ぐあー！」

「！」

ゴーカイガレオンと豪獣ドリルの外を見てみると、何と7人ライダーとプリキュアオールスターズ、スーパー戦隊はショッカープリキュアに圧倒されていた。

みのり「何か、苦戦してる。」

奏太「姉ちゃん！」

ショッカープリキュアを元に戻すにはまだ力が足りないのか？我慢出来ないマーベラスは助けようとしたが、土はマーベラスを止めた。だが、アコはある事に気付いた。

アコ「ねえ、ひかりは？」

ルカ「え？」

マーベラス達はルミナスがいない事に気付いた。そこでアイムはあるものを発見した。それと同時に発見した、それは……

マーベラス「ひかり！」

何と、何時の間にかルミナスはゴーカイガレオンから降りていた。ルミナスは苦戦している7人ライダーやプリキュア、スーパー戦隊を見ていると拳を握り閉めていた。マーベラスとポルンとルルンは、船の中からルミナスを呼んだ。

ポルン「ルミナス！何考えてるポポ！？」

マーベラス「戻って来いひかり！ひかりー！」

ルミナス「私は・・・私はショッカープリキュアを助けたいんです！」

ルミナスはそう答えるとルミナスは戦っているブラックとホワイトを見た。そう、ルミナスはずっと取り戻したかった仲間。それが今、目の前にいる。

ルルン「ひかり、戻るルル！」

ポルン「ナビィ！ゴーカイガレオンを止めてくれポポ！早くしないとひかりが・・・」

ナビィ「無理だよ！このままだとゴーカイガレオンや豪獣ドリルが奴等にやられちゃうよ！」

マーベラス「ひかり！戻って来い！」

ルミナス「マーベラス！」

ルミナスはマーベラスの名を呼ぶと、ルミナスはゴーカイガレオンを見る。だが、マーベラスだけは見えた。そしてルミナスはマーベラスに・・・

ルミナス「私、マーベラスの事が大好き。マーベラスに会えてよかった。後は、私達の未来を・・・頼みます。」

これがルミナスの最後の言葉になった。

マーベラス「ひかり・・・ひかり！行くなー！」

ポルン「ひかりー！死んじゃ嫌ポポ！」

ルルン「ひかりー！」

三人は叫ぶが、ルミナスは答えない。ルミナスはゆっくりとシヨックカープリキュアに近づく。近付いている途中に、ルミナスは涙を流した。そしてルミナスはシヨックカープリキュアに突撃する。

ルミナス（私は必ず生きて帰って来ます。だから、また皆で笑いましょう！）

マーベラス「ひかりいいいいいい！」

マーベラスはそう叫ぶとゴーカイガレオンはワームホールの中へ入り、鎧が乗った豪獣ドリルもワームホールの中へ入った。ルミナスはブラックとホワイトの所へ駆け寄る。

ルミナス「なぎささん！ほのかさん！」

ブラック「ひかり・・・」

ルミナス「一緒にやりましょう。」

ホワイト「うん！」

そしてルミナスの中心に右側からブラックやブルームやイーグレットやドリーム達やダークドリーム、
一号やV3やXやストロンガーやドラゴンレンジャーやタイムファイアーやアバレキラーや黒獅子リオ、
左側からホワイトやピーチ達やブロッサム達やメロディ達やキュアフラワーやダークプリキュア、二号やライダーマンやアマゾンやブラックコンドルやデカマスターやウルザードファイアーがいた。このまま負けるかもしれないが、でもやるしかないのだ。

ルミナス「皆さん、ショッカープリキュアを助けましょう！」

「うん！」

ルミナスはショッカープリキュアを守る為、ショッカープリキュアの戦いが始まった。

第16話：ルミナスの想い（後書き）

さらばひかり！果たして次回はどうなる？

第17話：ド派手に行くぜ！（前書き）

初めて9千字越えちゃったよ・・・

第17話：ド派手に行くぜ！

その頃、現代では空からワームホールが現れ、ワームホールからゴ
ーカイガレオンと豪獣ドリルが姿を現した。しかし、二機のメイン
エンジンから炎が吹き上がっていた。理由はゴーカイガレオンと豪
獣ドリルがワームホールへ入った時、アップグレードしたコマンド
ードーパントのミサイル二つがワームホールに入り、ミサイルがメ
インエンジンに直撃したのだ。このままだと爆発寸前。そう感じた
マーベラス達はモバイレーツとレンジャーキーを出し、土はディケ
イドライバーを腰にかける。豪獣ドリルに乗った鎧もレンジャーキ
ーをゴーカイセルラーに入れた。

「豪快チェンジ！」

「変身！」

ジエツトマン！

ゴーオンウィングス！

フォームライド、ブレイド！ジャック！

ジエツトマン、二つで一つのゴーオンウィングス、DCDブレイド
Jに変身し、近くにいたアコやアイリや御子や奏太達を抱き寄せる。
最初にゴーオンウィングスはポルンとルルンを抱き寄せてからジエ
ツトダガーを使って飛び降り、レッドホークは海東とユウスケ、ブ
ルースワローは亮太とみのり、イエローオウルは御子、ブラックコ
ンドルはアイリ、ホワイトスワンはアコと奏太、DCDブレイドJ
は夏海、ナビイはレンジャーボックスを抱えて一緒に飛び降りてか

ら羽を広げる。それと同時に二機の爆風が発生し、思うように飛べないまま地面に落ちる。地面に倒れると変身が解け、ゴークイガレオンと豪獣ドリルは爆発。二機は粉々に碎け散った。

ナビィ「ゴークイガレオンが〜！」

マーベラス「……」

ルカ「でも、これでハイパーシヨッカーは消えるね。」

そう、これでようやく終わる。ハイパーシヨッカーは消えるはずだったが、アコは周りを見ると驚く顔になる。

アコ「皆、見て。」

マーベラス達は前を見るとボロボロの街。

ザンギヤックとマイナーランドはプリキュアに敗北し、彼等は一時的撤退。

人々はハイパーシヨッカーによって殺された死体。そう、それは……

アイリ「歴史の修復が……」

御子「失敗した。」

つまり、ブラックコンドル達やダークドリームやダークプリキュア、プリキュアオールスターズと栄光の7人ライダーはハイパーシヨッカーには勝てなかったという事になる。

奏太「そんな、じゃあ姉ちゃんは負けたの？」

鎧「・・・」

亮太「そんな、お姉ちゃん。」

みのり「嘘だよね？こんなの嘘だよね？」

マーベラス「何だよこれ？ひかりはどうなったんだ？ひかりはどうなったんだよ！？」

ジョー「マーベラス、落ち着け！」

マーベラス「これが落ち着けられるか！ひかりは俺達の為に命を懸けて逃がしてくれた！なのにひかりは・・・」

ナビィ「マーベラス・・・」

するとマーベラス達の前にイカデビルやガラガンダや怪人達が現れた。

ガラガンダ「デイケイド、今まで何処に行っていたのかは知らんが、これで終わりだ。」

イカデビル「夏海、私と一緒に来い。そうすれば、夏海を殺す事はないからな。」

夏海「誰が貴方達なんかと！」

イカデビル「そうか、ならば死ね！」

怪人達はマーベラス達に襲いかかろうとしたが、士とユウスケと夏海は怪人達を抑え始めた。

マーベラス「士！」

士「逃げるマーベラス！こいつ等は俺達が食い止める！」

アイム「そんな！」

海東「君達がいたら足手まといだ！逃げる！」

マーベラス達は士達が怪人達を抑えてる間にマーベラス達は逃げる。だが、士達は怪人達の力が強くなっている為、士達は対抗出来ずに敗北。

マーベラス達が逃げるが、怪人達はどんどんと追い駆けていく。すると音吉がヒーリングチェストにあるピアノをひくとバリアが現れ、怪人達は吹っ飛ぶ。その隙に音吉はマーベラス達を連れてガレキの所へ隠れた。

奏太「もう追って来ないのか？」

音吉「いや、必ずワシ達を見つける可能性が高い。何とかせねば・

」

アコ「おじいちゃん・・・」

するとマーベラス達の後ろから少しの間姿を消したポルンが姿を見せた。

ナビィ「ポルン！何処行ってたの!?!」

でもポルンは何故か落ち込んでいた。一体何故なのか？ポルンはマーベラス達にある所へ連れて行く。一体何処へ行くのか？ポルンはある所へ到着するとマーベラス達はあるものを発見した。それは・

ルルン「ルルル……」

御子「あれは……墓？」

マーベラス「まさか……」

マーベラス達は墓に近付くと墓の隣にはハーティエルバトンとプリキュア手張があつた。マーベラスはプリキュア手張を手につつてから中身を見ると何かが書いていた。

マーベラス「7年後のマーベラスへ。私はショッカープリキュアを助ける為に……」

ひかり「何度も立ち上がりました。ですがなぎささんとはのかさんや結城凱さん達は力に及ばず敗北。敗北した後、ハイパーショッカーの怪人達は人々を襲撃し始め、私は皆を守る為に戦いました。ですが、私の力はまだ足りていません。私が死ぬ前に、海賊と名乗ったプリキュアが現れて墓を作つてハーティエルバトンやプリキュア手張を置きました。マーベラスと皆と会えてよかった。でも、これだけは忘れないで下さい。」

マーベラス「私は皆の未来に伝えたい事はただ一つ、それは……」

「」

マーベラスが読むとポルンとルルンは泣き始めた。二人は大切なひかりを守れなかった為、悔しかった。マーベラスが手張を読んでる途中、突然マーベラス達の周りから火花が出た。それはハイパーシヨッカーの怪人達の真ん中にはドリーム達やピーチ達、ブロッサム達がいた。

ドリーム「鬼ごっこはそこまでだよ。」

ルカ「のぞみ、皆・・・」

ピーチ「私達の仲間にならなければこんな事ならなかったのに、ホントに残念。」

ハカセ「ラブちゃん・・・」

ブロッサム「ま、あんたの仲間だったデイケイド達は仕留めた。後はお前達だ。」

アイム「音吉さん、奏太君達やナビィさんや妖精さんを連れて逃げて下さい。」

音吉「ああ。」

音吉は奏太達やナビィとポルンとルルンと一緒に安全な場所へ隠れた。マーベラス達は変身しようとしたその時。

レモネード「そうは行くかと思うなよ！」

「うわぁー!!」

何とレモネードのプリズムチェーンで変身アイテムを奪い、その隙に怪人達はマーベラス達を襲った。襲った後は縄で拘束。勿論士達も拘束し、その縄をブラックとホワイトが呼んだシヨツカー戦闘員達が掴んだ。

ミント「フッフ、これでディケイドや海賊、残ったプリキュアも最期ね。」

アクア「残念だったわね。」

アコ「お願い！離して！」

ルージュー「ダメよ、あんた達はもうすぐ処刑になるから。」

ベリー「そうよ、貴方達は完璧に死ぬから。」

マーベラス「お前等、それでもいいのか？一緒に戦ったひかりの気持ち、分かってんのか！」

ブラック「ひかり・・・」

ホワイト「・・・」

ムーンライト「余計な事は考えないで、二人とも。」

ローズ「そうよ、首領が待ってるよ。」

ブラック「ああ、すまないムーンライト。」

マリリン「あのさ、あの子供達はどつするの？」

サンシャイン「放つとけばいいさ。どうせ何も出来ないだろうし……」

パイン「そうだね。逆らうと、動物みたいのように死ぬし。」

パッション「パイン。」

パイン「はいはい。」

やはり言葉では通用しないのか？でも、マーベラス達は諦めない。だが、策が見つからない。マーベラス達は一体どうすればいいのか？

マーベラス（ひかり……）

マーベラスはモバイルーツを奪ばれる前に服の中に入れたハーティエルバトンを手当てした。

市街地の広場

公開処刑の開会の挨拶はショッカー首領ではなく、シャドームーンだ。

隣には死神博士、地獄大使、ブラック將軍、アポロガイスト、十面鬼、ジエネラルシャドウ、ジャーク將軍、シヨツカープリキュアが並んでおり、その周りには怪人達とプリキュア達が出た。更に檻の中にはメツプル達が出た。十字架に磔にされたマーベラス達は抜けようとするが、力が残ってない為、対抗出来ない。

シャドームーン「よく聞け、愚かな人間ども。地球を守る為に戦ったゴークカイジャーとプリキュア、そしてディケイド達は消滅だ。」

10万ほどの民衆はザワザワし始めた。民衆の中で怯える中に亮太とみのりと奏太、隣にはポルンとルルンが出た。彼等は不安だそう

シャドームーン「シヨツカープリキュア、先ずはあの赤い海賊を処刑しろ。」

シャドームーンはマーベラスに指を差すとシヨツカープリキュアはマーベラスに近付くと、シヨツカープリキュアはシャドームーンからサタンサーベルをマーベラスに向けた。

鎧「マーベラスさん！」

御子「シヨツカープリキュア、やめて！」

アイリ「そうよ、悪の心に負けちゃ駄目！」

二人は言葉でシヨツカープリキュアを説得しようとしたが、シヨツカープリキュアは反応しない。

マーベラス「……」

ハカセ「マーベラス！」

シヨツカープリキュアはサタンサーベルでマーベラスを処刑しようとした。しかし、間一髪でシヨツカープリキュアはサタンサーベルの振るうのは止めた。それと同時にサタンサーベルを落とした。

ブラック將軍「どうした？何をしている？」

シヨツカープリキュア「……出来ません。」

アコ「え？」

シヨツカープリキュア「私は人を殺す事は出来ません。だって私、この人を殺せば地球は誰が救うのか迷っていたんです。私はスーパー戦隊の復讐する事は間違っていました。何で逆恨みをしたのか何で八つ当たりをしたのか分かるような気がします。スーパー戦隊は誇りをかけて戦って来たんです。私にも憎しみにも乗り越える事が出来るんです！」

シヨツカープリキュアの目が黒くなると、彼女は正気を戻した。人々はシヨツカープリキュアの言葉を聞くと静かにしていた。するとシャドームーンはシヨツカープリキュアに近付いた。

「シャドームーン「そうか。お前を信じた私達がバカだったようだな。」

シヨツカープリキュア「え？キャッ！」

シャドームーンはシヨツカープリキュアを殴ると、シャドームーン

はサタンサーベルを持ち、マーベラスに処刑しようとしたその時、シヨツカープリキュアは何とシャドームーンの動きを止めた。

シヨツカープリキュア「人間は愚かではありません！人間は誰よりも大切なんです！そんな人間をどうして仲良くする事は出来ないんですか！？うっ！」

するとシヨツカープリキュアの後ろから胸が貫通した。シヨツカープリキュアは倒れると、アポロガイストがマグナムシヨツトでシヨツカープリキュアを抑えたのだ。

アポロガイスト「この裏切り者が！」

シャドームーン「助かったぞ、アポロガイスト。」

「やめろー！」

その時、一番前に出て来た奏太達がプリキュア達を呼びかけ続ける。

奏太「プリキュアー！ひかり姉ちゃんからのメッセージを聞いて！未来に伝えたい事はただ一つ、プリキュアは正義の味方！」

すると奏太の声を聞いたプリキュア達が一粒の涙を流した。

みのり「私、プリキュアを見て分かった！私達の仲間を殺した事や悪い事をしたのはハイパーシヨツカー！プリキュアは私達の仲間を殺してなんかない！」

亮太「お姉ちゃん！僕達にはお姉ちゃんの力が必要なんだ！お姉ちゃんー！」

三人はプリキュアに応援メッセージを送った。本当は皆も信じていた、『プリキュアは正義の味方』だと。彼女達を呼ぶ声は増え続け、そして民衆は……

「プリキュアー！頑張れー！」

アポロガイスト「ええ〜い！黙れ！我々に逆らう者は全て消す！先ずこいつから始末してやる！」

ハカセ「マーベラス！」

アポロガイストはマグナムショットをマーベラスに向けて発射した。マーベラスはこれで死ぬと思ったその時……

イクスバンド スカイツクパワー

突然電子音が鳴ると、マーベラスの前に赤い風が現れ、弾丸を跳ね返す。するともう一人の影が剣で怪人達を追い払う。そして彼は礫にされたマーベラスや士達、アコや御子やアイリを助ける。空から青年が現れた。それは……

士「殿様。」

マーベラス「アラタ。」

そう。彼等はレジェンド大戦で力を失った人物、志葉丈瑠とアラタ。士は以前、丈瑠と一緒に戦った事があり、マーベラスはアラタと一緒に戦った事がある。そんな彼等が何故？

それだけではない、池波流之介や白石茉莉、谷千明や花織ことはや

一度海東に奪われた梅盛源太。

エリやアグリ、モネやハイド、ゴセイナイトがいた。

マーベラス「どうしてお前等が？」

アラタ「実は彼女から事情を聞いて俺達は此処に来たんだ。」

丈瑠「此処を来るのにかなりのモジカラを使ったからな。」

夏海「あの、彼女って？」

ジエネラルシャドウ「ええ〜い、たかがネズミが増えたからって我々に勝てると思ってるのか!？」

流之介「どうかな？戦うのは我々スーパー戦隊だけではないぞ。」

ブラック將軍「何？」

ブラック將軍は空を見ると何と破壊されたはずのゴーカイガレオンと豪獣ドリル、そして時の列車デンライナーが現れ、ブラック將軍は吹っ飛ばすとヒルカメレオンとなった。

エリ「あ、来た!」

三機は止まると、デンライナーから一人の怪人と四人の人間が姿を現した。それは・・・

????「待たせたな!ディケイドに泥棒野郎!」

????「また会ったね、ジョー。」

????「遅れてすまない。」

????「プリキュアー！助けに来たぞー！」

????「そんなにはしゃぐな。」

士「モモタロス！」

海東「泥棒はやめたまえ。」

ジョー「満に薫。」

ハカセ「サウラーにウエスター！」

何とジョーやハカセが出会った人物、霧生満と霧生薫、ウエスターとサウラー。そして赤い鬼の怪人はモモタロス。早速地表に降りた。

モモタロス「こいつ等連れ出すだけでどれだけかかったと思ったんだよ？」

士「フツ、流石はモモタロスだな。」

すると灰色のカーテンが現れると、灰色のカーテンからショツカープリキュアに敗北されたはずの一号や二号やV3、ライダーマンやXやアマゾンやストロンガーやブラックコンドル達。それだけではない。

スカイライダーやスーパー1やZX、BLACKやBLACK R X、真やZ OやJ、アギトや龍騎とファイズ、ブレイドや響鬼とカブトやキバが現れた。

そう。彼等はプリキュアの世界を守る為、時空を越えてやって来たのだ。

ジャーク将軍「ほう？だが、こいつ等の命はどうなってもいいのか？」

ジャーク将軍は檻に入れられた妖精達を剣で向けた。

「???」「そうはさせねえぜ。」

するとジャーク将軍の後ろからまた灰色のカーテンが現れ、灰色のカーテンから三台のバイクが現れるとジャーク将軍に体当たりをし、檻に入れられた妖精達を救出。そのまま土達の所へ・・・

土「お前は・・・」

「???」「また会ったな、デイケイド？」

「???」「もう一度力を合わせよう。」

「???」「止められるのは、俺達正義の味方しかいませんね。」

「???」「じゃあ、やるか！」

その正体はかつて仮面ライダーWとしてドーパントと戦った左翔太郎とフィリップ。

次にかつて仮面ライダーオーズとしてヤミーやグリッドと戦った火野映司。

そして仮面ライダーフォーゼとして今もゾディアーツと戦っている如月弦太郎であった。

それを見た死神博士と地獄大使はイカデビルとガラガラランダに変身した。

ヒルカメレオン「プリキュア共！あいつ等を葬り去れ！」

ヒルカメレオンはプリキュアに命令するが、誰一人動いていない。

ヒルカメレオンはプリキュアに近付こうとしたその時。

ブラック「誰に向かって言ってるの？」

ヒルカメレオン「何？」

何とブラックは拳でヒルカメレオンを吹き飛ばす。それを見たイカデビル達は驚いているとブラックとホワイトはマーベラス達の所へ・

ブラック「メップル。皆、お待たせ。」

メップル「なぎささー！」

ミップル「ほのか〜！」

ホワイト「ごめんね、時間がかっちゃって・・・」

メップル「遅いメポ！」

ブラック「ごめんごめん。皆もそつでしょ？」

「うんー！」

ブルーム達もマーベラス達の所へ向かう。

シャドームーン「何故だ！？何故洗脳が！」

ブラック「あの時、亮太達の言葉で私達は目を覚ましたのよ！」

ホワイト「よくも私達を操ってくれたわね。」

ビート「奪い返しよ！」

レモネード「あ、皆さん！」

レモネードは先程奪ったモバイレーツとゴーカイセルラーとディケイドライダーとディエンドライダーとキュアマジューレとアイリと御子のアイテムを返した。

ドリーム「シロップ。ココ達やポルンとルルンやナビィをお願い！」

シロップ「分かったロプ！」

シロップは飛行態となり、メップル達やポルンとルルンやナビィを連れて安全な所へ移す。

ブラック「今回はやる？海賊とライダーとプリキュアのコラボレーション。」

ホワイト「頑張ったひかりさんの為だね。」

海東「勿論さ。」

士「ああ。」

マーベラス「蹴りをつけるぞ！」

「おう！」

ガツチャ！

キバーラ「フッフ、行くよ」

サイクロン！

ジョーカー！

3！2！1！

「一筆奏上！」

「一貫献上！」

「チェンジカード、天装！」

「豪快チェンジ！」

「「「変身！」」」

「レッツプレイ！プリキュアモジュレーション！」

「プリキュア！スキヤニングチェンジ！」

「プリキュア！ライトニングトランス！」

チェンジ、ゴセイジャー！

ゴウカイジャー！

ソードフォーム

カメンライド、ディケイド！

カメンライド、ディエンド！

サイクロン、ジョーカー！

タカ！トラ！バッタ！タ・ト・バ！タトバタ・ト・バ！

キュアライド、ディリー！

全員はそれぞれ仮面ライダーやプリキュア、スーパー戦隊に変身した。そして真ん中はゴウカイジャーとディケイドやディエンド、ブラックとホワイトが前に立つ。そうこれが、正義の戦士達だ。

「ブラックコンドル！」

「ドラゴンレンジャー、ブライ！」

「タイムファイアー！」

「トキメキの白眉、アバレキラー！」

「百鬼夜行をぶつたぎる。地獄の番犬、デカマスター！」

「猛る烈火のエLEMENT、ウルザードファイアー！」

「猛きこと獅子の如く。強きこと、また獅子の如く。我が名は黒獅子、リオ。」

「理央様の愛の為に生き、理央様の愛の為に戦うラブウォリア。臨獣カメレオン拳使い魔、メレ。」

「シンケンレッド、志葉丈瑠。」

「同じくブルー、池波流之介！」

「同じくピンク、白石茉莉！」

「同じくグリーン、谷千明！」

「同じくイエロー、花織ことは！」

「同じくゴールド、梅盛源太！」

「嵐のスカイツクパワー、ゴセイレッド！」

「伊吹のスカイツクパワー、ゴセイピンク！」

「巖のランディックパワー、ゴセイブラック！」

「恵みのランディックパワー、ゴセイイエロー！」

「怒涛のシーニックパワー、ゴセイブルー！」

「星を清める宿命の騎士、ゴセイナイト！」

「仮面ライダー、一号！」

「仮面ライダー、二号！」

「仮面ライダー、ブイスリヤー！」

「ライダーマン！」

「仮面ライダーX！」

「仮面ライダー、アーマーゾン！」

「天が呼ぶ、地が呼ぶ、人が呼ぶ・・・悪と倒せと俺を呼ぶ、仮面ライダーストロンガー！」

「スカイライダー！」

「仮面ライダースーパー1！」

「仮面ライダーZX！」

「仮面ライダー、BLACK！」

「俺は太陽の子、仮面ライダーBLACK！RX！」

「仮面ライダー・・・真！」

「仮面ライダー、Z.O!」

「仮面ライダー、J!」

「仮面ライダー、クウガ!」

「仮面ライダー、アギト!」

「仮面ライダー、龍騎!」

「仮面ライダー、ファイズ!」

「仮面ライダー、ブレイド!」

「仮面ライダー、響鬼!」

「仮面ライダー、カブト。」

「仮面ライダー電王。俺、参上!」

「仮面ライダー、キバ!」

「仮面ライダー、キバラー!」

「俺達は……」

「僕達は……」

「『二人で一人の仮面ライダー、W。さあ、お前の罪を数えろ!』」

「仮面ライダー、オーズ！」

「仮面ライダーフォーゼ、タイムンはらせて貰うぜ！」

「輝く金の花、キュアブルーム！」

「煌めく銀の翼、キュアイーグレット！」

「天空に満ちる月、キュアブライト！」

「大地に薫る風、キュアウインディ！」

「大いなる希望の力、キュアドリーム！」

「情熱の赤い炎、キュアルージュ！」

「弾けるレモンの香り、キュアレモネード！」

「安らぎの緑の大地、キュアミント！」

「知性の青き泉、キュアアクア！」

「青い薔薇は秘密の印、ミルキイローズ！」

「闇への希望、ダークドリーム！」

「もぎたてフレッシュ、キュアピーチ！」

「つみたてフレッシュ、キュアベリー！」

「とれたてフレッシュ、キュアパイン！」

「熟れたてフレッシュ、キュアパッション！」

「俺はウエスター！」

「僕はサウラー。」

「大地に咲く一輪の花！キュアブロッサム！」

「海風に揺れる一輪の花！キュアマリン！」

「陽の光浴びる一輪の花！キュアサンシャイン！」

「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」

「私は、ダークプリキュア。」

「聖なる光に輝く一輪の花、キュアフラワー！」

「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

「光の集大成、キュアデイリー！」

「救済と新生を司りし閃光、キュアエルス！」

「ゴーカイレッド！」

「ゴーカイブルー！」

「ゴーカイイエロー！」

「ゴーカイグリーン！」

「ゴーカイピンク！」

「ゴウカイ・・・シルバー！」

「俺は通りすがりの仮面ライダー、ディケイドだ。覚えておけ！」

「僕の名は、仮面ライダーディエンド。」

「光の使者、キュアブラック！」

「光の使者、キュアホワイト！」

全員の名乗りが終わるとそして・・・

「我等、正義のヒーロー！」

後ろから爆発が起こった。

ブラック「さてと・・・」

ディケイド「今回は特別編だからな。」

ゴウカイレッド「ああ、いつもより……」

「ド派手に行くぜ！」

倒れたショッカープリキュアは正義のヒーローを見ていた。

ショッカープリキュア「後は、頼むよ。」

ショッカープリキュアは目をつむると、彼女の息は引き取った。

第17話：ド派手に行くぜ！（後書き）

満はブライト、薫はウィンディになってます。さて次回を書くのが物凄く大変になります。

第18話：魔弾戦士と光の戦士（前書き）

初の1万字越えであり、今年の更新でこれが最後です。戦闘描写を書くのがめっちゃ大変だった。

後、ソラさんから『ウルトラマンティガ&ハートキャッチプリキュア』光と闇の超決戦』からティガとアース、デユミナスが出ます。

第18話：魔弾戦士と光の戦士

「ド派手に行くぜ！」「」

ゴークイレッドとデイケイド、キュアブラックは台詞を言うと奏太達や人々達は歓声を上げた。それを見た十面鬼はイライラとし、十面鬼は怪人達に合図を送る。送った同時にショッカーグリード、ドラスが現れ、怪人達は走り出す。正義のヒーロー達も走り出し、激しい戦いが繰り広げられる。

「うおおおおお！」「」

ブラックコンドル「コンドルフィニッシュ！」

先ずブラックコンドルから必殺技で半数のマスカレイド達を切り裂く。地表に降りたブラックコンドルはドラゴンレンジャーとタイムファイアーとアバレキラー、黒獅子リオとメレと一緒に次々と怪人達を何度も何度も攻撃しまくる。

ショッカーグリード「仮面ライダー、今度こそ貴様等を葬り去ってやる！」

一号「葬り去るのはお前の方だ！ショッカーグリード！」

二号「お前の好き勝手にはさせん！」

次は一号と二号、ショッカーグリードの戦いが再び始まる。40年前の過去ではライダーは破れたが、現代ではライダーはショッカーグリードに勝った。だが、今度のショッカーグリードは本気だ。シ

ヨツカーグリードは怯む暇もなく、一号と二号を攻撃し続ける。シヨツカーグリードの攻撃を受けた二人は何度も立ち上がる。だがシヨツカーグリードは空を飛んでから弾丸を放つ。一号と二号は構えると突然二人の回りからバリアが現れた。

一号「あ、これは？」

ブルーム「大丈夫ですか、ライダー？」

二号「君達、何故？」

ブルーム「これ以上ライダーにいいところ持って行く訳にはいけませんからね。」

イーグレット「一緒にやりましょ。」

一号「うん。」

話が終わった後、シヨツカーグリードはライダーとブルームとイーグレットに攻撃し始めた。それに気付いたブルームとイーグレットは再びバリアを繰り出す。バリアが敗れた後、爆風が発生した。それを見たシヨツカーグリードは地表に降りる。煙が晴れるとブルームとイーグレットは必殺技の準備をしていた。

イーグレット「今、プリキュアと共に！」

ブルーム「奇跡の力を解き放て！」

「プリキュア！ツインストリーム、スプラッターシュ！」

二人はショッカーグリードに向かって必殺技を放つ。だが、ショッカーグリードは羽を広げてから飛び、空から攻撃しようとした。しかし……

一号「電光ライダーキック！」

二号「ライダー、正キック！」

何とブルームとイーグレットの後ろから一号と二号がジャンプし、更に特訓によってパワーアップした教化ライダーキックがショッカーグリードに炸裂した！ライダーキックを喰らったショッカーグリードは壁まで吹っ飛んだ。

ショッカーグリード「ショッカー！」

ショッカーグリードは叫ぶとショッカーグリードは爆発した。

一号「ありがとう。」

ブルーム「ニヒヒ。」

ライトニングスラッシュ！

ブレイド「ウェイ！ウェイ！」

ブレイドはブレイドラウザーから二枚のカードを出し、二枚のカードをブレイドラウザーにスキャンする。するとブレイドラウザーから電撃が流れ、ダークローチ達を切り裂く。ゴークイブルーは二つのゴークイサベル、キュアアクアはトルネードフルーレで怪人達を切りまくる。三人は背中を合わせると三人は怪人達の周りに囲ま

れる。

ブレイド「くっそ、数が多過ぎる。一体どうすれば・・・」

アクア「ならばこうするしかありませんよ。」

ブレイド「え、こうするって?」

ゴークイブルー「こういう事だ。」

するとゴークイブルーは二つのゴークイサーベル、アクアはトルネードフルーレを投げた。それと同時にブレイドはブレイドラウザーを投げた。そしてゴークイブルーの右手にはブレイドラウザー、左手にはトルネードフルーレを手取る。アクアとブレイドはゴークイサーベルを手取った。

ブレイド「お、こんなのもありが。」

アクア「私、こういうの使ってみたかったの。」

ゴークイブルー「借りるぞ。フッ!」

そう言うとゴークイブルーはブレイドラウザーとトルネードフルーレを上手く使いながら怪人達を切る。アクアとブレイドもゴークイサーベルで怪人達を攻撃する。調度その頃、シンケンブルーとゴセイブルー、ベリーとマリンとビートは怪人達と戦っている最中、マリンは三人の戦いを見た。

マリン「ああ!いいないいなー!ねえねえ、あたし達もやってみない?」

ゴセイブルー「いや、それはやめた方がいい。」

ベリー「私もゴセイブルーと同意よ。やめた方がいいわ。」

マリ「大丈夫だつて！何とかなるから！」

ビート「そ、そうかな？」

シンケンブルー「仕方ない、やってみよ。」

そう言うとシンケンブルーはウォーターアロー、ゴセイブルーはシューティングボウガン、ベリーはベリースード、マリはマリンタクト、ビートはラブギターロッドを投げた。シンケンブルーはベリースード、ゴセイブルーはマリンタクト、ベリーはラブギターロッド、マリはウォーターアロー、ビートはシューティングボウガンを手に取った。

マリ「これよこれ！こういうのがやってみたかったんだよね！」

ゴセイブルー「だが、ホントにいいのか？」

マリ「いいよそれで！その命、神に返しなさい！」

シンケンブルー「あれ？その台詞って……まいつか。」

そう言うとマリ達は怪人達を攻撃し始める。だが、怪人達はマリ達の攻撃を余裕に避け続けた。

マリ「あれ？当たらない……」

ベリー「ほら言わんこつぢゃない！」

ゴセイブルー「やはり自分の武器の方がよさそうだな。」

ビート「じゃあ自分の武器で・・・」

そう言うとビート達は自分の武器を返し、自分の武器で怪人達を攻撃し、怪人達に直撃すると、怪人達は爆発した。

シンケンブルー「皆、行くぞ！」

「おう！」

マリンを除くシンケンブルー達は一斉に走り出す。だがマリンだけ啞然した。

マリン「く〜！一体何なのよー！？」

ゴーカイブルーとアクアとブレイドが戦っている最中、ジェネラルシャドウが前に立った。ゴーカイブルーとアクアとブレイドはジェネラルシャドウの戦いに入る。

次はクウガ、龍騎、カブト、電王、キバ、パツシヨンとゴーカイシルバーから。電王はデンガツシャー・ソードモードでイマジン達を攻撃した。

電王「俺、参・・・いつて！」

電王は台詞を言う最中、突然背中から攻撃が喰らう火花が散り、電王は地面に倒れた。電王に攻撃したのは・・・

ゴーカイシルバー「あ、すみません！相手を間違えました！」

電王「テメエ、何処目つけてんだこの野郎！俺は主役だぞ！」

電王はこの小説の主役ではありません。（笑）

カブト「そんな事より、こいつ等を倒す方に優先しろ。」

電王「へッ、言っとくが俺は、最初から最後までクライマツ・・・
ギャー！」

すると電王の後ろからまた誰かに攻撃され、電王は背中を抑えた。

電王を攻撃したのは・・・

ゴーカイシルバー「すみません！また間違えました！」

電王「テメエ、次攻撃してみる？今度は容赦しないからな！」

するとゴーカイシルバーの後ろからライオンイマジンとアラクネア
ワームが攻撃しようとした。それを見たゴーカイシルバーは避ける
暇もなく、喰らうかと思ったその時。

ストライクベント

すると電子音が鳴り響くと、右から炎が現れ、その炎は二体の怪人
に直撃した。ゴーカイシルバーを助けたのは・・・

龍騎「危なかつたな。」

電王「おい！お前助け俺一人でも・・・」

パッション「何をしてるの鎧？早く怪人達を片付けるよ！」

ゴークイシルバー「あ、はい！」

電王「おい、何で俺が酷い目に遭わなきゃならないんだ？」

龍騎「さあ？」

クウガ「二人とも！そういう事よりこいつ等を何とかしよ？」

キバ「僕達、何か苦戦してるんだけど・・・」

電王「今行くから待つとれ！」

龍騎「よし、分かった！」

次はエルスとディリー、スーパー1とZX、ゴセイナイトとシンケンゴールドから。ゴセイナイトはレオンレイザー・ソードモード、シンケンゴールドはサカナマルで怪人達を攻撃。ZXとスーパー1はジャンプキックで怪人達を吹っ飛ばす。

ディリー「エルス、行くよ！」

エルス「OKディリー！」

するとエルスの右足から電撃が流れ、ディリーはライドカードを出し、カードを宝石が付いた杖にスキャンする。

ファイナルアタックライド、デイディデイデイリー！

エルス「プリキュア！ライジングクラッシュ！」

デイリー「プリキュア！デイメイションシャイニング！」

二人は必殺技で怪人達を全滅させた。だが、二人の後ろからジャーク将軍が襲おうとした。しかし、ゴセイナイトはレオンレイザーでジャーク将軍に直撃。ゴセイナイト達は二人の所へ駆け寄る。

ゴセイナイト「大丈夫か？」

エルス「うん。」

ジャーク将軍「ぐっ、おのれー！まとめて地獄へ送ってやる！」

するとジャーク将軍の姿がジャークミドラに変わった。

ZX「ジャークミドラ！」

スーパード「気を付ける！ジャークミドラはジャーク将軍よりも強い！」

シンケンゴールド「へっ、相手がパワーアップしたって俺達の強さはどんなのを見させてやるぜ！」

そう言うとゴセイナイト達は一斉に走り出す。

次はゴーカイエローとゴセイイエローとシンケンイエロー、レモネードとパインとサンシャインとミューズ、アギトとV3とライダーマンから。ゴーカイイエローは二つのゴーカイサーベル、ゴセイ

イエローはランディッククロー、シンケンイエローはシンケンマルで怪人達をどんとどんと攻撃し続ける。サンシャインは空手風で怪人達を攻撃していく。

ライダーマン「ロープアーム！」

レモネード「プリキュア！プリズムチェーン！」

レモネードとライダーマンは怪人達を抑えてからレモネードの右にはミューズ、左にはパインがチェーンを持つと一斉に二体の怪人を投げ飛ばす。投げ飛ばした怪人をアギトとV3のパンチで二体の怪人を倒した。

レモネード「やりましたね！」

V3「いや、まだまだ！」

するとV3達の前からガラガラランダが姿を現した。

ガラガラランダ「貴様等々、調子に乗るなー！」

ガラガラランダは右腕にあるムチでV3達を攻撃し始めた。V3達は避け続けるが、ムチのせいで中々近付けない。

ゴークアイイエロー「これなら・・・どう！」

ゴークアイイエローは二つのゴークアイサーベルを振るうとムチのようにガラガラランダを攻撃し続ける。ゴークアイイエローの攻撃を喰らったガラガラランダは地面に倒れかけた。

サンシャイン「プリキュア！ゴールドフォルテバースト！」

パイン「プリキュア！ヒーリングプレアア、フレッツシュ！」

ミューズ「プリキュア！スパークリング、シャワー！」

ゴセイイエロー「タイガーバレット！」

シンケンイエロー「奮闘士力！」

五人の必殺技が直撃すると、アギトの角クロスホーンが開き、地面からアギトの紋章がアギトの右足をエネルギーを溜めた。

V3「よし、とお！」

V3がジャンプすると、アギトもジャンプ。そして・・・

「ダブルライダーキック！」

ダブルライダーキックがガラガランダに炸裂。ガラガランダは地面に倒れる。ガラガランダは起き上がると地獄大使に戻った。

地獄大使「偉大なるハイパーショッカー、バンザイ！」

地獄大使は叫ぶと地面に倒れ、爆発した。次はゴーカイピンクとゴセイピンクとシンケンピンク、ドリームとダークドリームとピーチとブロッサム、キバーラ（ライダー）から。イカデビルはゴーカイピンク達の周りに囲まれていた。

イカデビル「おのれ〜！」

ゴーカイピンク達は突撃しようとしたが、イカデビルのイカ爆弾でゴーカイピンク達に直撃。だが、ゴセイピンクはイカ爆弾を喰らった後、スカイクショットでイカデビルを攻撃。更にシンケンピンク、キバーラ（ライダー）の順で攻撃してからドリームが突撃し、クリスタルフルーレでイカデビルを吹き飛ばす。イカデビルの前には沢山の怪人達が現れた。

ゴセイピンク「皆、一気に止めよ！」

ゴーカイピンク「はい。」

キバーラ（ライダー）「イカデビルは私に任せて下さい。」

シンケンピンク「夏海ちゃん。」

ピーチ「キバーラに任せよう。きっと何か役に立てると思うよ。」

ゴセイピンク「・・・」

ゴーカイピンク「エリさん。」

ゴセイピンク「分かった、イカデビルは頼むよ。」

キバーラ（ライダー）「ありがとうございます。」

イカデビル「イカ〜。」

シンケンピンクはピンク色の技ディスクをシンケンマルにセットし、ディスクを回転させる。ゴーカイピンクはレンジャーキーをゴーカ

イガンに付いているゴーカイシリンダーをさした。

シンケンピンク「天空の舞！」

ゴセイピンク「ピンクトリック！」

ファインナルウェイブ！

「ダブルドリームアタック！」

ピーチ「プリキュア！ラブサンシャイン・・・フレッツシュ！」

ブロッサム「花よ輝け！プリキュア！ピンクフォルテウェイブ！」

先ずゴーカイピンク達の必殺技で怪人達に直撃し、怪人達は爆発した。更にキバーラ（ライダー）の背中から光の翼が発生し、サーベルを逆手に持った。

キバーラ（ライダー）「おじいちゃん、痛いかもしれませんが我慢して下さい。」

キバーラ（ライダー）はイカデビルに突撃し、光ったサーベルでイカデビルを切り裂くと、イカデビルは爆発する。するとイカデビルから死神博士に戻った。

死神博士「くっ、貴様等・・・うっ！」

すると死神博士の首元からガイアメモリが現れ、そのガイアメモリは砕け散ると、死神博士から栄二郎に戻った。

栄二郎「お、ワシは一体何を？」

キバーラ（ライダー）「おじいちゃん、大丈夫ですか？」

栄二郎「お、夏海。」

シンケンピンクを除くキバーラ（ライダー）と栄二郎を見たドリム達は……

「「「ええええええええ！？」」「」」

物凄く驚いていた。

ドリム「ど、どうなってんの！？」

シンケンピンク「あれってまさか、夏海ちゃんのおじいちゃん？」

ゴセイピンク「え、茉莉ちゃん知ってるの？」

シンケンピンク「ええ、一応……」

ダークドリームは砕け散ったガイアメモリを見た。

ダークドリーム「これ、ハイパーシヨッカーによってこの人を死神博士にさせたようだよ。」

ピーチ「こんなので……」

ブロッサム「でも、無事でよかったです。」

キバーラ（ライダー）「はい。」

次は、BLACKとBLACK RX、ムーンライトとダークプリキュアから。RX達は戦っている中、シャドームーンが前に立った。

BLACK「シャドームーン！」

シャドームーン「BLACKとRX、貴様等だけは私が倒す！」

RX「望む所だ！」

RXは手をベルトの前に出すと、ベルトから光の剣、リボルケインを出す。シャドームーンは左手から緑の電撃を放つと、RX達は避ける。だがRXの後ろからサイ怪人が抑えられ、シャドームーンはサタンサーベルで止めをさそうとした。

ムーンライト「RX！フンッ！」

だが、ムーンライトはサイ怪人を攻撃し、RXを助けた。

RX「すまない、ムーンライト。」

ダークプリキュア「来るぞ。」

シャドームーンが走り出すと、RX達は一齐に走り出し、RX達の戦いが始まった。次は真とZ.OとJ、ゴーカイグリーンとゴセイブラックとシンケングリーン、ミントとローズから。ゴーカイグリーンは二つのゴーカイガンでアンノウンを攻撃した後に爆発。だが、爆発した直後にナスカドーパントが攻撃。ゴーカイグリーンは間一髪で避ける。真達はドラスと戦っている。だが、ドラスの方が強く、

真達は苦戦していた。すると・・・

ローズ「ん？」

ゴーカイグリーン「うわあああああ！」

空からゴーカイグリーンが落ちて来た。それに気付いたローズは何とゴーカイグリーンはローズにひっついた。

ミント「ハカセさん！」

ローズ「ちょっ、何なのよあんた!？」

ゴーカイグリーン「来るよ！来るよー！」

ローズ「え？」

空からナスカドーパントやウエザードーパント、オウムヤミーとカマキリヤミーがローズとゴーカイグリーンを襲おうとした。だがローズはゴーカイグリーンを押し、足を掴んだ。

ローズ「撃ちまくれ！」

ゴーカイグリーン「え？これって・・・うわあああああ！」

ローズは足を掴んだゴーカイグリーンをドラゴンスルーのようにゴーカイガンで怪人達に直撃。更にドララスに向けて連続発射。ダメーヂを喰らったドララスは地面に倒れかける。

ローズ「今よ！」

そう言うとZ.OとJはジャンプし、シンケングリーンは技ディスクをシンケンマルにセットし、ディスクを回転させる。

シンケングリーン「木枯らしの舞！」

ゴセイブラック「ブラックアタック！」

ミント「プリキュア！エメラルドソーサー！」

「ダブルライダーキック！」

三人の必殺技がドラスに直撃してから、Z.OとJの必殺技に直撃すると体から火花が散る。ドラスは地面に倒れると、ドラスは爆発。ローズはゴーカイグリーンを離すと、ゴーカイグリーンは地面に落ちた。

ローズ「あ、ごめん。」

ゴーカイグリーン「やられ・・・た。」

ローズ「ごめんごめん。」

次は、ファイズと響鬼、ルージュから。響鬼は音撃棒・烈火から火が吹き出し、怪人達をどんどん倒していく。ルージュは怪人達の攻撃を避けながらもルージュは強烈キックでオルフェノクを吹き飛ばす。

ファイズ「このまま一気に行くぜ。」

ファイズはファイズフォンに付いてるミッションメモリーを手にとってから近くにあるバイクの片方ハンドルにセットすると、ファイズエッジが現れる。更に左腕に付いているファイズアクセルからアクセスメモリーをファイズフォンにセットすると・・・

コンプリート

ファイズの姿からファイズアクセルフォームに変わった。アクセルフォームに変わったファイズはファイズアクセルのスタータースイッチを押すと・・・

スタートアップ

音声が鳴り、構えると超加速モードに移行し、凄いスピードで周りにいる怪人達を何度も何度も攻撃した。ファイズAは止まると・・・

3 2 1 タイムアウト

音声が鳴った事で怪人達からの紋章が浮かび、怪人達は爆発した。

インフォメーション

するとファイズアクセルフォームからファイズに戻った。

ルージュ「凄い。」

ファイズ「へッ、ザマアねえな。」

次はXとアマゾンとストロンガーとスカイライダー、デカマスターとウルザードファイアーとフラワーから。

アポロガイストは後ろに下がるとデカマスターとウルザードファイアーがアポロガイストに攻撃し続ける。だが、アポロガイストは少し離れると、ガイストカッターを投げた。しかしデカマスターはガイストカッターを跳ね返すとアポロガイストに直撃。

フラワー「止めよ。」

デカマスター「はい。」

フラワー「プリキュア！フラワーイリジューション！」

フラワーは右手を前に突くと、周りから花びらが散り、X達はジャンプし、デカマスターとウルザードファイアーは突撃する。

デカマスター「ベガスラッシュ！」

ウルザードファイアー「ブレイジングストーム！」

X「Xキック！」

アマゾン「アマゾンキック！」

ストロンガー「ストロンガー！電キック！」

スカイライダー「スカイキック！」

四人は必殺技でアポロガイストを切り裂くと、アポロガイストは吹っ飛んだ。

アポロガイスト「いつか私は、宇宙でもっとも迷惑として・・・蘇

るのだー！」

アポロガイストは叫ぶとアポロガイストは爆発した。

フラワー「やったわね」

ウルザードファイアー「うん。」

次はシンケンレッドとゴセイレッド、Wとオーズとフォーゼ、メロディとリズム、ブライトとウィンディ、サウラーとウェスターから。ブライトとウィンディ、サウラーとウェスターは怪人達を何度も何度も攻撃し続ける。

十面鬼「貴様等、許さんぞ！」

十面鬼は超高速でゴセイレッド達を襲う。

メロディ「くっ、速過ぎる！」

リズム「これじゃ連いていけない！」

オーズ「此処は俺に任せて！」

だが、相手が速いならこっちも速いので使うと感知したオーズはタカメダルをライオンメダル、バツタメダルをチーターメダルを変えて、オーズスキヤナーをメダルにスキヤンした。

ライオン！トラ！チーター！ラタラタ〜ラトラーター！

オーズのタトバコンボからラトラーターコンボに変わった。オーズ

はチーターのように超高速で走る。十面鬼に追い付いたオーズはトラクロウで十面鬼を攻撃すると、十面鬼は地面に倒れた。Wは二つのガイアメモリを外し、別のガイアメモリをドライバーにセットする。オーズはライオンメモリをタカメダル、トラメダルをクジャクメダル、チーターをコンドルメダルに変え、オーズスキャナーでスキャン。フォーゼは一番右側にあるロケットスイッチをファイアースイッチに変え、引きがねをひく。

ヒート！メタル！

タカ！クジャク！コンドル！タ〜ジャ〜ドル〜

ファ・イ・アー・オン

Wはヒートメタル、オーズはタジャドルコンボ、フォーゼはファイアステイツに変わった。ゴセイレッドはダイナミックカードをスライクソードを上に乗せる。シンケンレッドは赤の技ディスクをシンケンマルにセットし、ディスクを回転させた。オーズは羽を広げてからジャンプし、赤のコアメダルをタジャスピナーに入れてからオーズスキャナーでスキャンした。

メタル！マキシマムドライブ！

タカ！クジャク！コンドル！ギンギンギガスキャン！

リミットブレイク！

シンケンレッド「火炎の舞！」

ゴセイレッド「レッドダイナミック！」

W「メタルブランディング！」

オーズ「セイヤー！」

フォーゼ「ライダー爆熱シュート！」

メロディ「翔けめぐれ！トーンのリング！プリキュア！ミュージッククロンド！」

リズム「翔けめぐれ！トーンのリング！プリキュア！ミュージッククロンド！」

ゴセイレッド達は必殺技で十面鬼に止めをさそうとした。しかし、十面鬼はバリアで必殺技を防ごうとした。だが、バリアには耐え切れず、十面鬼は直撃した。十面鬼の体は深い傷を負った。

十面鬼「おのれ、覚えていろ！」

十面鬼はこの場から去った。

フォーゼ「待ちやがれ！」

ブライト「追う必要はないわ。」

フォーゼは十面鬼を追おうとしたが、ブライトに呼び止められる。

フォーゼ「何でだ？このまま放っておけっという事か？」

ウィンディ「心配しないで、それにオーナーさんは言ってたわ。正

義の味方はスーパー戦隊や仮面ライダー、プリキュアだけじゃないって事をね。」

ゴセイレッド「それってまさか・・・」

その頃、十面鬼は市街地から遠く離れた場所へ逃げていた。十面鬼は怯えた声を出しながら地面に倒れかける。十面鬼はショットカーライトを出し、ショットカーライトを十面鬼に向けて反射すると十面鬼の体が癒していく。十面鬼は再びスーパー戦隊や仮面ライダー、プリキュアを倒しに行こうとしたその時。

???「そうはさせねえぞ！」

十面鬼「ん？」

十面鬼は声をした方へ振り向くと、三人の姿がいた。

一人は青い騎士のような戦士、

一人は赤い銃士のような戦士、

一人は黒い闘士のような戦士がいた。

十面鬼「貴様等、何者だ!？」

「????「ゴツドリユウケンドー！」

「????「マグナリュウガンオー！」

「????「リュウジンオー！」

「「「ライジン！」」」

そう。彼等はあけぼの町から人々を守り、大魔王グレンゴーストを倒した魔弾戦士達だ。そんな彼等が何故？

ゴツドリユウケンドー「俺達はお前を倒す為に呼ばれたんだぜ。」

十面鬼「呼ばれただと？フツ、だから何だ？この俺に勝てると思ったのか！」

すると地面から巨大邪神14が現れ、リュウケンドー達を襲おうとしたその時。

ドン！

突如ビームが巨大邪神に直撃すると、地面に倒れる。すると空から三つの光が現れ、三つの光は地表に降りた。その光はやむとそこには三人の巨人がいた。

一人は赤と紫の巨人ウルトラマンティガ、

一人は赤いの巨人ウルトラマンアース、

一人は青い巨人ウルトラマンデュミナスがいた。そう、彼等はつばみ達のいた世界とは違う世界でダークから人々を守る為に戦っている。

ティガ「待たせたな。」

ゴッドリュウケンドー「やっと来たか。」

十面鬼「な、何!？」

ティガ「この世界を来るだけで時間掛かってしまったからな。」

十面鬼「何々だ貴様等は? 貴様等は一体・・・」

リュウジンオー「一気に止めをさすぞ、鳴上。」

ゴッドリュウケンドー「よし!」

二人はジャンプし、ファイナルキーを武器にさすと、必殺技が発動。

ゴッドリュウケンドー「龍王、魔弾斬り!」

リュウジンオー「ザンリュウジン、乱撃!」

二人は必殺技で十面鬼を攻撃してからマグナリュウガンオーはマグナゴウリュウガンをファイナルキーにさすと、必殺技が発動。

マグナリュウガンオー「マグナドラゴンキャノン、発射!」

マグナリュウガンオーは必殺技で十面鬼に直撃。

ティガ「ゼペリオン光線!」

アース「ボルテックストリーム!」

デュミナス「インパクトバースト！」

更にティガはゼペリオン光線、アースはボルテックストリーム、デュミナスはインパクトバーストで巨大邪神に直撃。巨大邪神と十面鬼は爆発した。

ゴツドリユウケンドー「闇に抱かれて眠れ。」

第18話：魔弾戦士と光の戦士（後書き）

本当はティガ達や魔弾戦士達を出す予定はなかったのですが、ティガ達はソラさんからの頼みでもあり、魔弾戦士達を出す事を考えており、これはキカイダーポジションです。後、ソラさん、コラボありがとうございます！

さて次回はゴーカイレッドとディケイドとディエンド、ブラックとホワイトの活躍予定！

第19話：最終決戦！

最後はゴーカイレッドとデイケイドとデイエンド、ブラックとホワイトから。

ブラックとホワイトは何度も何度もパンチやキックで怪人達を攻撃した。デイケイドはライドブッカー・ソードモードで怪人達をどんと切りまくると、周りにいた怪人達は爆発。だが、デイケイドは後ろに振り向くとヒルカメレオンがデイケイドに襲いかかろうとしたが、デイエンドとゴーカイレッドの攻撃でヒルカメレオンは倒れる。

デイエンド「さあ行くよ、士。」

デイケイド「俺に命令するな。たく〜・・・」

デイケイドはライドブッカーから一枚のカードを出し、デイケイドライバーに入れ、デイエンドはケースから一枚のカードを出し、デイエンドライバーをさす。

アタックライド ブラスト！

電子音が鳴ってから三人はヒルカメレオンに向けて撃ちまくる。ヒルカメレオンは地面に倒れると、姿を消した。

ゴーカイレッド「消えた？うわっ！」

デイケイド「マーベラス！ぐあっ！」

ヒルカメレオンが姿を消した後、ゴーカイレッドとデイケイドは後

るから火花が散ると、地面に倒れる。そう、これはヒルカメレオンの能力で透明になってディケイド達を襲っているのだ。そこに、ブラックとホワイトがやって来た。

ブラック「大丈夫？マーベラス。」

ゴークイレッド「ああ、それにあいつ何処行つた？」

ゴークイレッド達は透明となったヒルカメレオンを捜していると、透明になったヒルカメレオンは後ろからゴークイレッド達を襲おうとしたその時。

???「ハーティエルアンクション！」

突如掛け声がすると虹色のオーロラが現れ、虹色のオーロラは透明になったヒルカメレオンの体に包まれると、ヒルカメレオンは姿を現し、動きが止まった。それを気付いたゴークイレッド達はヒルカメレオンから離れた。

ヒルカメレオン「な、何!？」

ディケイド「これは？」

ブラック「ねえ、今のって・・・」

ホワイト「まさか・・・」

すると誰かがゴークイレッド達の所へ近付こうとする影がいた。その影を振り向くと・・・

ゴークイレッド「あ……」

ブラック「ねえ、ホワイト。あれって……」

ホワイト「きつと、きつとそうだわ！」

ずっと近付いて行くとついに姿を現した。その正体は、7年後を守る為に7人ライダーと地獄の番人とプリキュアオールスターズと共に戦ったシャイニールミナスだった。

ゴークイレッド「ひ、ひかり。」

ブラック「ひかり!」

ホワイト「ひかりさん!」

ゴークイレッド達は驚くと、ルミナスはゆっくりとゴークイレッド達の所へ……

ルミナス「なぎささん。ほのかさん。土さん。海東さん。マーベラス。私の為に戦ってくださってありがとうございます。」

ブラック「ねえ、本当にルミナスなの?」

ルミナス「はい。」

ポルン「ル、ルミナス?」

そこに、ポルンがやって来た。

ルミナス「ポルン。」

ポルン「ルミナス。うっ、うう……ルミナスー！」

ポルンは急いでルミナスの所へ駆け寄るとルミナスはポルンに抱き付いた。

ポルン「寂しかったポポ。寂しかったポポ！」

ルミナス「ごめんねポルン。心配かけちゃって……でももう大丈夫。何処にも行かないから。」

ポルン「約束ポポ？」

ルミナス「うん、約束。」

ポルン「ポポー」

ポルンの体から黄色い煙が発生し、ポルンはタッチコミュニケーションとなった。

ホワイト「ルミナス、どうやって復活したの？」

ルミナス「それは……」

するとヒルカメレオンの体に包まれた虹色のオーロラが破れるとヒルカメレオンは再び襲いかかるうとした。

だが、突然銃声の音が鳴るとヒルカメレオンの体から沢山火花が散り、地面に倒れる。

ディケイド「何だ？」

????「私がルミナスを助けたのよ。」

突如誰かの声が聞こえると、一同は声がした方へ振り向くと、海賊のような影がいた。右手にはキュアサーベル、左手にはキュアガンを構えており、キュアガンを降ろすと海賊のような影はゆっくりとゴークイレッド達に近付く。

ブラック「あれって、プリキュア？」

ゴークイレッド「海賊だと？」

ディエンド「まさか、君まで参加する事になったのか。キュアパイレーツ。いや、海東湊。」

ディエンドは海賊のような影の名前を呼ぶと、『変革の名を呼ぶ海賊、キュアパイレーツ』が姿を現した。

ディケイド「海東？」

ホワイト「あ、貴方がルミナスを？」

パイレーツ「ええ。」

ディエンド「よくこんなので光の園のクイーンを助けたようだね。」

パイレーツ「プリキュアの力、舐めないでくれる？大樹。」

それは、この前。プリキュア達が敗れた後、ルミナスはプリキュア

の大きいなる力を守りながら、ハイパーショットによって深いダメージを負い、ルミナスは既に轢死の状態だった。ルミナスは倒れながらも墓を作り、墓の隣にハーティエルバトンや先程書いたプリキユア手帳を置き、ルミナスはもう死ぬかと思った。だが、そこにキユアパイレーツが現れ、倒れたルミナスの所へ駆け寄った。

ルミナス「貴方・・・は？」

パイレーツ「キュアパイレーツ。私もプリキユアよ。」

ルミナス「え？」

パイレーツ「すぐ貴方を助けるから待ってて。」

パイレーツはプリキユアキーとキユアモバイラーを出してから、プリキユアキーをキユアモバイラーにさした。

パイレーツ「プリキユアチェンジ！」

キユア「アガッイア！」

パイレーツはキユアガイアは変身し、更にガイアボウガンでルミナスに向けた。

ガイア「プリキユア、ガイアレイン！」

ガイアボウガンを放つと、ルミナスに直撃した。するとルミナスの体がどんどんと癒されていく。ルミナスの体が完全に回復した後、ガイアはパイレーツに戻った。

パイレーツ「ま、デンライナーのオーナーが協力してくれたおかげで現代に戻る事が出来たのよ。」

デイエンド「フツ、流石は僕の妹だ。」

デイケイド「妹？つて事はこいつは海東の……」

一同は話をしている最中、ヒルカメレオンが立ち上がると、多数の怪人達が現れた。

デイエンド「話は後だ。一気に片を付けよう。」

デイケイド「あ、ああ。」

そう言うとデイケイドとデイエンドはライドカードを出し、デイケイドはデイケイドライバーに入れ、デイエンドはデイエンドドライバーにさした。

パイレーツ「さあ、行くよ。」

ゴークイレッド「お前、何々だ？」

ブラック「何か、あんたと初めて会った気がしないような……」

パイレーツ「話は後。一気に止め行くよ。」

ホワイト「う、うん。」

ゴークイレッドは二つのレンジャーキーを出し、そのレンジャーキーはゴークイサーベルとゴークイガンにセット。パイレーツも二つ

のプリキュアキーを出し、プリキュアキーはキュアサーベルとキュアガンにセット。ブラックとホワイトは手を繋ぐ。

ファイナルウェイ〜ブ!

ファイナルアタックライド デイデイデイデイケイド! デイデイデイエンド!

ブラック「ブラックサンダー!」

ホワイト「ホワイトサンダー!」

電子音が鳴る事でゴーカイスーベルとキュアサーベル、ゴーカイガンとキュアガンが光り、デイケイドの前から多数の黄色のカードの幻覚が現れ、デイケイドはライドブッカー・ガンモードを構える。デイエンドは構えると多数の幻覚カードが浮かび上がる。すると空から漆黒の雷と純白の雷が現れ、その雷が落ちると、二人の体が光に包まれる。

ホワイト「プリキュアの、美しき魂が!」

ブラック「邪悪な心をうち砕く!」

ゴーカイレッド「ゴーカイブラスト! & amp; スラッシュ!」

パイレーツ「キュアブラスト! & amp; スラッシュ!」

「プリキュアマーブルスクリュー! マックス!」

それぞれの必殺技が怪人達やヒルカメレオンに直撃。怪人達は爆発

し、ヒルカメレオンの体から沢山の火花が散り、地面に倒れるとヒルカメレオンは爆発した。

そして、ジェネラルシャドウやシャドームーン、ジャークミドラとジャーク将軍も正義によって壊滅。

一同は市街地にいるゴーカイレッド達の所へ集合した。

一号「うん。」

ディケイド「フツ、これで終わったな。」

ディエンド「いや、まだ終わってないよ。」

すると・・・

???「このまま帰しておく訳にはいかないぞ！仮面ライダーにスーパー戦隊、そしてプリキュア！」

一号「その声は！」

声をした方へ振り向くと、空から顔の赤いフードを外した首領が姿を現した。首領はゆっくりと地表に降りる。

ゴーカイレッド「首領！」

フォーゼ「あれがハイパーショッカーの支配者？気持ち悪い。」

オーズ「あ、如月君はこいつを見るのは初めてだっけ？」

W「フォーゼ、そんな事言ってる場合じゃないよ。」

W「そうだ。こいつさえ倒せば、全ては終わる。」

首領「どうやら私を本気で怒らせてしまったようだな。」

ゴークシルバー「もう諦める！」

パッション「今度こそ、絶対に勝つわ！」

首領「フン、この私に勝てるんでも思うのか？無駄な事を・・・」

ゴークイレッド「やってみなくちゃ分かんねえだろ。」

デイケイド「そうだ。俺達は絶対に諦めない。例え相手が強敵だろうが、全力でお前を倒す！」

首領「じゃあやってみろ。」

正義のヒーローと首領の戦いが今、幕を開ける。

シヨッカープリキュア「う、うん・・・」

シヨッカープリキュアは目を覚ますと、真っ白な場所にいた。彼女

は此処が天国だと思い、やっと死ねたかのように笑った。

シヨツカープリキュア（私、やっと死ぬんだね。ハハッ、もっと生きたかったけど、もうダメみたい。ごめんね、パパ。ママ。私、仇とれなかった。でもいいでしょ？これでやっと、パパとママの所へ行けるから。）

????「諦めてはいけない。」

シヨツカープリキュア「誰？」

シヨツカープリキュアの目の前には、昨日会った事があるアカレツドがいた。

アカレツド「本当に君はそれでいいのか？君は此処で死んでもいいのか？」

シヨツカープリキュア「いいに決まってるじゃない。私、スーパー戦隊を倒した後、最初から死にたいと決めてたから。」

アカレツド「何を言う？こんなにまだ若い君を死なせる訳にはいかない。」

シヨツカープリキュア「いいよ。私なんて死んだ方がマシ。私なんか救ったって何も変わらないから。」

アカレツド「甘ったれるな！」

シヨツカープリキュアの言葉を聞くと、アカレツドは怒鳴った。

アカレッド「家族は喜ぶのか？君が死ねば、家族は喜ぶのか！」

シヨツカープリキュア「……」

アカレッド「君には、まだ生きる資格はある。君の家族は、何時までも君の事を見守っている。だから君は、死んではいけない。」

シヨツカープリキュア「私、生きる資格はあるの？」

アカレッド「勿論さ。家族の魂は、君の胸で生き続けているんだ。」

シヨツカープリキュア「家族の魂が、私の胸に？」

シヨツカープリキュアは胸を触ると、何かが暖かい感じがした。これは、家族の魂だけはシヨツカープリキュアの体に包まれていた。

アカレッド「さあ、行くんだ。君の仲間が待っている。」

シヨツカープリキュア「仲間？」

アカレッド「そうだ。君と一緒に戦う仲間。それを忘れるな。」

シヨツカープリキュア「……」

アカレッド「フィニツチャ、後は頼む。」

????「OKチャ！」

するとアカレッドの隣から不死鳥のように、ぬいぐるみみたいな顔をした青い妖精が現れた。その妖精はシヨツカープリキュアに近付

く。

???。「君が黒沢歩美なんだね？あ、僕ちゃんはフィニツチャ。よろしくつチャ！」

シヨツカープリキュア「あ、よろしく・・・」

アカレッドはこの場から去ろうとした。だが・・・

シヨツカープリキュア「待って！」

シヨツカープリキュアは呼び掛けると、アカレッドはピタッと止まった。

シヨツカープリキュア「一つ聞かせて。」

アカレッド「何だ？」

シヨツカープリキュア「貴方の名前は？」

アカレッド「私の名は・・・アカレッド。」

名乗った後、アカレッドはこの場から立ち去った。

シヨツカープリキュア「アカレッド・・・」

その時、光が彼女とフィニツチャに包まれると、彼女とフィニツチャは何時の間にか市街地のビルの上にあった。

シヨツカープリキュア「・・・」

シヨツカープリキュアは体を見ると、胸に貫通された傷も治っていた。

シヨツカープリキュア「行こう、フィニツチャ。プリキュアやゴイカイジャー、仮面ライダーの所へ・・・」

フィニツチャ「分かったチャ！」

そう言うと二人は正義のヒーローと首領が戦っている所へ向かった。

第20話：青い不死鳥

市街地から岩山の場所を変えた正義のヒーローと首領は激しい戦いへと繰り広げていた。そして、正義のヒーローは首領を追い詰めたが・・・

首領「どうやらこの私がショッカーライトを使う事になるとは・・・仕方がない。ショッカーライトよ、私に力を！」

首領の手からショッカーライトを出し、光が放射すると首領は叫び始める。更に幹部達がやられた事で8つのショッカーライトが地面落ちている。

するとショッカーライトが光り出すと、首領が使ったショッカーライトの所へ行き、更にゴークイレッドが持っていたショッカーライトは首領の所へ・・・9つのショッカーライトが首領に向けて放射暫く経つと、首領が着ていたマントを破ると、何と首領は巨大化した。

一号「何！？」

ゴークイレッド「デッカくなっちゃった！」

シンケイエロー「まだ倒してへんのに！」

パイレーツ「まさかショッカーライトにそんな力が・・・」

首領「スーパー戦隊にライダー、そしてプリキュアよ。地獄へ行くがいい！」

首領の体から多数の大蛇が現れ、大蛇の口から火炎弾でヒーローを襲う。避ける事が出来ずにヒーロー達はダメージを喰らい、地面に倒れる。

首領「ハハハハ！さあどうする？」

するとディケイドはライドブッカーから一つのライドカードを出した。

ディケイド「だったら、こうするまでだ！」

ファイナルフォームライド オオオオールララライダーズ！

するとW、オーズ、フォーゼを除く平成ライダーは変形した。クウガはクウガゴウラム、アギトはアギトトルネイダー、龍騎はリュウキドラグレッター、ファイズはブラスター、ブレイドはブレイドブレード、響鬼はアカネタカ、カブトはゼクターカブト、電王はデンオウモモタロス、キバはキバアローへと変わり、Fブラスターはディケイド、Bブレードはディエンド、モモタロスはキバアローを持った。

首領「ん？」

フォーゼ「お、何だこりゃ！？」

オーズ「凄い！これ何でもありませんね！」

ディケイド「まだまだだ。」

ディケイドはまたライドカードを出した。

ファイナルフォームライド　ダダダダブル！

電子音が鳴る事でWの右側と左側が別れ、右側はサイクロンサイクロン、左側はジョーカージョーカーとなった。

Sサイクロン「また別れちゃったね。」

Jジョーカー「まあ首領を倒す為だから仕方ねえよな。」

オーズ「よし、俺だつて！」

フォーゼ「じゃあ、俺もだ！」

オーズはタカメダルをクワガタメダル、トラメダルをカマキリメダルを変え、オーズスキャナーでスキャン。フォーゼは一番右にあるロケットスイッチをエレキスイッチに変え、スイッチを押す。

クワガタ！カマキリ！バッタ！ガクタガタキリバガツタキリバ！

エ・レ・キ・オン

オーズのタトバコンボからガタキリバコンボ、フォーゼの右手から金色の剣、ビリーザロッドを手に取るとベースステイツからエレキステイツに変わった。

「ゴーカイレッド」そんなじゃ、ド派手に決めるぜ！」

「ゴセイレッド」皆、ゴセイバスターだ！」

ゴーカイジャーはレンジャーキーをゴーカイガンにさし、ゴーカイシルバーはゴーカイスピアをレンジャーキーにさした。ゴセイジャーの五つの武器が一つになり、五つのカードをセット。シンケンレッドは烈火大斬刀大筒モードに変え、六つのディスクをセットした。

パイレーツ「私も、ド派手に決めるわ。」

パイレーツもプリキュアキーをキュアガンにさし、プリキュアオールスターズも必殺技の準備をかける。更にディケイドはライドカードをバツクルに入れると、全員は必殺技の準備をした。

ファイナルアタックライド オオオオールララライダーズ！

ファイナルウェイブ！

「……ゴーカイ、ライダープリキュアレボリューション！」

それを見た首領は一足早く首領の体から沢山の火炎弾を出してから沢山の火炎弾を発射。だが、正義のヒーローの必殺技の方が威力が高く、首領の火炎弾を弾き返すと正義のヒーローの必殺技が首領に直撃。

首領「ぐおおおお！馬鹿なー！」

直撃した首領は大爆発。正義のヒーローは遂にシヨッカー首領の戦いに勝利したのだ。オールライダーは通常フォームに戻った。

ディエンド「やったね。」

ディケイド「ああ。」

ゴウカイレッド「フッ。」

突如地震が発生すると、地面から巨大な姿をした怪人が現れた。その正体は……

X「あれは、キングダーク！」

かつて仮面ライダーXの世界でXを苦しめようとした巨大な怪人、キングダークだ。それだけではない。キングダークの後ろにある山が突然割ると、骸骨のような要塞が現れた。それは……

RX「あれは、クライス要塞。いや、スーパークライス要塞！」

仮面ライダーBLACK RXの世界でクライシス帝国の幹部が乗っていたクライス要塞。だが、スーパーショッカーによってパワーアップした最強形態、スーパークライス要塞だ。

ドリーム「あんなの、どうやって戦えばいいの？」

ストロンガー「ん？おい、あれを見る！」

ストロンガーが指を指した方向へ向くと、キングダークやスーパークライス要塞よりも越える岩石みたいな超巨大な姿が現れた。それは……

黒獅子リオ「あれは・・・」

ブルーム「な、何あれ!？」

ベリー「デ、デカイ!」

オーズ「あれは、ショッカー首領の本当の姿、岩石大首領!」

すると空が暗くなると、沢山の流星弾が降り注ぎ、正義のヒーローを襲いかかると、周りから沢山の爆発が起こった。岩石大首領はキングダークとスーパークライス要塞を手で掴んだ。

岩石大首領「キングダークとスーパークライス要塞よ、私と一つになるのだ!」

岩石大首領はキングダークとスーパークライス要塞が一つになると、岩石大首領の足がサソリの足のようになり、腕は1メートルに伸び、岩石大首領の真ん中からキングダークの顔、下からスーパークライス要塞の顔が出て来た。これが岩石大首領の最終形態・・・

ハイパー岩石大首領「我は岩石大首領の最終形態、ハイパー岩石大首領だ!」

すると爆発の中から豪獣ゴーカイオーとグランドゴセイグレートとダイカイシンケンオーが現れ、ハイパー岩石大首領を攻撃。

ゴーカイレッド「いい加減にしるテメー!」

三大口ボはハイパー岩石大首領に攻撃するが、ハイパー岩石大首領はビクともしない。するとハイパー岩石大首領は三大口ボに攻撃。

更にハイパー岩石大首領の口からエネルギーを溜め、紫のビームを
発射し、三大ロボは直撃すると三大ロボは倒れるとコックピットか
らシンケンジャーとゴセイジャー、ゴーカイジャーは地面に倒れる。
ルミナス「マーベラス！」

パイレーツ「皆、大丈夫？」

ゴーカイレッド「ああ。何々だこのパワーは？」

ディケイド「早くしないとプリキュアの世界が崩壊されてしまうぞ
！」

ブラック「そうなる前に何とかしないと！」

ハイパー岩石大首領はパンチで攻撃しようとした。だが、サンシャ
インとビートはバリアで攻撃を防ごうとしたが、余りの強過ぎて耐
えられず、バリアが破壊される。バリアを破った後、ハイパー岩石
大首領の目から破壊光線で正義のヒーロー達を攻撃。攻撃を喰らっ
た後、昭和ライダーと平成ライダー、ブラックコンドル達やダーク
ドリームやダークプリキュア、フラワーやゴセイナイトを除くプリ
キュアオールスターズとディケイド達やWやオーズとフォーズ、ゴ
ーカイジャーとゴセイジャーとシンケンジャーの変身能力が解除さ
れた。

ハイパー岩石大首領「スーパー戦隊とライダーとプリキュアを倒し、
私がこの世界の支配者となる！私の邪魔をする者は皆排除する！」

ひかり「そんな事は、絶対にさせません！」

マーベラス「ああ。ひかり達の世界は俺達海賊が守る！」

士「それ海賊に対して言う事か？」

マーベラス「フツ、さあな。」

ハイパー岩石大首領は口からエネルギーを溜めてからビームを発射。正義のヒーローに止めをさそうとした。だが、その時・・・

「ショツカーバリア！」

突如声が聞こえると、マーベラス達の周りから驚が付いたバリアが現れ、バリアを跳ね返す。マーベラス達は前を振り向くと、何とスパー戦隊の復讐しようとしたショツカープリキュアがいた。

ひかり「ショツカープリキュア！」

あれが・・・
湊

ショツカープリキュアはマーベラス達の方へ向くと、マーベラス達に笑顔を見せると、ショツカープリキュアの隣からフィニツチャが出て来た。

フィニツチャ「大丈夫ツチャ？」

エレン「妖精？」

ココ「皆ー！」

するとココ達はマーベラス達の所へ駆け寄り、フィニツチャを見る

とココ達は驚いた。

コフレ「この妖精は誰ですか？」

シロップ「初めて見るロプ。」

ナビィ「え、全然知らないの!？」

ナッツ「この妖精、見た事ないナッツ？」

ココ「何者なんだココ？」

フィニツニャ「それは後で話すツチャ！」

シヨツカープリキュアはハイパー岩石大首領の方へ向いた。

ハイパー岩石大首領「シヨツカープリキュアよ、何の真似だ？」

シヨツカープリキュア「私は・・・守りたい。今まで私がやって来た事、私が今までスーパー戦隊を恨んでいた事、二度とこんな事したくない!私はルミナスやディケイド、ゴークイレッドに大切な事を教えてくれた!私は、その大切な物を守りたい!だから私は、貴方の言いなりにはならない!」

マーベラス「シヨツカープリキュア。」

ハイパー岩石大首領「そうか。ならば、貴様もスーパー戦隊やライダー、プリキュアと一緒に滅び去るがいい!」

ハイパー岩石大首領は破壊光線でシヨツカープリキュアを攻撃しよ

うとした。だが、シヨツカープリキュアの体が光ると、シヨツカープリキュアの左腕から不死鳥のようなブレス、フェニックスチェンジャーが現れるとシヨツカープリキュアから黒沢歩美に戻った。

フィニツチャ「今こそ、正義のプリキュアに変身する時ツチャ！」

歩美「うん。」

歩美はフェニックスチェンジャーを手に飾ると、フェニックスチェンジャーに付いている羽が広がると、フィニツチャの体からも一つのブレスが現れ、右腕にセットすると変身の準備をした。

歩美「プリキュア！フェニックススパーク！」

右腕に付いているブレスにある円形パーツを付いたキーを出し、左手に付いているフェニックスチェンジャーをさすと、ハートの紋章が現れ、歩美の体は青い光に包まれる。先ず最初に短いスカート、体は青いドレスに胸はハート、足はシンデレラのような靴、髪型の色がシアン色になると腰まで伸び、目はシアン色になり、頭からハートが飾ると背中から不死鳥のような羽が生えたら変身は完了し、地表に降りると羽を閉じた。

なぎさ「ありえない。」

ほのか「綺麗。」

ハイパー岩石大首領「貴様、何者だ？」

????「青空にはばたく永遠の不死鳥、キュアフェニックス！」

一号「キュア、フェニックス。」

V3「まるで、不死鳥のようになってる。」

ダークドリーム「いや、それ以上だよ。」

湊「ん？」

すると海東湊の手から二つのシヨッカープリキュアとキュアフエニックスのプリキュアキーが現れた。

湊「新しい、プリキュアキー。」

フェニックス「ハイパー岩石大首領、貴方は私達が倒す！」

????「俺達がいる事も忘れるな！」

すると声が聞こえ始め、マーベラス達は上を見るとかつて人々を守った32の赤い戦士達が集結した。

二号「皆、来てくれたのか！」

右からリュウレンジャー、

ニンジャレッド、

オーレッド、

レッドレーサー、

メガレッド、

ギンガレッド、

ゴーレッド、

タイムレッド、

ガオレッド、
ハリケンレッド、
アバレッド、
デカレッド、
マジレッド、
ボウケンレッド、
ゲキレッド、
ゴオンレッド、
左からスピードエース、
バトルジャパン、
デンジレッド、
バルイーグル、
ゴーグルレッド、
ダイナレッド、
レッドワン、
チェンジドラゴン、
レッドフラッシュ、
レッドマスク、
レッドファルコン、
レッドターボ、
ファイブレッド、
レッドホーク、
ティラノレンジャー、
そして真ん中にはアカレンジャーがいた。

アカレンジャー「皆、遅くなってすまない。」

マーベラス「アカレンジャー。」

一号「皆、スーパー戦隊と仮面ライダー、そしてプリキュアの力を

「一つにするのだ。」

マーベラス「ああ。ん？」

するとマーベラスの手からプリキュアの大きいなる力を使う事が出来るレインボーキーが現れた。

第20話：青い不死鳥（後書き）

次回は奇跡の変身！そして遂に・・・

最終話・正義のヒーロー永遠に・・・(前編)(前書き)

長くなるので前後に別れました。

最終話：正義のヒーロー永遠に……（前編）

マーベラス「レインボーキーが……」

そのレインボーキーは宙を浮かび始めるとフェニックスのように空へ高く飛ぶ。その光はパン！となると雨のような光が世界中に降り注ぎ始めた。

それを見た妖精達とナビィ、そして人々達はその光を手にとるとミラクルライトが現れた。

ナビィ「ミラクルライトだ！」

チョッピ「チョピ？ミラクルライトに似てるけどちょっと違うチョピ。」

ハミィ「何か凄いパワーを感じるニャ！」

だけど、ココ達が知っているミラクルライトとは少し違った。それは、ライトの先の周りから不死鳥の羽が広がっており、更にライトの先にハートがある。ミラクルライトよりも超えた新しいライト、その名もフェニックスライトだ。

ポルン「ルルン！準備はいい？」

ルルン「ルルン！」

「「皆ー！このフェニックスライトで、スーパー戦隊と仮面ライダーやプリキュアを応援するポポー！（ルルン！）」」

ポルン「行くポポー！」

フェニックスライトが光ると、妖精達とナビィはフェニックスライトを上に向けた。

「スーパー戦隊と仮面ライダーとプリキュアに、力をー！」

するとマーベラス達と土達や平成ライダーの地面から光が現れ、更にマーベラス達と土達と平成ライダーの体が光り始めた。

スーパー戦隊や仮面ライダー、プリキュアを応援しているのは妖精達やナビィだけではない。真ん中には奏太やみのりや亮太、そして世界中の人々がフェニックスライトを使ってパワーを送っているのだ。

「スーパー戦隊と仮面ライダーとプリキュアに、力をー！」

そのフェニックスライトの光が一つになると、マーベラス達は眩しい光に包まれる。

先ず丈瑠はハイパーシンケンレッド、

流之介達はスーパーシンケンジャー、

アラタ達はスーパーゴセイジャー、

ユウスケはクウガライジングアルティメットフォーム、

アギトはアギトシャイニングフォーム、

龍騎は龍騎サバイブ、

ファイズはファイズブラスターフォーム、

ブレイドはブレイドキングフォーム、

響鬼は装甲響鬼、

カブトはカブトハイパーフォーム、

電王は電王超クライマックスフォーム、

キバはキバエンペラーフォーム、

翔太郎とフィリップはWサイクロンジョーカーエクストリーム、

映司はオーズプトティラコンボ、

弦太朗はフォーゼベースステイツ、

咲はブライティブルーム

舞はウインディイーグレット

のぞみはシャイニングドリーム

りん、うらら、こまち、かれん、くるみはレインボープリキュア、

ラブ、美希、祈里、せつなはキュアエンジェル、

つぼみ、えりか、いつき、ゆりはスーパーシルエット、

響、奏、エレン、アコはクレツシエンドプリキュア、御子はエルス、

アイリはディリー、

ジョー、ルカ、ハカセ、アイム、鎧はゴークイジャーゴールドモード、

士はディケイドコンプリートフォーム、

海東はディエンドコンプリートフォーム、

なぎさとほのかはスーパープリキュア、

ひかりはレインボールミナス、

湊はパイレーツ、

マーベラスはゴークイレッドに変身した後、ゴークイレッドの体から青い不土鳥の鎧を纏う。胴体はフェニックス、背中には不土鳥の羽を広げた鎧だった。ゴークイレッドのパワーアップ形態、その名も・・・

ゴークイフェニックス「ゴークイ・・・フェニックス！」

ゴークイフェニックスと名乗った後、ゴークイフェニックスとディケイドCPとディエンドCP、SブラックとSホワイトとRルミナス、パイレーツとフェニックスの周りからスーパー戦隊とオールライダー、プリキュアオールスターズが手を繋いでから周りに囲んだ。

フェニックス「力が、溢れてくる。」

Rルミナス「皆、ありがとう！」

光が輝くと正義のヒーロー達は並び始めた。

デイケイドCP「俺達の・・・」

デイエンドCP「新しい力！」

「『『受けてみなさい！（みる！）』』」

ハイパー岩石大首領「うおおおおお！」

歴代レッドとブラックコンドル達と昭和ライダーと平成ライダーとフォーゼ、エルスとディリーは手を上に上げると、光が現れ、その光はゴーカイフェニックス達の所へ集まった。

Hシンケンレッド「モウギユウバズーカ！」

Sシンケンゴールド「烈火大斬刀！大筒モード！」

Hシンケンレッドはモウギユウバズーカを出し、更にキョウリユウマルにセット。Sシンケンゴールドは烈火大斬刀大筒モードを出し、更に五人のディスクにセットし、必殺技の準備が完了した。

「『『成敗！』』」

そして必殺技を発動し、ゴーカイフェニックス達の所にある光へ向かっていく。スーパーゴセイジャーとゴセイナイトはゴセイテンソ

ードとレオンレイザーを構え、必殺技の準備した。

「ミラクルゴセイナイトダイナミック！」

Sゴセイレッド「パニッシュ！」

ミラクルゴセイナイトダイナミック！

スーパーゴセイジャーやゴセイナイトは必殺技を発動し、ゴーカイフェニックス達の所にある光に吸収されていく。Wサイクロンジョーカーエクストリームはプリズムビッカーを出し、プリズムメモリをさしてから四つのメモリを周りにさした。

サイクロン！ヒート！ルナ！ジョーカー！マキシマムドライブ！

WSJX「ビッカー！ファイナルリリュージョン！」

プリズムビッカーから四色の光が現れ、その光が一つになるとビームで発射し、ゴーカイフェニックス達の所にある光に吸収した。オースプトティラコンボは腕を地面を叩き付くと地面からメダガブリューが現れ、セルメダルをメダガブリューに入れ、バズーカ砲のように変形した。

プットッティラ〜ノヒツサ〜ツ！

電子音が鳴る事で物凄いエネルギーで発射し、ゴーカイフェニックス達の所にある光に吸収。

ブライティブルームとウィンディイグレットは手を繋ぎ、ブライトとウィンディも必殺技の準備をした。

「精霊の光よ！」

「命の輝きよ！」

「希望へ導け！」

「全ての心！」

「プリキュア！スパイラルハート、スプラッシュユスター！」

両腕を前に突くと水のようなビームで発射。

Sドリームを中心にフルーレを一つにかざし、ミルキイミラーが紫の剣に変化し、一つにかざす。

「希望の赤い薔薇！」

「奇跡の青い薔薇！」

「プリキュア！ミルキイローズフローラルエクスプロージョン
！」

フルーレを前に突き出すと巨大な薔薇が現れ、光に吸収。

「想いよ届け、プリキュア！ラビングトウルハート！」

更にEピーチやEベリーやEパインとEパッションの必殺技もあの光に吸収されていく。

「花よ咲き誇れ！」

Sプロツサム達はそれぞれの武器を構えると、後ろから巨大な姿を

した女神がいた。

「……プリキュア！ハートキャッチオーケストラ！」……

Sプロツサム達は前に突き出すと女神は光の所に突撃。女神は光に吸収されていった。

CメロディとCリズムとCビートとCミューズは右手を一つに重ねるとト音記号が現れた。

「……プリキュア！パツシヨナート、ハーモニー！」……

声を出す事でト音記号から凄いエネルギーで光に向かって発射され、そして光に吸収された。

ゴーカイブルーG達はレンジャーバツクルを押すと五色の光が一つになるとゴーカイガレオンバスターが現れた。

「ゴーカイブルーG、ゴーカイガレオンバスター！」

左側はゴーカイシルバーGとゴーカイイエローGがレンジャーキーをさし、右側はゴーカイグリーンGとゴーカイピンクGがレンジャーキーをさし、ゴーカイブルーGがレンジャーキーをさすと、チャージし始める。

ロツクオンセンサーで光に向かってロツクオン。そして……

「ゴーカイガレオンバスター！」

ライジングストライク！

発射すると青いゴーカイガレオン型のビームが現れ、その光へと向かって吸収された。

「ディエンドCP」士。湊。後は頼むよ。」

ディエンドCPは黄色いカードを出してから、次にディエンドライバーにさした。

ファイナルアタックライド ディディディエンド！

ディエンドは構えると、多数の幻カードが周りに現れた。ひきがねを引くと発射され、光に吸収されていく。

「みなぎる勇氣！」

「溢れる希望！」

「光り輝く絆と共に！」

SブラックとSホワイトは手を繋いでから手を強く引いてから・・・

「エクストリーム！」

「ルミナリオ！」

足を踏み入れると二人の前からハートが現れてから・・・

「マックスー！」

手を前に突き出すと物凄いエネルギーが光に向けて吸収した。吸収し終わると光は凄く輝いていた。

フェニックス「奇跡よ起こせ、フェニックスブレード！」

正義のヒーロー達が送った光から宝石があり、翼を広げた新しい武器、フェニックスブレードだ。更にゴーカイフェニックスやディケイドCPやパイレーツもフェニックスブレードを手に持った。

ディケイドCPはライドカードを出すと、何とフェニックスブレードの絵柄が浮かび上がった。

ディケイドCP「行くぞ。」

ゴーカイフェニックス「ああ。」

ディケイドCPはライドカードを右側にあるバックルを入れた。

アタックライド フェニックスブレード！

電子音が鳴った後、ゴーカイフェニックスとディケイドCPとパイレーツとフェニックスは高くジャンプ。四つのブレードを一つに合わせる、巨大なブレードになった。そして・・・

「スーパー戦隊ライダープリキュアブレイク！」

その巨大なブレードがハイパー岩石大首領に向かって一刀両断をした。必殺技に直撃したハイパー岩石大首領は体から多数の爆発が起こり、ハイパー岩石大首領は粉々に砕け散った。

ハイパー岩石大首領が倒した後、ゴーカイジャー達とデイケイド達とプリキュアオールスターズは変身解除。歴代レッドやブラックコンドル達、Wとオーズ、フォーゼを除くオールライダーとダークドリームとダークプリキュア、キュアフラワ―はそれぞれの世界へ帰っていったのだ。すると奏太達がやって来た。

奏太「姉ちゃん！皆ー！」

奏「奏太！」

咲「みのり。」

なぎさ「お〜い、亮太ー！」

なぎさと咲、奏は三人の所へ駆け寄る。近付くとなぎさは亮太にコブラツイスト。咲と奏はみのりと奏太に抱き付いた。

奏太「姉ちゃん、俺・・・」

奏「もういいのよ奏太。よく頑張ったじゃない。」

咲「みのり、心配かけさせてごめんね。でももう大丈夫、私はもう何処にも行かないから。」

みのり「お姉ちゃん。」

亮太「ギブギブギブ！」

なぎさ「でもよかった。亮太が無事で……」

亮太はなぎさを見ると、なぎさは涙を流しながら笑っていた。

亮太「お姉ちゃん。」

夏海「へ〜、この子が大樹さんの……」

湊「ええ。」

ユウスケ「知らなかったな〜、海東にこんな可愛い妹がいたなんて。」

海東「知らなくて結構だよ、ユウスケ君。」

すると源太が話しかけようとしていた所、海東に止められる。

丈瑠達シンケンジャーはレンジャーキーをゴーカーイジャーに返した。

丈瑠「俺達の力を、頼んだぞ。」

ルカ「ふうん、どうやってレンジャーキーを奪ったのか聞かないけど、とってもよかったよ。」

ことは「ホンマにですか？ありがとうございます。またよろしかったらお屋敷に来て下さい。」

シヨー「ま、暇があったらな。」

マーベラスとひかりは、歩美を見た。

歩美「あの、さっきは・・・ごめんなさい。私、皆に酷い事させてしまったの！私、辛かったの。私は処刑の時、貴方を見て殺すのが怖いと思ったの！だから・・・」

マーベラス「もういいんだ。もう終わった事だし・・・」

ひかり「そうですよ黒沢さん。確かに辛い事はあつたかもしれませんが、皆と一緒にいれば必ず、嬉しい事だって一杯ありますから。」

歩美「二人とも・・・」

マーベラスは手を差し述べると、歩美も手を差し述べ、二人は握手した。握手すると歩美は何かを感じ始めた。まるで赤ん坊の頃、誰かと抱えた事を・・・

歩美「何か、家族っぽいですね。」

ひかり「何故か、私も・・・」

湊「当たり前よ。歩美はこうやって家族と再会出来たから。」

士「は？」

マーベラス「家族？」

ひかり「再会？」

最終話・正義のヒーロー永遠に・・・(前編)(後書き)

次回、遂に完結。

最終話：正義のヒーロー永遠に・・・（後編）（前書き）

鳴滝「おい、私は一体どうなったんだ！？私の扱い酷過ぎるだろ！」

デイケイド「黙れこの変態。」　　ディメンションキック

鳴滝「ぐぶあっ！」

最後はTV本編に先駆け、あの彼女達が登場！

最終話：正義のヒーロー永遠に・・・（後編）

湊の言葉でマーベラス達や土達（海東を除く）やひかり達や妖精達（フィニツチャを除く）は物凄く驚いていた。

ポルン「ど、どういう事ポポ？」

ほのか「この子がマーベラスさんとひかりさんの娘？」

なぎさ「ちよつと待ってよ！て事はもしかして歩美は未来から来たって事！？ありえない。」

歩美「え、未来？」

勿論歩美本人もマーベラスとひかりの娘だという事は知らないのだ。これはどういう事なのか？じゃああの名字にある『黒沢』とは一体何だったのか？

マーベラス「おい、今の嘘だろ。」

湊「信じられない話かもしれないけど、私の言ってる事は本当よ。」

海東「そうさ、湊は嘘ついたりはしないよ。」

何故か海東もこの事を知っていた。

土「お前知ってたのか？」

海東「勿論。」

海東の言葉を聞いたユウスケは海東に質問し始める。

ユウスケ「何で最初から言わなかったんだ？言っておけば俺達は知ってたんだぞ？」

海東「フツ、前にも言ったろ。僕の旅の行先は、僕だけが決めるってね」

源太「あ、そうかい！イカちゃんを盗んだ泥棒野郎が！」

海東「トレジャーハンターと言いたまえ、寿司屋君。」

海東の言葉を聞いた源太は物凄くイラっとしていたが、ことはに諭される。まあ、それはさておき湊は説明し始める。

湊「では、説明するよ。ゴークイジャーがザンギャックが倒した10年後、マーベラスだけプリキュアの世界へ行き、ひかりと再会し、二人は結婚した。その後、歩美が生まれ、二人は家族と一緒に平和で暮らしていた。だけど・・・」

マーベラス達ゴークイジャーが宇宙帝国ザンギャックを倒してから10年が経ち、マーベラスは一人だけプリキュアの世界へ行き、どうやってプリキュアの世界へ行けたのかは知らないが二人は何時の間にか結婚した。

二人は結婚した後、たった一人の娘、九条歩美が生まれ、幸せに暮らしていた。湊はこのまま話そうとしたその時。

ルカ「ちょっとストップ！」

するとルカが湊の話を一旦止めると、ルカは湊に質問し始めた。

ルカ「それじゃああたし達はどうなったのよ？」

湊「それは自分で考えなさい。」

湊の言葉でルカはぶちギレ、一発でもいいからぶん殴ろうとしたが、アームに諭される。収まった後、湊は話を続けた。

湊「話を戻すわ。歩美が生まれてから5ヶ月、突如何者かの敵によって人々を襲い始め、マーベラスとひかりは戦ったけど、敗北。二人はたった一人の娘を守る為に、タイムレンジャーの力を使って過去へ転送。過去へと転送した歩美は偶然通りかかった黒沢夫婦と過ごす事になった。」

歩美が生まれてから5ヶ月、突如現れた謎の敵が人々を襲い始め、二人は変身して立ち向かうが手も足も出ないまま敗北。

二人はたった一人の娘、歩美を守る為にマーベラスはタイムレンジャーの力を使って歩美を過去へ転送した。

黒沢夫婦は散歩している途中、赤ちゃんを見つけ、赤ちゃんが貼っていた紙から『歩美』が書かれており、黒沢夫婦は歩美を育て、平和に暮らしていた。

せつな（マーベラスってどうやってプリキュアの世界に！？）

鎧（というか未来の俺達どうなったんだ！？）

アラタ「で、それから？」

湊「歩美が黒沢夫婦と暮らしてから5年後、レジェンド大戦と呼ば

れた戦争のようなもの。宇宙帝国ザンギャックが地球や人々を襲い始め、黒沢夫婦と歩美は逃げようとしたけど、黒沢夫婦は歩美を守る為に殺された。34のスーパー戦隊は地球を守る為に全ての力を使って艦隊を全滅させた。けど、歩美は黒沢夫婦を助けられなかったスーパー戦隊の事を恨み、復讐する事を誓ってしまったの。」

歩美は3歳の頃からスーパー戦隊を知り、スーパー戦隊を信じていた。だが、突如現れた宇宙帝国ザンギャックは人々や地球を襲撃し始める。歩美と黒沢夫婦は逃げ延びようとしたが、余りにも振り切れず、黒沢夫婦は歩美を守る為に、殺される。

その後、34のスーパー戦隊が地球を守る為に全ての力を使って艦隊を全滅させた。だが、地球と引き換えによってスーパー戦隊の力は失ってしまう。

艦隊が全滅した後、歩美はスーパー戦隊が黒沢夫婦を守れなかった事を恨んでしまい、遂にスーパー戦隊を復讐する事になってしまったのだ。

歩美「……」

湊「レジェンド大戦から1年後、歩美は6歳なっても一人ぼっちとなり、ずっと家に引き込まれていた。でも、そんな彼女の前に現れたのが……7人ライダーに倒された筈の首領だった。首領はショットカーライトを使ってプリキュアが生まれる前の世界、1994へ転送。首領は歩美をもっと強くする為に修行したの。」

レジェンド大戦が起きてから1ヶ月。歩美は6歳になるが明るい元気がなく、ずっと一人で家に引き込まれていた。だが、そんな彼女の前に現れたのはショットカー首領。

首領はショットカーライトを使って歩美と共に1994年の過去へ飛んだ。

歩美はもつと強くなる為に修行を始めた。修行の担当するのはあの変態だったが、やろうとした所で幹部達にボコられ、結局あの幹部が担当する事になった。

ボコられたあの変態は気にしないでおこつ。

夏海「何か最後鳴滝さんだったような気が・・・」

士「気のせいだろ？」

湊「そして9年経って歩美は強くなり、首領はシヨツカーライトや妖精達が落としたミラクルライトを使ってシヨツカープリキュアが誕生。それが全ての始まりだったのよ。」

9年の間、歩美は14歳となって強くなり、首領はシヨツカーライトやミラクルライトによつてシヨツカープリキュアが誕生した。そう、これが全ての始まりだった。

ひかり「そうだったんですね。」

ハミィ「でも皆のおかげでシヨツカーライトやフェニックスライトを手に入れたニヤ」

タルト「せやな。何とか一件落着したんやし。」

するとハミィが持っていたシヨツカーライトとフェニックスライトが砂となって消えた。それだけではない、妖精達が持っている二つのライトは砂となって消えたのだ。

もうあの二つのライトは使う事はないだろう。

湊「九条歩美、二人を見なさい。あれが短い間未来に過ごした家族

なのよ。」

歩美「家族……」

歩美はマーベラスとひかりを見ると、歩美は何か思い出せそうな感じがした。

自分が生まれてから抱っ子して何処かへ歩いたりミルクを与えたり手を繋いだりした事を歩美は思い出し、遂に歩美は涙を流すと、歩美はマーベラスに抱き付いた。

海東「今まで泣いてなかったんだろ？自分が辛い目に遭って……」

つぼみ「でも泣ける場所が見つけてとてもよかったです」

アコ（家族か。私もパパとママに抱き付いた事があつたね。）

ゴセイナイト「ゴセイジャー。早く人々の記憶を……」

アラタ「分かった。」

アラタ達ゴセイジャーはテンソウダーとカードを出すと、準備にかかると、

奏太「なあ、何するんだ？」

エリ「これから私達、皆の記憶を消すのよ。」

みのり「記憶って？」

アグリ「このカードを使うと今までハイパーショッカーに襲われた

記憶は全てなくなるさ。」

亮太「ホントに？」

モネ「本当だよ。それよりちょっと退いてね。」

そう言うと奏太達は退いた。

ハイド「（すまないが、俺達が英雄だった記憶もな……）皆、行くぞ。」

アラタ「うん。」

ガツチャ！

「メモリーフライカード、」

「メモリーベリーカード、」

ハイド「メモリーウォッシュカード、」

「天装。」

アラタ達はカードをテンソウダーに入れてから口のようなのが閉じると画面は光った。

二日が経ち、人々はハイパーショッカーの記憶やスーパー戦隊や仮面ライダー、プリキュアが英雄だった記憶は全て消えた。アラタ達は役目が終わった後、ゴセイジャーのレンジャーキーはゴーカイジャーに返し、そしてアラタ達と文瑠達、御子とアイリはマーベラス達より先に自分達の世界へ帰った。

マーベラス達は一日だけプリキュアの世界に暮らす事となり、土達とひかり達と妖精、そして湊と一緒にゴーカイガレオンに乗っていた。中を見ると、何やらパーティーをしているそうさ。

「カンパニー！」

一同はコップに入ったジュースを乾杯してから一斉に飲むと・・・

なぎさ「んゝありえないくらい最高だね！」

ほのか「そうね。私達、何も食べてなかったから。」

咲「正直辛かったよ。」（泣）

舞「私もだつたけど・・・」

ルカ「ま、よかったじゃん。食べられるもん見つけて。これ皆食べてね、あたし達の奢りだから。」

ハカセ「ちょっと何勝手に言っちゃってんの!？」

のぞみ「ワイ、やったー！」

りん「こらはしゃがない。」

うらら「カレーも美味しいです！」

こまち「どうせなら羊羹も入れて欲しかった。」

かれん「こまこまち。」

くるみ「ココ様とナッツ様はどうです？美味しいですよ」

ココ「今はいいココ。それに・・・」

ココとナッツは妖精達とナビィと一緒に遊んでいるフィニツチャを見た。

ナッツ「あのフィニツチャという妖精、何処からやって来たのか気になるナツ。」

確かにナッツの言う通り、フィニツチャという妖精は見た事がない。一体何処へやって来たと言うのか二人は聞いてみる事に・・・

ココ「フィニツチャ、君は何処からやって来たんだココ？」

フィニツチャ「うんそうだったチャね。僕ちゃんは確か・・・」

するとフィニツチャの話を聞くと妖精達とナビィは黙り始める。だが・・・

フィニツチャ「何処からやって来たのか忘れてたっチャ」

それを聞くと妖精達とナビィはずっこけた。フィニツチャは一体何処へやって来たのか分からなくなった。

ラブ「何かこれ食べてたらドーナツ食べたい気分になっちゃった」

美希「もうラブだったらどんだけ食いしん坊なのよ？」

祈里「そこはラブちゃんらしいね。」

せつな「アハハ・・・」

つぼみ「そういえばマーベラスさんと土さんとひかりさんは？」

えりか「あゝ、あの人ならゴーカイガレオンの外にいるよ。」

いつき「何か話す事があるんだって。」

ゆり「一体何なのかしら？」

その頃、マーベラスと土と海東、ひかりと歩美と湊はゴーカイガレオンの上に乗っていた。

ひかり「どうですか歩美？」

歩美「うん、気持ちいい。」

ひかり「よかった。」

マーベラス（やっぱ地球はいい星だな。俺は気に入ったぜ。）

海東「湊はどうする？」

湊「私はまだやるべき事があるの。何故なら別世界のプリキュアへ行かなくちゃね。」

海東「そうか。なら気を付けたまえ。後、母さんにもよろしくと伝えて。」

湊「ええ、大樹兄さん。」

湊の言葉で海東は少し顔が赤くなった。

士「海東、お前にも妹がいたとはな。」

海東「士だって妹がいるじゃないか。」

士「そうだったな。」

ひかり「これから歩美はどうするの?」

歩美「そうだね。私、ママがやってるタコカフェに行きたい。行ってママと一緒に働きたい。」

ひかり「あ、それはちょっと待って。(どうしよう?アカネさんに何て話したらいいのか……)」

歩美はひかりが働いているタコカフェに行った後、ひかりと一緒にタコカフェに働きたいと言うが、ひかりはアカネに何て言ったらいいのか物凄く悩んでいた。でも……

マーベラス「いいんじゃないか?それで。」

ひかり「え?」

マーベラス「無理に考えなくてもいい。人は誰だって考えもせずに行っている。考えは重要だがそこは勇気を出さねえと意味ねえぞ。」

ひかり「勇気、分かりました。」

響「お〜い！早く食べないと飯なくなるよー！」

エレン「奏のケーキもなくなっちゃうよー！」

奏「ひかりも一緒に！」

すると響達がマーベラス達を呼ぶとマーベラス達はゴークイガレオンに入った。でも湊は、海東達にこの事を黙って何処かの世界へ行った。

その頃、ビルの屋上からゴークイガレオンを見ていた五人の姿がいた。真ん中はピンク。

右側には黄色と水色のような青。

左側にはオレンジと黄緑のような緑がいた。

彼女達五人はこれからスイートプリキュアと代わり、地球を守る事になるだろう。

スーパー戦隊と仮面ライダー、プリキュアの戦いはまだ終わらない。

海賊戦隊ゴーカイジャーVSプリキュアオールスターズ2 プリキュアが敵！？世界の破壊者降臨！ 完

そして『ゴージャスジャー』第35話『とスイートプリキュア』第3
8話』に続く。

最終話：正義のヒーロー永遠に・・・（後編）（後書き）

これでこの話は完結となりますが、次はキュアフェニックスと新しい妖精フィニツチャの紹介がありますので次で完結します。

最後まで読んでくれた皆さん、本当にありがとうございます！

そしてターザンさん、夢原さん、ソラさん、ALST Gさん、本当にコラボありがとうございました！

キャラ紹介2 (前書き)

キュアフェニックスとフィニツチャの紹介です。後、『キャラ紹介』で歩美とショッカープリキュアの紹介を変えました。

キャラ紹介2

フィニツチャ

終盤で登場した妖精。不死鳥のようにぬいぐるみみたいな顔をした妖精。歩美のパートナーである。

変身時には体にはもう一つのブレスが入っており、キュアフエニツクスに変身する時はフィニツチャが必要。

この妖精は何処からやって来たのか忘れているというか自分は何処に住んでいたのか記憶が無い為、不明である。一人称は「僕ちゃん」。

フィニツチャバリア

フィニツチャが使う能力。ポプリのように羽を閉じているようなバリアであり、キュアフエニツクスをサポートする。本編では未使用。

キュアフエニツクス

九条歩美が変身するプリキュア。衣装はムーンライトに近い青い服

で足はシンデレラのような青い靴をはき、髪はシアンの色に変わると腰まで伸び、目もシアンに変わる。頭には青いハートを飾っており、服のラインにはシアンが入っている。

変身時ではフィニツチャの体からも一つのブレスが現れると右腕に装着。掛け声は『プリキュア、フェニックススパーク!』であり、左腕に付いているフェニックスチェンジャーの羽を広げてから右腕に装着したブレスから円形パーツを付いたキーをフェニックスチェンジャーにさすと、ハートの紋章が現れ、青い体に包まれる。

台詞は『青空にはばたく永遠の不死鳥、キュアフェニックス』。決め台詞は『派手に決めるわ!』

キュアフェニックスが使う武器

フェニックスブレード

キュアフェニックスが使う武器。見た目は普通だが、剣には青い寶石ダイヤが付いており、ダイヤが光る事で羽を広げ、ビームを使う事が出来る。但し、この武器を使えるのは約3分間しかない。

『奇跡よ起こせ、フェニックスブレード!』

キュアフェニックスの必殺技

プリキュア・フェニックスラッシュ

キュアフェニックスの必殺技。剣の先が青く光る事で相手を切り裂く必殺技。勿論浄化する事も可能。本編では未使用。

プリキュア・フェニックススクリュー

キュアフェニックスの必殺技。両腕を上上げる事で空から二つの青い雷が現れ、フェニックスの所へおちると体は光る。両腕を前に出す事で青いビームで敵を浄化させる。

この技は『ふたりはプリキュア』でブラックとホワイトが使った『プリキュア・マーブルスクリュー』をモチーフにしている。本編では未使用。

キャラ紹介2（後書き）

マーベラス「『ゴークイジャーVSプリキュア3』で最後の作品になってしまうのか。」

ひかり「寂しくなりましたね。」

士「ああ、そうだな。だが俺達の作品が終わっても想いは一つだ。」

マーベラス「第3弾の敵は死んだ筈のバスコだ！」

士「何故生き返ったのかは知らんがスーパー戦隊やプリキュアをコピーして召喚するそうだ。」

ひかり「でも私達は絶対に負けません！」

マーベラス「そして新しい戦隊や新しいプリキュアも登場だ！」

士「スーパー戦隊と仮面ライダー、プリキュアの戦いは遂にクライマックス。」

ひかり「皆さん、私達の応援……」

マーベラス& amp・士& amp・ひかり「『よろしくな！』（お願いします！）」「」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3772x/>

海賊戦隊ゴーカイジャーVSプリキュアオールスターズ2 プリキュアが敵！？世

2012年1月14日12時52分発行